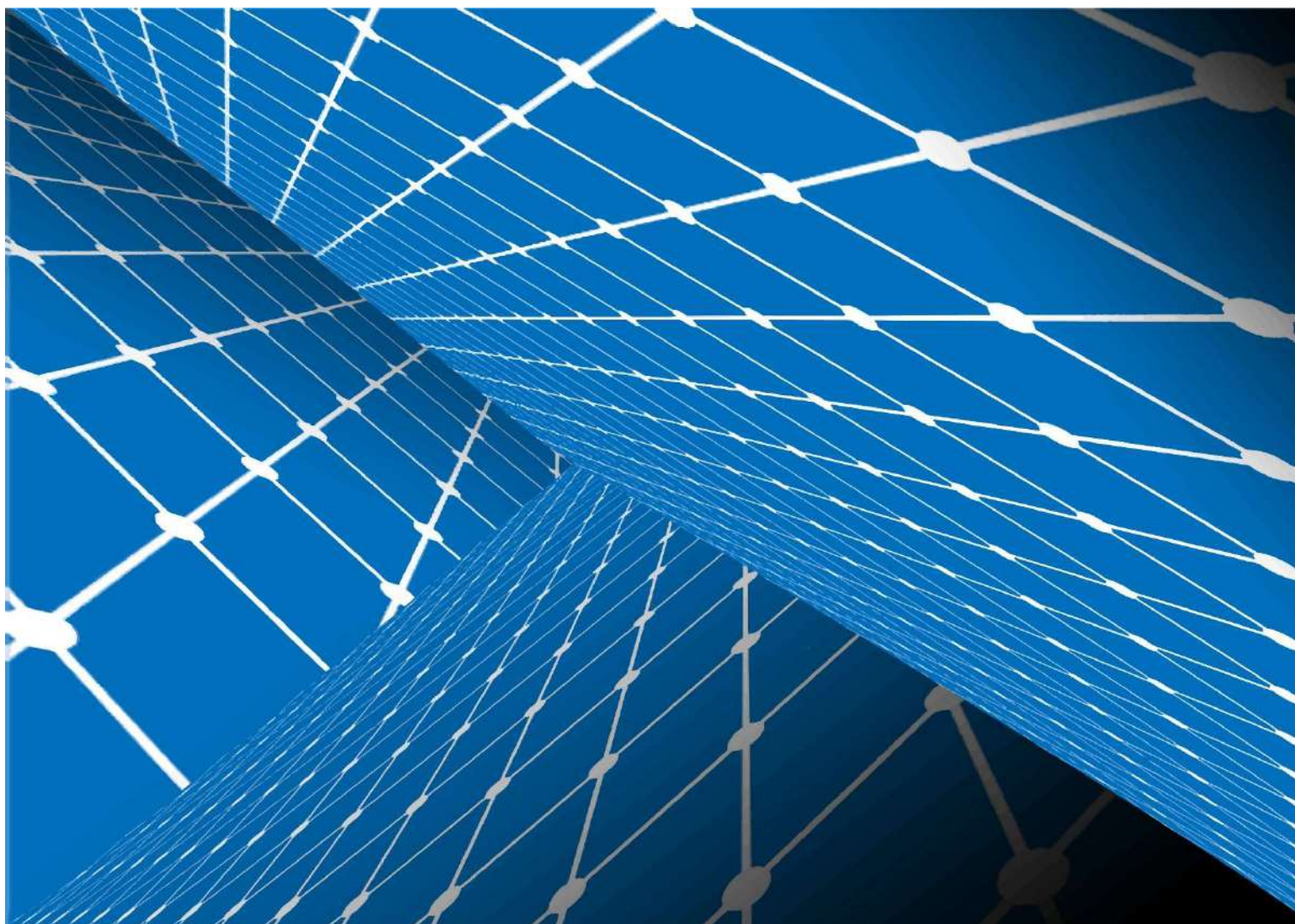


国際ロータリー第 2560 地区 2025-26 年度
ロータリー財団ハンドブック
The Rotary Foundation Handbook



2025 年 7 月版



※本書は、2025 年 7 月時点の情報をもとに作成しています。

また、内容等は随時、変更される場合があります。

目次 Contents

ロータリー財団.....	1
ロータリー財団の歴史.....	2
財務.....	3
シェアシステム.....	6
寄付.....	8
冠名基金.....	19
地区補助金.....	21
継続事業ガイドライン.....	30
グローバル補助金.....	40
ポリオプラス.....	64
ロータリーカード.....	76
認証.....	80
ロータリー平和センター.....	90
財団 Q&A.....	92
略語と用語集.....	95
申請・準備書類.....	109
資料.....	111

ロータリー財団 The Rotary Foundation

国際ロータリーのロータリー財団は、1917年(大正6年)に基金として発足し、1928年(昭和3年)国際大会でロータリー財団と名づけられました。

1931年(昭和6年)に信託組織となり、1983年(昭和58年)に米国イリノイ州の法令のもとに非営利財団法人となりました。ロータリー財団は財団の法人設立定款と細則に従って、ロータリー財団管理委員会が慈善的かつ教育的目的のためにのみ運営するものです。(「1983年財団法人設立定款の目的」より抜粋)

【財団の定義】

ロータリー財団は、ロータリークラブ、ローターアクトクラブおよび地区を通じて実施される、承認された人道的および教育的活動の支援のために寄付を受け付け、資金を配分する非営利財団である。

(財団章典 10.010 2011年9月管理委員会会合、決定8号)

【使命】

《国際ロータリーの使命》

国際ロータリーの使命は、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することである。

(2022年手続要覧、ロータリー章典 26.010.1.2009年11月理事会会合、決定42号)

《ロータリー財団の使命》

ロータリー財団の使命は、ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。

(2022年手続要覧、財団章典 10.020.2022年1月管理委員会会合、決定41号)

《ロータリー財団の標語》

「世界でよいことをしよう」(Doing of The Rotary Foundation)が、ロータリー財団の標語です。

※2015年7月～2018年末までの「財団の優先項目と目標(2015年1月管理委員会会合、決定67号)」の第4項目として決定されたもので、現在のロータリー章典から削除されているが、現在も財団のモットーとして広く使われている。

【ロータリー財団のビジョンステートメント (将来像)】

管理委員会は以下のビジョンステートメントを採択しました。

私たちは、世界で、地域社会で、自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

(財団章典 10.030.2017年9月管理委員会会合、決定12号)

ロータリー財団の歴史 History of The Rotary Foundation

ロータリー財団は、1917年、米国ジョージア州アトランタで開催された国際大会において、アーチ・C. クランフ (Arch.C.Klumph) が「全世界的な規模で慈善・教育・その他の社会奉仕の分野でよりよいことをするために基金をつくろう」と提案したことに始まりました。アーチ・クランフは6人目 (第7代) のRI会長で、ロータリー財団の父と呼ばれています。各地のロータリアンが目先の世界の出来事に目を奪われている第1次世界大戦中にアーチ・クランフの夢が提起されました。

数か月後に、この新しく誕生した基金は米国ミズーリ州カンザス・シティーRCから米貨26ドル50セントの最初の寄付金を受け取りました。

1928年ミネソタ州ミネアポリス国際大会で、この基金はロータリー財団と名づけられました。大恐慌が世界中で影響を及ぼし始めた1930年に、財団は最初の補助金を授与することができ、ロータリーの創始者、ポールハリスが名前を秘して、500米ドルを寄付し、身体障害児児童保護国際協会にその500米ドルを贈ることを要望しました。この行為はロータリー財団の歴史を振り返ると現在のポリオプラスを予感させるように思います。その後、ロータリー財団は国際ロータリー理事会の同意の下に信託宣言を作成し、1931年11月12日に信託組織になりました。この信託宣言の大意は、ロータリー財団が受け取り管理する財産およびその収益は、すべて国際ロータリーが行う活動のためにのみ支出されるというものであり、この信託宣言は今も生きています。

ちなみにロータリー財団月間は11月であるが、当初は、11月15日を含む1週間が財団週間でした。

財団月間が11月であることの理由の一端は、この信託宣言が11月であったことによるものです。

ロータリー財団月間 The Rotary Foundation Month

1964—65年度RI理事会と管理委員会は、毎年11月15日を含む1週間をロータリー財団月間とすることを決めました。その後に、1938—84年に11月をロータリー財団月間と決めました。11月には、全クラブが同時に財団月間を実施し、この月間はクラブが財団プログラムを支援、推進、参加する特別な期間です。期間中、財団の活動を広く知らせる手段として、ロータリー財団補助金受領者その他が、クラブ例会、教育機関や地域社会の会合で、ロータリー財団についての講演を実施します。

財務 Finance

「ワン・ロータリー One・Rotary」一致団結して使命を完遂しましょう。

国際ロータリーとロータリー財団は独立した法人で、それぞれ活動する国々の法律や会計基準を順守しています。しかし、理念上も、実際上も一つのロータリーとして機能しています。ロータリー会員は会費を通じて国際ロータリーを支援し、寄付を通じてロータリー財団を支援しています。

【財団資金の資金管理】

国際ロータリーのロータリー財団管理委員会は、世界中のロータリー会員から受領した資金が勤勉と献身的な支援を反映した自主的な寄付であることを認識しています。ロータリー会員がロータリー財団に寄付を託したのは、本来の目的のために有効に利用されることを確信し、理解した上でのことです。

したがって、これらの資金を管理するという職責を負うロータリー財団管理委員会は、ロータリー財団のプログラムに関連するすべての活動において適切な財務管理の重要性を強調しています。管理委員会は、寄付が本来の目的のために有効に利用されるように、プロジェクト実施に関するクラブとロータリー会員およびその他の補助金受領者の高潔性を信頼します。管理委員会は、不正を認識した場合は速やかに調査し、適切と考えられる措置を講じます。

補助金の受領者、補助金申請の提唱者、プロジェクト委員会、選考委員会、およびその他のすべての補助金関係者は以下のことを行う事が期待されています。

1. ロータリー財団補助金資金は、損失、不正使用、または流用から常に保護され、厳密に解釈されるべき本来の目的にのみ使用されるべき厳粛な信託として扱うこと。
2. ロータリー会員にも一般の人びとにも、ロータリー財団の資金が不適切な方法で使用されているように見えることさえも防止するために最大の注意を払うこと。これは民間または法人の資金の使用に払う注意を越えることが期待される。
3. 責任を明確に説明した上でプロジェクトを十分かつ徹底して監督すること。
4. 補助金に関するすべての金融取引およびプロジェクト活動は、少なくとも標準的な商取引での水準で実施し、常に「職業上のロータリアンの宣言」に沿って、四つのテストの精神に完全に忠実であること。
5. 補助金関連の活動におけるいかなる不正も直ちにロータリー財団に報告すること。
6. プロジェクトは補助金支給において管理委員会が承認した通りに実施すること。合意した条件からの逸脱またはプロジェクトの実施における変更は、ロータリー財団から事前に書面で認可を得なければならない。

7. 現行の管理委員の方針と指針に従って業績評価および／または独立財務審査の手配を行うこと。
8. プログラムと財務活動の両方について、期限内に詳細な報告書を行うこと。
9. 通知が送付されたプロジェクトの実施に関するすべての懸念事項を適切に対処する責任を負うこと。
10. 事実上の利害の対立、あるいはそのように疑われる可能性を避けるような方法で運営することにより、ロータリー財団のプログラム補助金に関する商取引において透明性を示すこと。

(財団章典 34.101.2015 年 6 月管理委員会会合、決定 146 号)

【ロータリー活動を支える基金】

- ・年次基金
- ・恒久基金
- ・ポリオプラス基金
- ・使途推奨冠名基金
- ・その他の基金

年次基金

年次基金は、ロータリー財団プログラムを支える主な資金源です。年次基金へのご寄付により、ロータリーは世界中の地域社会で、平和の推進、水と衛生状態の改善、教育の支援、地域経済の発展、母子の健康、疾病の予防や治療、環境の保護、災害救援・復興といった活動にあたっています。年次基金へのご寄付は、「シェア」、「国際財団活動資金(WF)」、「重点分野」を指定して行うことができます。

例えば、年次基金（シェア）を指定した場合、ご寄付の一部は、後にあなたの地区で利用できる地区財団活動資金(DDF)となります。地区はこれを地元のニーズに応じたプロジェクトに充てることができます。

恒久基金

恒久基金への寄付は、元金が支出されることなく、収益の一部がロータリー財団プログラムを恒久的に支えることとなります。これにより、今日のロータリーを支えると同時に、世界でよいことをするロータリーの未来を支えることができます。

なお、2025年までに恒久基金を20億2500万ドルとする寄付目標が立てられています。

ポリオプラス基金

ポリオプラス基金はポリオ根絶活動のために寄付元金を守り、維持するための基金です。

【外部評価】

ロータリー財団が16年連続で最高評価を得る

ロータリー財団は、米国の慈善団体を評価する独立評価機関であるチャリティーナビゲーターより2008年以来、16年連続で最高の4つ星評価を受けました。

今回の4つ星は、ロータリー財団が部門別のベストプラクティス（最善の方法）を実践し、財務的に効率の良い方法でその使命を遂行したこと、また、財務健全性、説明責任、透明性へのコミットメント（業務遂行の責任）を示したことが評価されたものです。チャリティーナビゲーターが評価する団体のうち、16年連続で4つ星評価を獲得した団体は、全体の1%にすぎません。



ロータリーの投資実績および財務等に関する詳しいことは、下記の「My Rotary」内にある「ロータリーの投資」や「財務」をご参照ください。

記

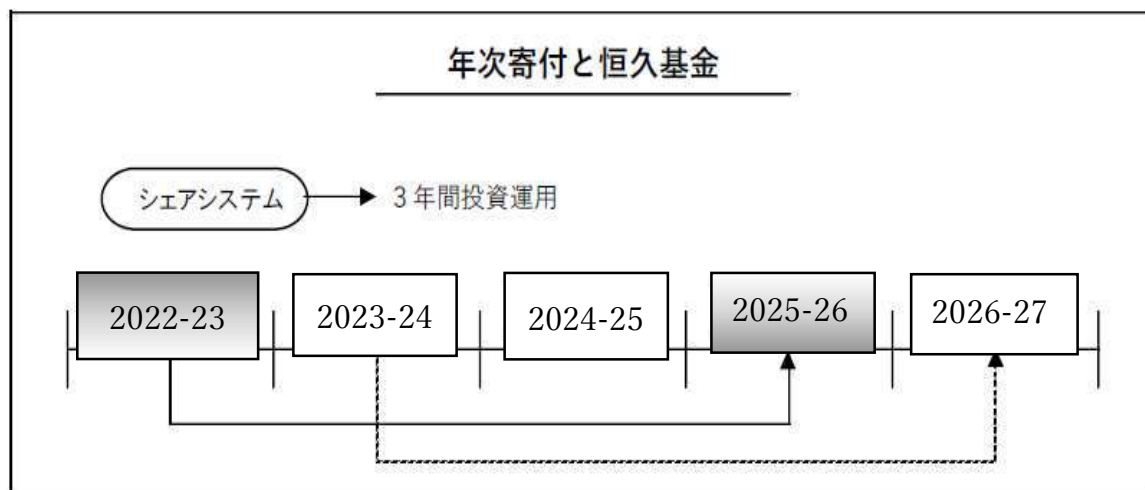
投資関係：<https://www.rotary.org/ja/rotary-investments>

財務関係：<https://www.rotary.org/ja/annual-report-2023>

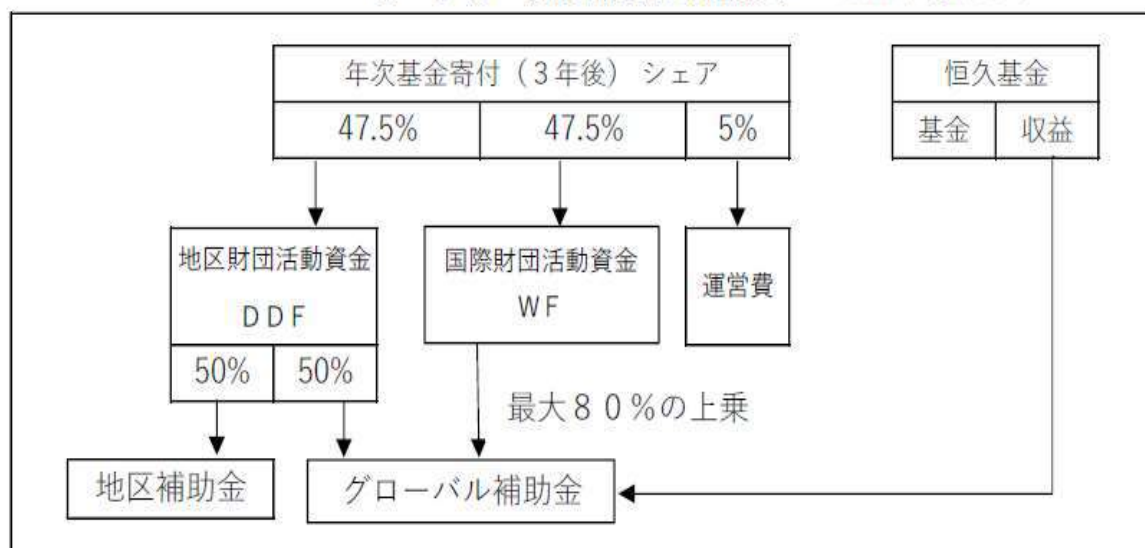
シェアシステム Share System of The Rotary Foundation

財団では、地区が十分な時間をかけてプロジェクトを計画・選択できるように、また、投資収益を運営益（寄付推進費と一般管理運営費）に充てることができるように計画された3年間の資金サイクルを採用しています。

ロータリー財団年次寄付の地区への還元



ロータリー財団補助金の仕組み 2021年7月1日より



【寄付の種類によって使われ方が違う】

- ① 年次寄付金は3年間、資金として運用し、その運用益は財団の運営費に使われます。元金は3年後、財団の運営費（5%）を除き地区財団活動資金(DDF)、および国際財団活動資金(WF)として47.5%ずつ戻される。これがシェアシステムと呼ばれるものです。

- ② 恒久基金は元金を使いません。運用益のみを地区と財団で使われます。
- ③ ポリオプラスやロータリー平和フェローシップおよびロータリーの重点分野等に対する寄付に指定した寄付金は、指定されたポリオ根絶のためやフェローシップ支援および指定された重点分野等によりのみ全額が使われます。
- ④ グローバル補助金へのクラブからの寄付金は、指定されたグローバル補助金プロジェクトに使われます。

【地区補助金とグローバル補助金の仕組み】

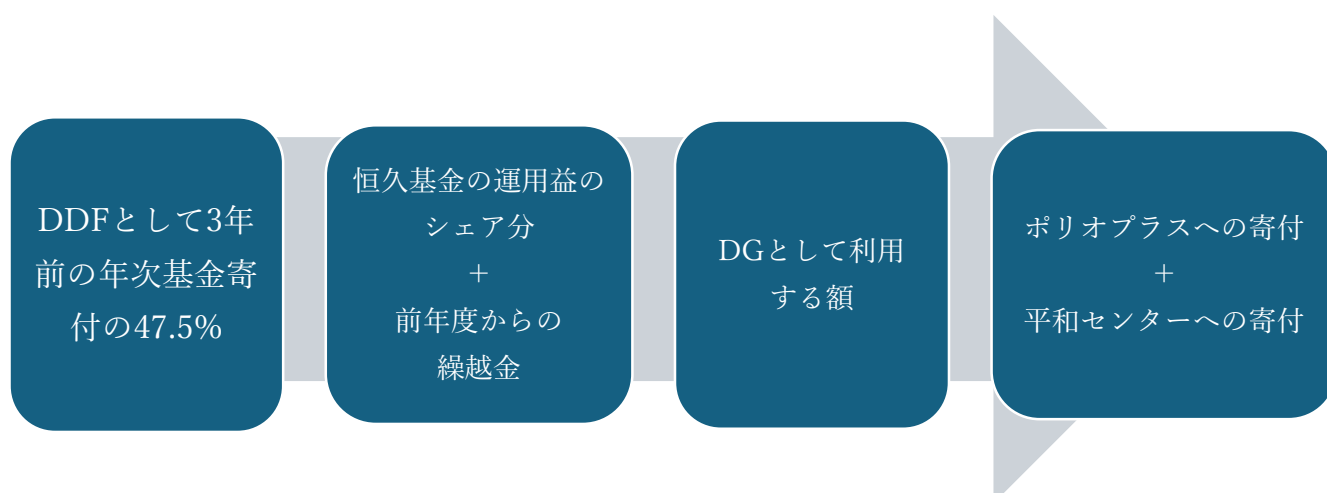
①3年前の年次寄付の47.5%がDDF（地区財団活動資金）として、地区にその配分が任されます。そのDDFの50%を上限として、地区補助金（DG）に使うことができます。（実際には、恒久基金の運用益の一部も加算されます）。この金額内で、各クラブから申請のあったプロジェクトに配分していきます。

<例>

例えば、3年前の年次基金寄付が8,000ドルだとしたら…。



②3年前の年次基金と恒久基金の運用益の47.5%、前年度未使用金、前年度DG未使用金の合計額がDDFの総額となります。そして、その総額の50%が地区補助金（DG）使用可能額となり、地区奉仕プロジェクトや地区奨学金、補助金管理セミナー、財団管理費などに利用され、その他の金額がグローバル補助金、寄贈としてロータリー平和センター、ポリオプラスへ配分します。



寄付 Contribution

ロータリー会員はポリオ根絶活動やロータリー平和センター、重点分野の支援などさまざまな活動を通じて、世界をより良い場所にするため、世界各地で活躍しています。このような活動と寄付はいわば車の両輪のようなもので、どちらが欠けていても先には進みません。また、会員からの寄付に対して、感謝の気持ちを表すために、ロータリー財団はさまざまな認証の機会が用意されています。寄付者と分かるように着用できるピンなどが贈られ、寄付額は年々累計し算出されます。

なお、各種寄付は My ROTARY よりクレジットカードを利用した寄付とクラブ経由での寄付ができます。いずれも公益財団法人ロータリー日本財団を通してのロータリー財団への寄付に対して日本の法律に基づく税制上の優遇措置の対象となります。

室賀年度寄付目標（財団関係寄付 抜粋）

- ロータリー財団年次基金 1人 150ドル×会員数
- ポリオプラス基金への寄付 1人 30ドル×会員数
- 年次基金およびポリオプラス基金 ゼロクラブゼロの達成
- 恒久基金への寄付 ベネファクター新規認証者 1,000ドル以上×10名以上
- ポール・ハリス・フェロー 新規累計額 1,000ドル以上×1クラブ1名以上
- ポール・ハリス・ソサエティー 新規認定者 10名以上
- ポリオ・プラス・ソサエティー 新規認定者 1クラブ1名以上

年次基金への寄付入金について（お願い）

年次基金ゼロクラブゼロを達成するために、地区財団委員会では各クラブに対し、ファンドレイジング（寄付増進）活動を重点的に展開しています。

寄付行為はロータリーの文化であり、奉仕活動の大切なソース（資金）ですのでご理解ご協力をお願い申し上げます。なお、クラブ年次基金の入金は、随時受付をしておりますが、可能であれば**12月3日の「ギビングチューズデー」**

（寄付の火曜日）や遅くとも**5月31日**までに当該年度の寄付入金をお願いいたします。なお、ご寄付がレポートに反映されるまで銀行振込の場合は3週間ほどかかります。

※会員お一人でも年次基金にご寄付いただいたロータリークラブは、ゼロクラブの対象でなくなります。

※年次基金は、シェアだけでなく WF（World Fund/国際財団資金）や重点分野（Areas of Focus）もお選びいただけます。

※ローターアクトクラブはカウントに含まれません。

【公益財団法人ローリー日本財団】

公益財団法人ロータリー日本財団は日本の法律に従って設立された公益財団法人であり、この法人を通じてロータリー財団に寄付すると、日本の税制上の優遇措置を受けることができます。この財団はロータリーの奉仕の理念に基づき、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることを目的としています。公益財団法人ロータリー日本財団は、国際ロータリーのロータリー財団の協力財団です。2009年6月11日に一般社団法人として設立され、2010年12月24日、公益財団法人および公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年度法律第49号）第4条に基づき、内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受けました。

【税制上の優遇措置】

公益財団法人ロータリー日本財団への個人、法人からの寄付は、公益目的事業を支援するために支出された「特定公益増進法人」への寄付金として取り扱われ、税制上の優遇措置の対象となります。個人の寄附金に対する優遇措置は、「所得控除」または「税額控除」のいずれかを選択することが出来ます。「税額控除」を受けるためには、確定申告の際「領収証」のほかに、「税額控除に係る証明書」の提出が必要となります。証明書は領収証の裏面に印刷してあります。なお、特定公益増進法人であることの証明書は必要ありません。

寄附金控除の制度、確定申告の手続等につきましては、国税局のホームページ（個人・法人）、または最寄りの税務署にお問い合わせください。

よくある質問

- 確定申告用領収証はいつ届きますか
 - 個人寄付金の領収証は、7月から12月までの寄付については、翌年1月末頃、1月から6月までの寄付については、同年7月末頃に送付いたします。
 - 法人による寄付の領収証は、寄付から約1ヶ月程度で送付いたします。
 - ロータリー会員の方、クラブを通じてご送金した法人のご寄付については、ご所属のクラブに送付させていただきます。
 - 遺贈寄付についての領収証は、随時対応いたします。
- 確定申告で必要な証明書はどこにありますか
 - 「税額控除」をお受けいただくには、「領収証」と領収証の裏面に印刷しております「税額控除に係る証明書」の提出が必要です。特定公益増進法人であることの証明書は必要ありません。
- 住民税の対象になりますか
 - 一部の都道府県・市区町村では条例の指定により、個人住民税の税額控除が受けられます。条例での指定については、お住いの都道府県、市区町村の徴税窓口にご直接お問合せ下さい。なお、当法人の事務局は港区三田の1か所のみです。

- 税制上の優遇措置についての詳細はどこで分かりますか
寄付金控除の制度、確定申告の手続等につきましては、国税庁のホームページ 公益法人等への寄附（個人・法人）をご参照ください。あるいは最寄りの税務署にお問い合わせいただくようお願いいたします。
- 遺贈寄付に関する税の優遇措置について教えてください
 - 相続財産からのご寄付
個人の遺産の一部をご寄付いただいた場合、相続税の申告（相続開始から 10 カ月以内）をしていただければ、その寄付した財産に対しての相続税はかかりません。
相続財産からのご寄付である旨をお知らせください。
 - 遺言によるご寄付
被相続人の準確定申告で、所得税の寄付金控除を受けることができます。（相続開始から 4 カ月以内）公益財団法人ロータリー日本財団への遺贈には相続税はかかりません。

【寄付の方法について】

- ・銀行振込による寄付
- ・My ROTARY からのオンラインによる寄付 ※クレジット決済
- ・米ドルでの寄付があります。

【銀行振込による寄付の流れ】

① 寄付分類を決める

先に、寄付者が何に対して寄付をしたいのか、寄付分類（寄付の用途）を決めます。寄付者が特に支援したい分類、あるいはクラブや地区の目標に合わせるなどして決定します。ポール・ハリス・フェローやベネファクターなどの希望の認証がある場合は、寄付分類がどの認証に対応しているかも確認します。

② 寄付者を確認する

寄付者は、個人、法人、ロータリークラブ、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、地区のいずれかをお願いします。個人の認証やバナー認証の目標などを確認し、寄付送金明細書の寄付者欄に記入する名義を決めてください。確定申告用の領収書は、記入された ID 番号に基づき、個人と法人向けに送金明細書に記入した名義で発行されますのでご注意ください。

※初回寄付の際に報告いただいた漢字表記で領収証を発行します。

③ 寄付送金明細書を記入する

次に、寄付送金明細書に必要な事項を正確に記入し、お振込みの前または当日までに kifu@rotary.org へメールにて送ってください。その際のメールの件名には「クラブ名」を必ずご記入ください。（メールが使えない場合は、FAX でも可）。

※寄付送金明細書は、エクセル形式のままで送ってください。

※4月、5月はゴールデンウィークの影響もあり通常より業務日が少ないため、寄付送金明細書の速やかなご送付にご協力をお願いいたします。

※オンライン寄付（クレジットカード決済）の場合は、寄付送金明細書の送付は不要です。

④ 寄付金を指定の口座に送金する

寄付送金明細書を送った後、以下の口座へ寄付金を送金します。

三井住友銀行 赤羽支店 普通預金 3978101

名義：公益財団法人ロータリー日本財団

※振込先は寄付金明細書上部にも記載されています。

【寄付送金明細書】

ロータリー財団への寄付は、公益財団法人ロータリー日本財団を通じて送金することができます。寄付送金明細書は、銀行振込で寄付する際に送る書類です。

※本書式は、なるべくエクセルファイルのままメールに添付して送ってください。

寄付送金明細書の入手方法

寄付送金明細書のダウンロードは、My ROTARY より可能です。My ROTARY にログイン後、トップ画面の右上「ご寄付」をクリック→ページ最下部「寄付資料」の中の「ロータリー日本財団 寄付送金明細書（ロータリーアン/クラブ用）」をクリックすると、ダウンロードが始まります。

○寄付金明細書（ロータリーアン/クラブ用）（Excel ファイル）

<https://my.rotary.org/ja/document/piif-contribution-form-rotarians-clubs>

なお、送金明細書の具体的な記入は「寄付と認証の手引き」を参照ください。

○寄付に関するお問い合わせ先：日本事務局経理室 rijpnfs@rotary.org

A

公益財団法人 ロータリー日本財団
寄付送金明細書(振込専用)

TEL: 03-5439-5806
FAX: 03-5439-0405

振込先: 三井住友銀行 赤羽支店 普通預金 3978101 名義: 公益財団法人ロータリー日本財団
送金明細書送付先: kifu@rotary.org エクセルデータのままメールに添付し、送金日までにお送りください

通信欄: ①

一括1万ドル以上の大口寄付について寄付者名を公表することがあります。希望されない場合は次の□に✓をお願いします。

☐ 公表しないで下さい。(寄付者名) _____

* ご記入いただいた個人情報は、[ロータリーのプライバシー方針](#)に従い、内容についての連絡、領収証の発送、寄付の記録や推進等に使用させていただきます。

* 自動計算で表示される箇所 ←この色がついている箇所は数式により自動計算されるため、入力不要です。合計額等が表示されますので、入力内容に誤りが無いかご確認ください。

②

着金日のRILレートが適用されます

送金情報	送金(予定)日	振込元 金融機関 支店名		送金額	RILレート	
				¥0		
	地区番号	クラブ番号	クラブ名	担当者名	TEL	
	③ 寄付者名 (領収証名)	ローマ字 ④	ID番号 ⑤	寄付分類 ⑥ ▼で選択	円金額 ⑦ 合計 ¥0	⑧ \$金額 (自動計算)
1						
2						

送金明細書の記入の注意点

NO.	項目	内容
①	通信欄	<ul style="list-style-type: none"> ・特記すべき事項を記入してください。 ・振込名義 ・振込、領収証、認証品等に関する連絡事項 ・法人名義漢字表記の修正・変更の依頼 ・メモリアルコントリビューションの情報 ・お礼状の送付先など
②	送金情報	<ul style="list-style-type: none"> ・TEL は日中連絡が取れる番号を入力してください ・送金額と寄付金送金明細書の日本円の合計額が一致していることを確認してください ・レートは数字のみだけを記入してください。(入力例): \$1=¥150 の場合「150」と記入してください ・RL レートはウェブサイトを参照ください: <https://my.rotary.org/ja/exchange-rates>

③	寄付者名	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付者名義を正確に記入してください ・初回の表記が確定申告用領収証作成のデータになりますので正確に記入してください（入力例）：株式会社と(株)、高橋と高橋、寿と壽など ・領収証の再発行はできません ・寄付歴のある方のお名前の変更は「通信欄」にて知らせてください。また、寄付者の漢字表記に修正・変更がある場合は、My ROTARY の会員情報を確認し、手続きをしてください。 ・法人寄付の場合は寄付者名には法人名を入力してください。会員名を入力すると個人の寄付・領収証の発行となります。なお、法人寄付はポール・ハリス・フェローなどの個人の認証や累計になりません。
④	ローマ字名	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の登録情報とおりに入力。法人の場合も正確な英語表記が必要です ・一字でも登録と違うと別人とみなされることがあります。（入力例：Sato と Satou など）③正式名称・スペルは本人や会社に確認してください ・会社の英語表記がない場合は、文字数が少なくなるように略称を使ってください。（入力例：「Kabushiki-Kaisha」→「CO.」「K.K.」など）
⑤	ID 番号	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付者の ID 番号を漏れなく入力してください ・新入会員は先に My ROTARY から ID を取得してください ・新規の場合はパスポートのスペルを推奨しています ・ID 番号と名前が一致しない場合、データ処理上 ID 番号所有者の寄付となることがあります
⑥	寄付分類	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付分類を▼でリストから選択してください ・グローバル補助金や冠名基金へのご寄付は、番号をご記入ください ・ポール・ハリス・フェロー等の認証名は記入しないでください ・入力がない場合は、年次基金－シェアとする場合があります ・詳細は「寄付分類」シートを参照してください （入力例 よい例：年次基金－シェア、恒久基金－シェア、ポリオプラス基金、恒久基金ロータリー平和センター（基金指定なし）、冠名基金（E98765）など）（悪い

		例：ベネファクター、ポール・ハリス・フェロー、ポール・ハリス・ソサエティーなど)
⑦	円金額	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付者、寄付分類ごとに1行使い、円金額を記入します。なお、経費負担を軽減するため、できる限り一口2千円以上でお願いいたします ・グローバル補助金の現金拠出は、5%の追加分も合わせて送金してください
⑧	\$ 金額	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン入力の場合、RI レートと円金額の入力で自動計算されます ・手書きの場合は、小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入してください ・データ処理上、レートにより、数セント単位の誤差が生じる場合があります

【オンラインでの寄付】

My ROTARY にログイン後、下記ウェブページ内の「ご寄付」ボタンから手続き画面に進んでください。お手続きが完了すると確認メールが届きます。必ず確認をし、保管してください。

【米ドルでの寄付】

①事前に日本事務局まで連絡し、専用の寄付送金明細書を受け取ってください。

②専用の寄付送金明細書に必要な事項を記入し、返送してください。

③書留（簡易書留も可）か銀行振込にて送金してください。

※銀行振込の場合、手数料が高くなる場合があります。手数料は送金者負担となりますので、ご注意ください。また、銀行によって、米ドルの取り扱いの有無や手数料等は異なります。

※米ドルでの寄付は、送金先がロータリー財団となりますので、税制上の優遇措置は受けられません。

【ファンドレイジング】

ロータリー会員が、誕生日や記念日、または世界ポリオデーなどの特別な行事に合わせてファンドレイジングを立ち上げましょう。2020—21年度より、新しいデジタルツール「Raise for Rotary」（「ロータリーの募金」）が導入されました。

—プロジェクトの資金集め（募金活動）—

プロジェクト実施に必要な資金が足りないなどのクラブは、チャリティーディナー、ウォーキング大会、オークションなど、さまざまな工夫を凝らした募金活動で資金

を調達できるかもしれません。これらのイベントは、資金を集めるだけでなく、人々にロータリーを知っていただくチャンスです。

募金のアイデアを以下にいくつかご紹介します。

- ・定期的に食事なしの例会を行い、節約した費用を寄付
- ・ウォーキング大会、自転車レース、ミニマラソン大会
- ・家族や大切な人の名前での記念寄付や追悼寄付
- ・ポリオ撲滅のための街頭募金。(例えば、ポリオ予防接種を受けた子どもと同じように) 寄付をしてくれた人の小指に紫のインクをつけ、根絶活動への意識を高める「パープルピンキー募金キャンペーン」など。

【ローターアクト寄付達成証】

ロータリー財団に 100 米ドル以上を寄付したローターアクトクラブは寄付達成証が贈られます。

【財団認証ポイントについて】

認証ポイントは年次基金、ポリオプラス基金、災害救援基金、または承認されたグローバル補助金に、ロータリー財団を通じて寄付した人に対して、1 ドルにつき 1 ポイント与えられます。なお、恒久基金への寄付はポイントになりません。

なお、ポイントについての詳細は My Rotary の「財団認証ポイントについて」をご確認ください。

【ポール・ハリス・フェローの認証ポイントの使用申請】

ポール・ハリス・フェロー認証ポイント使用申請書の送付先は RIJPNTRF@rotary.org です。

【2025-26 年度 ロータリー財団 世界の目標】

年次基金	1 億 5000 万ドル
恒久基金	6,000 万ドル
ポリオプラス基金	1 億 3500 万ドル
その他 ※	6,000 万ドル
現金寄付合計	4 億 500 万ドル
恒久基金への新たな誓約合計	8,000 万ドル

ポリオプラスへの繰入 ※※	1,500 万ドル
すべての合計	5 億ドル

※グローバル補助金への現金寄付、冠名指定寄付、ロータリー災害救援基金、使途推奨冠名基金への寄付を含む。

※※地区財団活動資金の繰入およびその成果としての国際財団活動資金からのポリオプラスへの上乗せ、提携クレジットカードのロイヤリティ、使途推奨冠名基金のポリオプラスへの繰入。

【参考】

2023-24 年度公益財団法人ロータリー日本財団で受領した寄付

寄付総額 24 億 1,940 万 4,059 円(前年対比 109.46%)

年次基金 16 億 899 万 1,690 円(前年対比 102.45%)

恒久基金 合計累積額 17 億 7,180 万ドル (2024/7/31 現在)

※恒久基金目標…2025 年までに 20 億 2500 万ドル

【寄付分類と認証 関係表】

寄付分類	寄付分類の詳細 用語説明が下にあります。 ※周年行事名や、ポール・ハリス・フェローなどの認証名は寄付分類ではありませんので入力しないでください。	MD/AKS	ベネファク ター	PHF/ MPHF/ PHS	RFSM/ 年次基金寄付 ゼロクラブ
年次基金-シェア	寄付金は3年後に、シェアシステムを通じて、利用されます。		× 対象外	○ 対象	○ 対象
恒久基金-シェア	元金はそのままに利用可能な収益が、シェアシステムを通じて、利用されます。		○ 対象	× 対象外	
ポリオプラス	ポリオ根絶活動を支援します。				
グローバル補助金(GG)	指定したグローバル補助金に使われます。 グローバル補助金への現金拠出の際には、ここに「GG」から始まる補助金番号を入力してください。		× 対象外	○ 対象	× 対象外
冠名基金(E)	恒久基金25,000ドル以上のご寄付で冠名基金を設立できます。 元金はそのままに利用可能な収益が、指定した使途利用されます。 冠名基金への寄付を開始する前に、同意書を交わす必要があります。 設立済みの基金への追加は、Eで始まる基金番号を記入してください。		○ 対象	× 対象外	
年次基金-基本的教育と識字率向上	寄付金は3年後に、指定した重点分野のプロジェクトに使われます。	○ 対象	× 対象外	○ 対象	○ 対象
年次基金-疾病予防と治療					
年次基金-地域社会の経済発展					
年次基金-母子の健康					
年次基金-平和構築と紛争予防					
年次基金-水と衛生					
年次基金-環境					
年次基金-国際財団活動資金(WF)	寄付金は、WFを通じて利用されます。				
恒久基金-ロータリー平和センター(基金指定なし)	元金はそのままに利用可能な収益が、ロータリー平和センタープログラムに使用されます。				
恒久基金-基本的教育と識字率向上	元金はそのままに利用可能な収益が、指定した重点分野のプロジェクトに使われます。	○ 対象	○ 対象	× 対象外	× 対象外
恒久基金-疾病予防と治療					
恒久基金-地域社会の経済発展					
恒久基金-母子の健康					
恒久基金-平和構築と紛争予防					
恒久基金-水と衛生					
恒久基金-環境					
恒久基金-国際財団活動資金(WF)	元金はそのままに利用可能な収益が、WFを通じて利用されます。				
冠名指定寄付(T)	一括15,000ドルまたは30,000ドル以上で、寄付は金額指定したプロジェクトに使われます。 プロジェクトに寄付者の名前を付けることができます。				
ロータリー災害救援基金(一般)	寄付金は、ロータリー災害救援補助金を通じて利用されます。特定の災害を指定して寄付をすることはできません。		× 対象外	○ 対象	
その他()	上記寄付分類に当てはまらない場合、入力してください。	-	-	-	-

参考 用語	認証略語
<シェアシステム> 寄付金を、DDF(地区財団活動資金)とWF(国際財団活動資金)にシェアして利用する方法。DDFは地区の裁量で、WFは管理委員会の裁量で、ロータリーの活動を通じて世界のために活用されます。なお、寄付の5%は運営費となります。	<RFSM> 財団の友会員 <PHF> ポール・ハリス・フェロー <MPHF> マルチプル・ポール・ハリス・フェロー <PHS> ポール・ハリス・ソサエティ 会員 <MD> メジャードナー <AKS> アーチ・クランフ・ソサエティ

<国際財団活動資金 (WF)> WFへの寄付は、承認された補助金やその他の財団活動のために役立てられます。財団の管理委員会によって管理され、グローバル補助金として財団から上乗せで支給される補助金となります。
<地区財団活動資金 (DDF)> 地区はDDFを、地区補助金、グローバル補助金、寄附に利用できます。
<大口寄付> 一括1万ドル以上の寄付。 寄付分類は寄付者のご希望に沿ってご指定ください。
<記念寄付、追悼寄付(メモリアルコントリビューション)> 誕生日や結婚記念日などを記念して、あるいは、家族や友人の追悼として、気持ちを形にしたいためのオンラインでのみできるご寄付です。

寄付分類と認証についての質問や、冠名基金に関するご相談は財団室までお知らせください。RJPNTRF@rotary.org/03-5439-5805

《参考》

【財団資金の資金管理 資金管理:ロータリー財団章典第3章第34条 34.010.】

国際ロータリーのロータリー財団管理委員会は、世界中のロータリアンから受領した資金が勤勉と献身的な支援を反映した自主的な寄付であることを認識している。ロータリアンがロータリー財団に寄付を託したのは、本来の目的のために有効に利用されることを確信し、理解したうえでのことである。 —以下省略—

【ロータリー財団への義務的寄付の禁止 新会員:ロータリー章典第2章第5条 5.020.2.】

ロータリー財団は、自発的寄付を原則として発展してきた。財団への寄付を会員の資格条件としてはならず、これを資格条件として言及するいかなる文も、会員入会申込用紙に記載してはならない。クラブが財団への寄付を会員資格とするような細則を制定することは禁じられている。会員証にこのような寄付について言及することは、一切認められない。

(2004年11月理事会会合、決定59号)

【寄付の目標額の設定 ロータリアンへの財団年次寄付の奨励 財務:ロータリー財団章典第5章第50条 50.020.】

クラブと地区はロータリー財団への継続的な年次寄付を推進する取り組みの立ち上げやプログラムの採用を奨励されている。適切であれば、クラブと地区はロータリー財団支援の成功の測定基準として「一人当たりの寄付」を活用するよう奨励されている。

(2000年4月管理委員会会合、決定126号)

【DDFの寄贈】

ポリオプラス基金にDDF(地区財団活動資金)を寄贈すると国際財団活動資金(WF)から半額の組み合わせがあり、その合計にゲイツ財団から2倍の上乗せがあります。

例: DDF2+WF1+ゲイツ6=9

※WFからの組合せ上限は500万ドル、ゲイツ財団からの上乗せ対象は上限5,000万ドルです。

2024-25年度も当地区は年次基金寄付ゼロクラブゼロを達成いたしました。地区すべての会員に心より感謝申し上げます。

〈寄付・認証についてのお問い合わせ先〉

国際ロータリー日本事務局 財団室

E-mail: rijpntrf@rotary.org / Fax: 03-5439-0405

電話番号: 03-5439-5805

冠名基金 一水と衛生ー Named Endowed Fund —Water, Sanitation, and Hygiene—

2024-25 南雲ガバナ一年度において、ロータリー財団重点分野の一つである「水と衛生」分野を支援するグローバル補助金の地区冠名基金を設立しました。設置された基金の運用益は分野におけるロータリー財団の目標達成のために使用されます。会員による基金へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

■「水と衛生」分野におけるロータリー財団の目標

ロータリーのアプローチは、2030 年までにすべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保するという国連の「持続可能な開発目標」の目標 6 に沿うものです。ロータリーでは、次のような方法でこれを支援します。

- ・安全で手頃な価格の飲み水をすべての人が公平に利用できるようにするための改善。
- ・地表水および地下水の水源の保護と維持、汚染および汚染物質の削減、気候レジリエンス（回復力）のあるインフラの建設、廃水再利用の推進による水質と安全性の改善。
- ・衛生的な方法で排便が処理される地域社会の達成を目的とする、改善された衛生と水管理の公共サービスのすべての人による公平なアクセス改善。
- ・疾病の蔓延を防ぎ、サービスを持続させるための、地域社会の人びとの衛生に関する知識、行動様式、習慣の改善。
- ・持続可能な水・衛生サービスの開発、財務、維持ができるようにするための、政府、諸機関、地域社会の能力強化。
- ・水と衛生に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための大学院レベルの奨学金支援。

なお、「水と衛生 (Water, Sanitation, and Hygiene)」での「Water」、「Sanitation」、「Hygiene」については次の通り。

- ・「Water」：すべての人が個人的および家庭的に水を使用するために、安全に・十分に・満足に、物理的にアクセス可能で安価な水を得る権利があること。
- ・「Sanitation」：排泄物と人が接触しないよう衛生的に分離するなど人の排泄物を安全に管理するための施設やサービス等の提供・整備、排水や汚物等の安全な処分、再利用、扱いなども含まれる。
- ・「Hygiene」：健康を維持し、病気の蔓延等を防ぐための条件と習慣のことで、石鹸をつかった手洗いや月経衛生管理、食品衛生などの行動、ふるまいについて。

■寄贈先：District2560 Water, Sanitation, and Hygiene
Fund DDF (E21815) (Program Year 2025)

■日本の冠名基金設立数 281 基金 (2025 年 6 月現在)

■参考リンク（外部リンク）

『水と衛生』分野のグローバル補助金 授与のガイド
My ROTARY より検索可能

『水と衛生に対する人権』

UN position of Water and Sanitation:

<https://www.unwater.org/water-facts/human-rights-water-and-sanitation>

『WASH — 水と衛生』

UN position on Hygiene:

<https://www.unwater.org/water-facts/wash-water-sanitation-and-hygiene>

（画面右上で言語変更可能）

地区補助金 District Grants

地区補助金は、地元や世界各地の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期間な活動を支援します。これらの活動は、ロータリーの会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるよう支援するというロータリー財団の使命に沿うものです。どの活動を支援するかは地区が決定し、地区は地区内の個別プロジェクトを一括してロータリー財団に申請します。

【地区補助金の事業スキーム】



※1年目の確定額は地区全体で利用できる金額です。

地区補助金の事業スキームは2年度制

【計画年度・実行年度】

補助金によって実施するプロジェクトは、2年目に会長エレクトを中心に事業を立案し、3年目の会長年度に実施します。

【地区補助金の概要】

項 目	内 容
対象の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・人道的プロジェクト（奉仕活動を行うための現地への渡航や災害復興活動など） ・奨学金 ・青少年プログラム（ロータリー青少年交換、ロータリー青少年指導者育成プログラム[RYLA]、ロータアクト、インターアクト等） ・専門職業をもつ人びとからなる職業研修チームの派遣(現地の人びとに職業研修を行うチーム、または現地で職業スキルを学ぶチーム) <p>上記のプロジェクトを代表提唱者として、年度内 1 クラブ 1 申請とします。ただし、補助金利用可能額が 1 クラブ 1 万ドル以上の場合に限り、2 つのプロジェクト申請が可能です。また、プロジェクトの実施は原則 1 年以内（なるべく 5 月 31 日迄）に終了してください。</p>
地区支給総額	<p>地区は地区財団活動資金（DDF）の 50 %までを地区補助金として毎年申請できます。なお、この 50 %は、3 年前に地区が年次基金に寄付した額および恒久基金への寄付の投資収益によって生まれた DDF を基に計算されます。</p> <p>（ロータリー財団より地区に一括して補助金を支払われた後に、所定の手続きを経た後に、地区がクラブに資金を支給します）</p>
クラブへの支給額	<p>各クラブへの支給可能限度額は 3 年前にクラブから寄付された年次基金の 25 %を限度として支給します。なお、補助金申込や地区財団活動資金の予算状況、ロータリーレートの変動などの諸条件により支給予定額が増減する場合があることをご了承ください。減額の場合は、クラブの拠出金などからの充当となります。</p>
参加資格	<p>クラブは地区補助金の申請に先だって、クラブが地区から認定を受けるため、会長と会長エレクトが以下を行う必要があります。</p> <p>A) 「クラブの覚書(MOU)」に同意すること。</p> <p>B) 地区が実施する「補助金管理セミナー」に、クラブから少なくとも 1 名の会員が出席する。なお、クラブ所属の地区役員のセミナー出席は要件に該当しません。</p> <p>C) 地区が独自に設けている要件への同意をいただきます。</p>
地区補助金申請締切日	<p>4 月 15 日までに申請してください。なお、締切日を過ぎた場合は、原則申請を受理しない場合があります。</p>
申請報告方法	<p>「地区補助金申請・報告システム」にて申請してください。</p>

【地区の覚書 MOU】

- ① MOU は地区補助金を適正に使用することを確約する覚書です。
- ② MOU の提出にあたっては、この MOU を熟読し、その内容を理解した上で署名して定められた期日までに提出する必要があります。
- ③ MOU は、提出時のクラブ会長および会長エレクトが署名します。なお、提出時に会長エレクトが決定されていない場合は、後日補完することができますが、補助金申請時までには補完しなければなりません。
- ④ MOU は指定の用紙を提出していただきます。提出方法は原本 1 部を地区事務所に送付してください。
- ⑤ MOU 未提出の場合、補助金申請および受領資格がないクラブとなりますのでご承知置きください。よって、他地区からのグローバル補助金（GG）の申し入れの受理、奨学生のための補助金申請はできません。

【地区補助金審査要項】

〈地区における地区補助金審査基準の原則について〉

申請される様々なプロジェクトに対して、すべてのケースに対応したルールを明文化することは極めて難しいため、基本的には「授与と受諾の条件」を適用し、カバーしきれない事項については人道性、公益性、教育性、ロータリーの公共イメージの向上や活性化に繋がる等々の観点から厳格にプロジェクトを審査します。よって、互いにロータリアンとしての善意、友情、そして良識で臨機応変に対処し、透明性の維持に努めます。

第 2 5 6 0 地区の地区補助金(DG)を利用する場合、下記の審査基準および制約事項をご確認ください。

記

◎基本審査基準

- ① 奉仕プロジェクトの妥当性(受益地域社会の意向・人道性・教育性)
 - ② 申請書の申請内容の妥当性(記述内容・署名)
 - ③ 見積書等の妥当性(必要に応じてカタログ写真など添付)
 - ④ プロジェクトの総額と申請書類の妥当性
 - ⑤ 申請クラブの会員の参加程度(ロータリアンの積極的参加)
 - ⑥ 寄贈品等、物品目録の帰属先の特定とメンテナンス責任者の特定
 - ⑦ 実施時期の特定
-

◎制約事項(地区補助金が不適格とされる事項)

制約事項は次の2つの基準で判断する。

- A) ロータリー財団『授与と受諾の条件』による制約事項
- B) 地区裁量による制約事項

A) ロータリー財団「授与と受諾の条件」の制約事項―抜粋―

- ① 特定の人、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援を行うこと
- ② 募金活動
- ③ 補助金が承認される前に発生した費用、または進行中もしくはすでに完了した活動
- ④ 土地や建物の購入
- ⑤ 地区大会・研究会・設立記念式典、娯楽イベント、プロジェクトでの式典などのロータリー行事に関連する経費
- ⑥ 広報的な取り組み(プロジェクトの完了に不可欠な場合を除く)
- ⑦ 1,000ドルを超えるプロジェクトの標識(看板・プレート)
- ⑧ 他団体の運営費、管理費、間接プログラムの経費
- ⑨ 特定の人物や協力団体への使途無指定の現金寄付
- ⑩ ロータリー地区、ロータリークラブ、ロータリーアクトクラブ、会員が所有者となる物品
- ⑪ 補助金における利害の対立に関する方針に反すること
- ⑫ その他の地区補助金の要件および制約事項に関してはロータリー財団「地区補助金 授与と受諾の条件」をご覧ください。

(参照) <https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/district-grants>

B) 地区裁量による制約事項

- ① 既に進行中または完了したプロジェクトへの使用
- ② 既に他団体が主体となり開始したプロジェクトへの使用
- ③ ロータリアンの旅費
- ④ 会員の飲食費
- ⑤ 補助金の寄付、金券(図書券、商品券、プリペイドカードなど)の贈与
- ⑥ 地区財団委員会の確認およびロータリー財団の承認を受けていない支出
- ⑦ 見積書や明細のない支出、振込控及び領収書の帳票類に不備のある支出
- ⑧ 他の補助金との併用
- ⑨ 物品のみの寄贈(ロータリアンの積極的参加のない事業)
- ⑩ 諸経費、予備費、管理費、雑費への充当
- ⑪ 補助金事業以外の事業と混合して支払いが行われており、補助金対象として区分できない支出
- ⑫ ポイント取得を目的とした支出

- ⑬ 一般的に合理的と認められる範囲を超える支出
- ⑭ その他、地区補助金の資金として審査基準に照らし不適切と認められる支出

[職業研修(VTT)]

職業研修は、上記地区補助金制約事項に加え、次のとおり規定する。

- ① 優秀な人材に支給する
- ② 補助金受給者はフルタイムで2年以上の職務経験を必要とする
- ③ 補助金受領者はオリエンテーションを受講する
- ④ 研修期間は1年を越えないこと
- ⑤ 職業研修チームの場合は、交換を必要としない

[奨学金]

地区補助金の奨学金は、上記地区補助金制約事項に加え、次のとおり規定する

- ① 成績優秀なる学生に支給する
- ② 20歳以下の海外留学は不可とする
- ③ 補助金受領者はオリエンテーションを受講する
- ④ 奨学金授与期間は1年を越えないこと

【ローターアクトクラブによる地区補助金申請について】

当地区としてローターアクトクラブの地区補助金利用における申請基準を次のとおりとします。

- ① 補助金申請のために毎年最低1名のクラブ会員が地区主催の補助金管理セミナーに出席する。
- ② ロータリー財団から提供される覚書(MOU)にローターアクトクラブ会長およびクラブ会長エレクトが署名し提出の上、記載された財務と資金管理要件を遂行する。
- ③ ローターアクトクラブは、前年度1クラブ\$100以上の寄付実績を必要とする
- ④ スポンサークラブで実施される補助金プログラムの参加経験を必要とする
- ⑤ 申請補助金額の上限はスポンサークラブの地区補助金利用可能額以内とし、申請額の上限を設定しない。よって、ローターアクトクラブの補助金申請額はスポンサークラブとローターアクトクラブに委ねる。
- ⑥ ローターアクトクラブの拠出金条件を設定しない。
- ⑦ ローターアクトクラブの実施する事業は主催またはスポンサークラブおよび他のローターアクトクラブとの共催運営事業とする。
- ⑧ スポンサークラブはローターアクトクラブの事業に対し責任をもって支援する。

【地区補助金申請スケジュール】

実施月日	内 容
11 月	補助金管理セミナーの参加。
12 月 1 日から 1 月 31 日まで	覚書（MOU）に署名の後、原本を地区事務所へ提出のこと。
継続事業事前 認定申請受付 期間 1 月 13 日から 2 月 20 日まで	継続事業の事前確認申請受付。継続事業の実施予定クラブは受付期間内に「継続事業事前確認シート」を地区事務局に提出する。
地区補助金 申請受付期間 2 月 5 日から 4 月 15 日まで	補助金システムでの補助金申請。締め切り厳守のこと。 ※補助金システムの操作方法については「地区補助金申請・報告システム 操作マニュアル」をご確認ください。 ※申請は 2 月のロータリーレートを使用する。
4 月	補助金委員会により申請書類の確認と申請書類の修正などの指導および申請受理の可否判断を実施する。 ※審査は不備のない申請をもって受理する。 ※補助金委員会の申請書の受理は補助金の承認ではありません。あくまでもロータリー財団の正式な承認があるまでは補助金対象プロジェクトではないことをご承知置きください。
5 月	地区よりロータリー財団へ一括申請をする。
7 月	① ロータリー財団の承認 ② 「地区補助金支給承認通知書」をクラブ受領
8 月以降	① 補助金の「合意書」クラブ締結 ② 地区財団委員会よりクラブへ「地区補助金受託の為の専用口座報告のお願い」をクラブへ送付。クラブは口座名に「補助金」と明記された専用口座を開設。なお、以前より使用している補助金専用口座での利用も可能です。クラブの拠出金がある場合は、予算書の拠出金全額を入金してください。（活動実施地が海外の場合で、現地からの資金提供がある場合は入金する必要はありません。） [地区事務所への報告書類] A) 地区補助金用口座報告書 B) 通帳のコピー（銀行名、支店名、口座番号、口座名義、クラブ拠出金を確認できるもの） ③ 地区事務所より各クラブへ地区補助金送金（8 月末まで着金予定） ④ 専用口座の管理は少なくとも 2 名以上のクラブ会員が入出金を管理する。 ⑤ プロジェクト終了後、2 ヶ月以内に地区へ報告システムにて報告書提出

※上記のスケジュールは諸事情により変更される場合があります。変更される場合は、随時各クラブ事務局へメールにてご連絡いたします。

【プロジェクト開始とロータリー財団の補助金承認について】

- ① ロータリーの新年度は7月1日となっておりますが、各プロジェクトの補助金対象金額の支出はロータリー財団の承認以降に行わなければなりません。よって、承認前に支出が生じた場合は、クラブの拠出金を充当してください。また、承認前に支出した場合、支出分は補助金対象となりません。
- ② プロジェクトの実施時期は、諸手続きの関係により原則9月以降が望ましいことをご了承ください。なお、8月に実施する場合は事前に補助金委員会とご相談ください。

【ロータリーレートの変動に対する予算額と執行額の対応について】

ロータリーレートにおける地区補助金申請時とプロジェクト承認後の送金時レートで差損益が生じる場合があります。よって、レートに起因するプロジェクトの予算変更は、当初予算の品目の変更などプロジェクト内容等に変更がなく、数量の変更のみの場合に限り地区財団委員会への報告は不要です。但し、変更した場合は、金額の多寡に関係なく見積書は取り直してください。

【通販サイトによる物品購入等について】

地区補助金を利用したプロジェクトにおける物品等の購入は、地元への貢献や公共イメージの向上などの観点からクラブ地域内から調達し、還元することが望まれます。しかし、やむを得ず物品等の購入を通販サイト等において行う場合においても、地元購入と同様にクラブ宛ての商品の見積書、請求書、領収書の提出が必要です。

【金券購入について】

図書券、商品券、プリペイドカード等の金券は現金通貨ではありませんが、現金通貨に準じるかたちで流通しているために金券購入は補助金の対象外となります。

【共同提唱プロジェクトについて】

他のクラブと共同でプロジェクトを提唱することが可能です。その場合は共同プロジェクトの「共同事業合意確認書」において、代表提唱クラブの申請年度会長および実施年度会長が署名してシステムに添付し申請します。

【専用口座について】

補助金受託のための専用口座につきましては、地区とクラブにおいて締結された覚書(MOU)の「4. 銀行口座に関する要件」の遵守をお願いいたします。

ー銀行口座に関する要件ー

補助金資金を受け取るには、ロータリー財団の補助金資金の受領、クラブ拠出金の入金および支払いのみを目的とする口座をクラブが設けなければなりません。

A. クラブの銀行口座は以下を満たしていなければならない。

- 1 資金の支払いには、クラブの少なくとも2名のロータリー会員が署名人となること。
- 2 低金利、または無利息の口座であること。

- B. 利子が生じた場合には、すべて書類に記録し、承認された補助金活動に使用する
か、ロータリー財団に返還しなければならない。
- C. クラブが提唱する各補助金につき、個別の口座を開設し、口座名は、補助金用で
あることが明らかにわかるものとすべきである。
- D. 補助金は、投資用口座に預金してはならない。これには、投資信託、譲渡性預
金、債券、株の口座が含まれる（ただし、これらに限らない。）
- E. ロータリー財団補助金資金の受領および使用を裏付ける銀行明細書（通帳）をい
つでも提示できるようにしておかなければならない。
- F. クラブは、署名人の交代に備えて、銀行口座の管理責任の引継計画書を作成し、
保管しなければならない。

【未使用の地区補助金】

プロジェクト完了後に補助金の資金が残っている場合、あるいは為替差益による増加分はなるべくプロジェクト関連費（プロジェクトのための追加の補給品など）に使用してください。未使用の補助金は金額の多寡に関わらず、速やかに地区に返金しなければなりません。なお、返金手続きのための振込手数料はクラブ負担となります。

【会計監査について】

会計監査のために次の書類（原本）のご提出をいただきます。なお、監査終了後に各クラブに書類を返却いたしますので全ての記録は7年以上保管してください。

- ① 領収書
- ② 補助金専用口座通帳
- ③ 監事および地区財団委員会より必要とされる書類

※監査実施日は、新年度に入ってから行います。よって、新年度事業のための補助金の入金手続きは監査が終了し、各クラブへ書類が返却されたのちに手続きを開始することとなりますのでご了承ください。

【会員向けの青少年保護のリソース】

ロータリーでは、青少年プログラムに参加するクラブや地区が確実に青少年保護方針を実施し、虐待やハラスメントを防ぐために行動できるよう、My Rotary において包括的なリソースを提供していますのでご確認ください。

- ・ロータリー青少年保護の手引き
- ・青少年プログラム参加者の保護（オンラインコース）
- ・電子的方法／インターネットの使用に関する安全上の検討事項
- ・危機管理計画の策定
- ・ロータリー章典の第 2.120.節

2.120.1.青少年と接する際の行動規範に関する声明

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。ロータリアン、そのパートナー、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるい

は心理的な虐待から身の安全を守るため、最善を尽くさなければならない

(2019年10月理事会会合、決定58号)。

出典：2002年11月理事会会合、決定98号。2006年11月理事会会合、決定72号、2019年10月理事会会合、決定58号により改正

【地区補助金 申請前に再確認を!】

- ① 「ロータリー財団 地区補助金 授与と受諾の条件」
- ② 「ロータリー財団ハンドブック (地区要件)」

以上を一読してから申請をお願いいたします。

【主な修正依頼事項】

- ① 必須項目の記入漏れ
- ② プロジェクトの具体的な内容が記載されていない
- ③ 会員の積極的な活動（資金援助のみ）がない
- ④ プロジェクトの実施日が補助金着金前に計画されている
- ⑤ 見積書などの添付漏れ
- ⑥ 見積書の宛名がクラブ名でない
- ⑦ 保険の加入がない
- ⑧ その他

ロータリー財団より地区を通じてクラブへの追加の問い合わせがありましたら、全申請案件の承認に影響しますので速やかなご回答をお願い申し上げます。

継続事業ガイドライン【2026-27 年度（富山年度）より運用予定】

【継続事業の原則】

クラブが事業を展開し一定の効果を確保するためには、複数年の継続的活動（以下、「継続事業」という。）を容認すべきとの意見があるなか、ロータリー活動の活性化資金として利用されるべき補助金が、新しいクラブ事業を立案することなく特定の事業を毎年継続することは、地区補助金の原則的な理念に則していないことや人道的プロジェクトなどにおいては、同じ支援が続いてしまうことで継続的支援がないと生活や活動ができなくなってしまう状況を作り出さないために受益者の自立の妨げを回避するためとして、ロータリー財団の補助金はその利用を制限する指導があります。よって、ロータリー財団の地区補助金「授与と受諾の条件」に基づき、地区補助金の対象となる事業として継続事業は原則、申請することはできません。なお、継続事業とは次の事業のことです。

【継続事業の定義】

継続事業とは、複数年連続して実施する次の 3 つの事業類型の一つに該当する活動です。

- A) 同一受益者で同一事業の場合
- B) 同一受益者で異なる事業の場合
- C) 異なる受益者で同一事業の場合

※継続事業の具体例：連続して実施される「〇〇ロータリー杯」のようなスポーツ関連の冠事業、公共施設などへの物品の寄贈（会員の積極的参加のない寄贈）、フードバンクへの継続的支援などです。

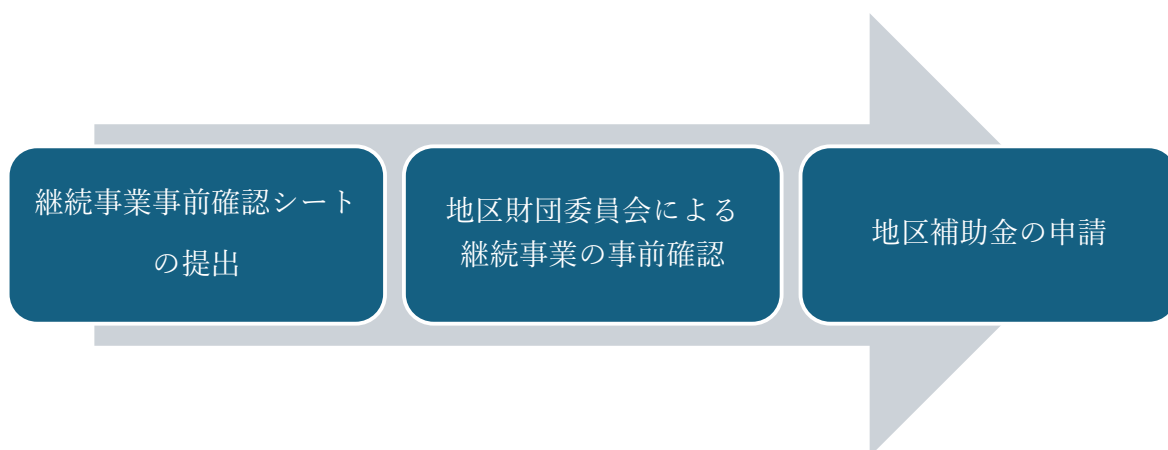
※地区財団委員会は各クラブにより実施されている継続事業を否定するものではありません。あくまでも地区補助金制度において申請を制限することとなります。よって、制度の枠を超えて実施する場合は、個人寄付やクラブ拠出金により事業を継続してください。

【継続事業に対する弾力的運用について：「継続事業事前確認制度」】

上記の原則を遵守しつつ、各クラブの活動実施状況に鑑み、当地区財団委員会では継続事業に対して許される範囲で補助金を活用すべきとの判断のもと、弾力的運用に努めます。よって、「継続事業事前確認制度」において地区財団委員会が継続事業の認定基準に基づき審査し、連続して最長 3 か年度を限度として例外的に実施できる制度を設定します。

[継続事業事前確認制度の申請フロー]

継続事業として申請する内容を事前に確認させていただき、財団委員会の事前確認後に、地区補助金システムにおいて申請します。事前確認の受付期間は別に定めます。



【継続事業の認定基準】

継続事業を事前確認するための書式「継続事業事前確認シート」において、次の事項について申請します。

A) 継続的に取り組まなければならない必要性の確認

実施規模や長期対応の必要性など単年度では実施不可能な理由などを確認します。

B) 継続期間の確認

事業完了までの期間（年数を明示）、複数年度かけて達成する期間目標を具体的に記入することが必要です。また、事業開始の次年度以降は、地区補助金の申請において「～年度計画における～年度目」と必ず表記してください。なお、連続して実施できる期間は最長3か年度とします。

C) 持続可能性の確認

事業において、ロータリーにおける持続可能性の必要がある事業について確認しますが、必須ではありません。

③ 実施期間と再申請について

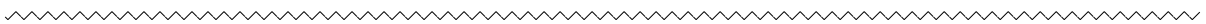
原則に従い単年度の実施事業を申請するクラブとの公平性を考慮し、継続事業として認定された事業は、3か年度連続の場合その後3か年度、2か年度連続の場合はその後2か年度、同一の継続事業に地区補助金の申請をすることはできないことをご了承ください。

④ 認定後の事前確認申請手続きは不要

継続事業認定後は、認定期間内の事前確認申請は必要ありません。ただし、システムでの地区補助金申請は毎年度必要です。

⑤ 運用開始について

この継続事業に対する運用は2026～27年度の富山年度より開始予定です。
なお、継続事業の始期においても同年度からとし、遡及しません。



【参考資料】 継続事業が制限されるべき根拠となる規定文

1. 『ロータリー財団 地区補助金 授与と受託の条件』 P2

「2. 受領資格のない活動および支出」の

「D. 特定の人、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援を行うこと。」

2. 『ロータリー章典』2023 年 10 月版 P35～P38

第8条の第40節 社会奉仕の基本原則

第8条の第40節の第1項 社会奉仕に関する1923 年の声明

社会奉仕とは、ロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。この奉仕の理想の適用を実践する中で、多くのロータリークラブはさまざまな社会奉仕活動を開発し、会員に奉仕の機会を与えてきた。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリークラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

2) 本来ロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人の代表および地域のリーダーとして、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。まず第1 に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第2 に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。第3 に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこ

と。そして第4 に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

3) RI は次の目的のために存在する団体である。

a) ロータリーの奉仕の理念の擁護、育成および全世界への普及。

b) ロータリークラブの設立、奨励、援助および運営の管理。

c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI 定款に掲げられているロータリーの目的の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。

4) 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、ロータリークラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリークラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援することが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基いたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。

5) 各ロータリークラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの目的を無視したり、ロータリークラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そしてRI は、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを禁じたりすることは絶対にしてはならない。

6) 個々のロータリークラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。

a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリークラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリークラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民とし

て、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。

b) 一般的に言って、ロータリークラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援すべきではない。

c) ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標とすべきではないが、ロータリーの影響力を拡大する方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである。

d) ロータリークラブは、仕事の重複を避けるようにすべきであり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すべきではない。

e) ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリークラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい。

f) ロータリークラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリークラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていると考えられるほかのすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリークラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

g) クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリークラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであ

るからである（2012 年1 月理事会会合、決定158 号）。

出典：RI 国際大会議事進行23-34、26-6、36-15、51-9、66-49。2007 年6 月理事会会合、決定226 号、2012 年1 月理事会会合、決定158 号により改正

3. 『ロータリー章典』2023 年 10 月版 P38～P39

第8条の第40節の第2項 社会奉仕に関する1992年の声明

ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社

会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。この奉仕の理想の適用を実践する中で、各ロータリークラブはさまざまな社会奉仕活動を開発し、会員に奉仕の多大なる機会を与えてきた。ロータリアンの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すために、その原則は次のようにまとめられる。

社会奉仕は、ロータリアンひとりひとりが「超我の奉仕」を実践する機会である。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは、すべてのロータリアン個人にとっても、またロータリークラブにとっても献身に値することであり、社会的責務でもある。

この精神に立脚して、各クラブに対し次のように勧奨する。

[1) ～9) 省略]

10) 適切であれば、地元地域社会、奉仕団体、その他諸団体に、継続中のプロジェクトを委譲すること。そうすれば、ロータリークラブは新プロジェクトに携わることが可能となる。

RIは、ロータリークラブの連合体として、社会奉仕のニーズや活動を伝え、広め、かつロータリーの目的を推進し、参加を望むロータリアンやロータリークラブ、地区の力を結集すれば役立つと思われるプログラムやプロジェクトを適宜、提案する責務を負っている

(2003年5月理事会会合、決定325号)

出典：規定審議会92-286

※文章の下線は財団委員会にて加筆した。

※「第8条の第40節の第1項 社会奉仕に関する1923年の声明」は1923年に開催されたセントルイス国際大会に提出された**第34号議案で「決議23-24」**と言われる有名な歴史的文書である。この決議文はロータリーの目的に基づくすべての実践活動における指針であると同時に、ロータリーの2つのモットー（「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」）をロータリー哲学として確定した重要な文献である。

※「第8条の第40節の第2項 社会奉仕に関する1992年の声明」は1992年1月にアメリカ・カリフォルニア州オレンジ郡アナハイムにて開催された規定審議会において採択された声明。

当地区財団委員会はロータリー章典第8条の「クラブのプログラム」に基づき、各クラブが取り組むあらゆる事業を尊重し、その上で地区補助金制度を運用することに努めています。

第8条の第10節 活動に関するクラブの自治性

クラブは、地元地域のニーズに応じて独自のプログラムを開発すべきである。クラブのために特定の奉仕プロジェクトやプログラムを提唱したり、指示したりすることは、RI のプログラムの範囲内ではない。

ロータリーの基本原則は、加盟クラブの実質的な自治である。

クラブに対する組織規定および手続きによる制限は必要最小限に留め、ロータリーの根本的かつ独自の特徴を保持する。その規定の範囲内において、特にクラブレベルでは、RI の方針の解釈および実施に最大限の柔軟性が適用される。

(2016 年4 月理事会会合、決定157号)

出典：1927 年5～6 月理事会会合、決定14 (b)(3)項、1958 年5～6 月理事会会合、決定202 号、1963 年1 月理事会会合、決定90 号。2004 年11 月理事会会合、決定59 号、2016 年4 月理事会会合、決定157 号により改正

2026-27年度 国際ロータリー第2560地区【見本】 地区補助金 継続事業事前確認シート

【申請年月日（西暦表示） 2026年●●月●●日】

【申請クラブ名】 ●●ロータリークラブ

【申請責任者】 ■氏 名 日本 太郎

■クラブ役職 社会奉仕委員会 委員長

■連絡先

住所 : 新潟市××町□□丁目○○番地

電話番号 : ○○○-○○○-○○○○

携帯番号 : ○○○-○○○-○○○○○

e-mail : ×××@△△△.jp

項目	内容
申請年度会長名	博愛 均
実施年度会長名	商売 努
プロジェクト名	●●ロータリークラブ杯 小学生親善サッカー大会
事業概要	<p>【目的】 ●●市および近隣市町村の小学生を対象にサッカーを通じて健康づくりと親善交流を目的とする。</p> <p>【事業概要】 ●●市のサッカー協会の後援により市内および近隣クラブチーム参加によるリーグ戦方式で実施する。</p>
継続事業の必要性	事業の定着化を図るために3年間実施する。なお、各年実施後、参加者にアンケートまたは感想の聞き取り調査を実施し、その結果に基づいた事業の充実を図る予定である。
継続年度	2026-27年度から2028-29年度までの3ヶ年度間 ※連続3ヶ年度間を上限とする。
持続可能性※	<p>3年後の参加状況や大会に対するアンケート調査により、●●市サッカー協会または参加チームの主催へ移行するため関係団体と協議する。また●●ロータリークラブは後援組織とし、資金支援としてクラブ資金の拠出やスポンサー募集活動へと事業を展開する予定。</p> <p>※記入は、必須ではありません。</p>

※ロータリーの「持続可能性」について

「持続可能性」の定義は組織によって異なりますが、ロータリーでは「補助金資金が全て使用された後にも、地域社会の人びとが自力で地元のニーズを満たしていけるような長期的な解決策を提供すること。」と定義しています。

【財団委員会意見欄】

(受付 年 月 日)

結果	認定 ・ 保留 ・ その他 ()
認定の条件	
備考	

〈認定者〉

認定日 年 月 日

国際ロータリー第2560地区

補助金委員会委員長

(結果通知 年 月 日)

【地区補助金活動の中止と変更手続き】

	連絡および報告書について	地区補助金について
活動の一部中止・縮小	最終報告書提出時、一部中止・縮小となった内容とその理由等を文書(定型書式なし)により財団委員会へ提出してください※。	一部中止・縮小によって削減された経費については、一部中止・縮小となった内容とその理由等を確認の上、申請クラブと協議させていただきます。
活動の全面中止	中止後速やかに、全面中止内容とその理由等を文書(定型書式なし)により財団委員会へメールにて連絡してください。	中止前に発生した経費に対する補助金使用につきましては、中止理由等を確認の上、申請クラブと協議させていただきます。
活動の一部変更	一部変更が生じた場合は速やかに変更内容記載の文書(定型書式なし)を地区財団委員会へメールにて連絡してください。	地区財団委員会から変更内容の承認を通知するまで、補助金を絶対に支出しないでください。承認前に発生した経費に財団補助金は充当できません。 (但し、当初の申請内容に沿ってすでに発生している、または変更しない部分の経費については充当可)
活動の全面変更	<ul style="list-style-type: none"> ・全面変更が生じた場合は速やかに変更内容記載の文書(定型書式なし)を地区財団委員会へメールにて連絡してください。 ・財団委員会の変更確認後に地区 Web サイトから「地区補助金計画変更申請書」をダウンロードしていただき、必要事項を記入し、見積書などを添付して地区財団委員会に提出してください。 	地区財団委員会から新規活動の承認を通知するまで、補助金を絶対に支出しないでください。承認前に発生した経費に財団補助金は充当できません。 (但し、当初の申請内容に沿ってすでに発生している、または変更しない部分の経費については充当可)

※メール受付窓口は地区事務所となります。メールアドレス：rotary@rid2560niigata.jp

グローバル補助金 Global Grants

グローバル補助金は、ロータリーの7つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援する補助金です。

【グローバル補助金対象となる7重点分野】

世界各地にはさまざまな課題が存在します。ロータリーの活動の焦点を絞り、持続可能な変化を確実にもたらすため、ロータリー財団は複数の重点分野を選びました。これらの分野に重点的に取り組むことで、明確な目標を定め、最大限の影響を生み出せます。地域社会調査の結果を基に、重点分野からプロジェクトで取り組む分野を1つ以上選んでください。

- ① 平和構築と紛争予防 (Peacebuilding and Conflict Prevention)
- ② 疾病予防と治療 (Disease Prevention and Treatment)
- ③ 水と衛生 (Water, Sanitation, and Hygiene)
- ④ 母子の健康 (Maternal and Child Health)
- ⑤ 基本的教育と識字率向上 (Basic Education and Literacy)
- ⑥ 地域社会の経済発展 (Community Economic Development)
- ⑦ 環境 (Environment)

① 平和構築と紛争予防

ロータリーは、地元や海外の地域社会における紛争転換を促す活動を通じた、平和構築と紛争予防に関連する研修、教育、実践を支援します。紛争の予防・仲裁や難民支援に当たる人材を育て、異文化間の交流と対話を促すことで、平和な世界づくりを目指しています。今日、紛争、暴力、弾劾、人権侵害によって家を追われた人の数は7,000万人。その半数が子どもです。このような状況を、私たちは絶対に受け入れません。ロータリーは、異文化交流を通じて相互理解の心を育て、紛争解決のスキルを備えた人材の育成を通じて平和な世界づくりを促進しています。

② 疾病予防と治療

ロータリーは、疾病の原因と影響を減らすための活動を支援します。この分野のプロジェクトは、医療サービスへのアクセスの改善および拡充、医療機器の提供、または医療従事者の研修によって医療システムを強化します。

③ 水と衛生

ロータリーは、安全な水源の管理と保護を促し、安全な飲み水と衛生（衛生設備や衛

生教育など)への普遍的かつ公平な利用を実現する活動を支援します。ロータリー財団は、環境的に健全で、測定可能かつ持続可能な介入を通じて、政府、諸機関、地域社会が水と衛生の分野における事業を管理できるようエンパワメントを図ることに力を入れています。

④ 母子の健康

ロータリーは、母子の健康を改善し、5歳未満の幼児の死亡率を減らすための活動と研修を支援します。この分野のプロジェクトは、医療サービスへのアクセスの改善および拡充、医療機器の提供、および医療従事者の研修によって、医療システムを強化します。

⑤ 基本的教育と識字率向上

ロータリーは、すべての子どものための教育を改善し、子どもと成人の識字率を高めるための活動と研修を支援します。

⑥ 地域社会の経済発展

ロータリーは、貧困地域や十分な支援が得られない地域で測定可能かつ長期的な経済発展を創出し、人びとと地域社会が貧困を緩和していけるよう支援します。

⑦ 環境

ロータリーは、天然資源の保護と保存を強化し、環境の持続可能性を促進し、さらに人々と環境の間の調和を育成する活動を支援します。

【ロータリーの「持続可能性」について】

「持続可能性」の定義は組織によって異なりますが、ロータリーでは「補助金資金が全て使用された後にも、地域社会の人びとが自力で地元のニーズを満たしていけるような長期的な解決策を提供すること。」と定義しています。短期的な対処療法ではなく、また、提唱者の自己満足で終わることのないプロジェクトの実施が求められます。

【測定可能な成果について】

プロジェクトによって測定可能な成果を生み出すために、プロジェクトを始める前に実施場所の「地域調査」を行い、現状データを集め、これを数値化し、「基準」を測ります。そして、その「基準」から「具体的な目標値」(即ち「成果」)を定め、活動の実施中と完了後にデータを集める方法を決めておく必要があります。

ex:「基本的教育と識字率向上」であれば「地域での男女の教育格差を緩和する」、「母子の健康」であれば「出産時の母子の死亡率を減らす」などであり、現状と成果の数値を明確にすることです。

【グローバル補助金の対象とする活動の種類】

種 類	内 容
人道的プロジェクト	地域社会のニーズに取り組み、持続可能かつ測定可能な成果をもたらすものです。
奨学金	重点分野におけるキャリア構築を目指す人に海外の大学院への留学費用を提供するものです。
職業研修（VTT）	職業研修を通じた地域の発展と能力向上を支援するものです。専門職業人のグループを海外に派遣し、現地の人びとへの指導や研修への参加などを実施します。

【資金調達】

グローバル補助金は提唱クラブまたは地区からの拠出金とロータリー財団からの上乗せ資金を組み合わせたものであり、この上乗せ資金は、世界中の会員から寄せられた寄付によるものです。

- ① グローバル補助金プロジェクトの最低予算は3万米ドルです。
- ② 補助金提唱者は、地区財団活動資金（DDF）、現金、冠名指定寄付と恒久基金の収益を組み合わせ、グローバル補助金に充てることができます。
- ③ 財団は、すべてのDDF寄贈に対して80%のWFを上乗せします。WF上乗せの上限は40万ドル（下限額はありません。）。尚、会員からの現金寄付、会員以外からの現金寄付、冠名指定寄付、恒久基金の収益に対するWFからの上乗せはありません。
- ④ 補助金への全拠出額の15%以上はプロジェクトを行う国以外から調達が必要です。
- ⑤ 補助金申請が承認されるまで、財団に現金寄付を送金してはなりません。

【資格認定】

ロータリークラブの補助金は任意のご寄付によって支えられています。このため、すべての補助金を賢明に活用することが極めて重要です。

健全な財務管理は寄付者、パートナー、地域社会からの信頼を得るための鍵となります。

補助金の参加資格認定プロセスを通じて、クラブは、ロータリーが定める財務と補助金管理の手続きに従うことに同意して頂きます。グローバル補助金の参加資格認定には以下の三つのステップがあります。

参加資格	イ) 「クラブの覚書(MOU)」に同意すること。 ロ) 地区が実施する補助金管理セミナーに、クラブから少なくとも1名の会員が出席すること。なお、クラブ所属の地区役員のセミナー出席は要件に該当しません。 ハ) 地区が独自に設けている要件へ同意すること。
------	---

【第2560地区のグローバル補助金の要件】

年度内に代表提唱クラブとしてDDFを申請できるのは原則として1プロジェクトですが、進行中のグローバル補助金活動（最終報告書を財団本部に未提出で、ファイルが正式にクローズしていないプロジェクト）がある代表提唱クラブは、活動が完了するまでDDFを申請することはできません。ただし、共同提唱クラブはこの限りではありません。また、一つのクラブが同時に代表提唱および共同提唱クラブとして二つのプロジェクトに参加する場合は、それぞれのDDF申請額について地区財団委員会にお問い合わせください。

その他、DDF申請限度額について次のとおり制約があります。

代表提唱者…20,000ドル

調達資金提唱者…10,000ドル

【パートナーシップ（協力関係）の要件】

グローバル補助金を申請するには、実施国と援助国にあるクラブまたは地区が協力する必要があります。

① 実施国側提唱者の役割

プロジェクトの発案、地域社会の調査実施、プロジェクト実施と予算管理、来訪した職業研修チーム（VTT）と奨学生の支援、プロジェクト資金の受領など。

② 援助国側提唱者の役割

資金、技術的支援、そのほかの指針を提供、実施国外でできるプロジェクト関連のタスクを実施、現地視察を通じてプロジェクトに参加、派遣する職業研修チーム（VTT）と奨学生の準備など。

③ 実施及び支援国提唱者共通の役割

グローバル補助金の参加資格認定を受けていること、プロジェクトの立案、互いに連携するためのプロジェクト委員会の設置、必要に応じて他団体（非政府組織、自治体、政府機関）とのパートナーシップの構築、補助金センターでプロジェクトの報告書を提出すること。

④ 協力団体

ほかの団体と協力して、専門知識やスキルの提供を受ける場合や研修の協力、資金や物資の支援を受ける場合、提唱者と協力団体の双方が、プロジェクト開始前に「覚書」に署名する必要があります。尚、補助金の管理やプロジェクトの結果の最終的な責任は双方の提唱者が負うことになりますのでご注意ください。

【グローバル補助金のヒント：パートナーを探す】

プロジェクトのパートナーや奨学生を受入れクラブを探すには、委員長に送られている各地区の連絡先のほか、クラブ検索や公式名簿を活用してください。

人道的プロジェクトのパートナーを探す場合は、補助金に関するレポートやロータリーショーケースを活用して、過去にどのような活動をしているかなどを参考に探すことができます。

○ロータリーショーケース

パートナーを探しているグローバル補助金や掲載されている活動情報から連絡を取ることもできます。活動のキーワードやプロジェクトの状況で「計画中/グローバル補助金の共同提唱者を募集中」のチェックを付けて相手を探すことができるほか、実施地や地区で検索することもできます。

○補助金に関するレポートを活用する

My ROTARY→運営する→クラブと地区の運営→各種レポート。実施地やプロジェクトの状況のレポートを利用して、過去の事例やそのクラブが実施したプロジェクトの情報を閲覧する。

○My ROTARY の検索

My ROTARY を開くと右側にある、虫眼鏡のマークから「検索」画面を開きます。「クラブ」検索では、クラブ名をクリックすると表示される詳細情報に地区を確認することができます。(地名検索では、例会場住所から最寄りのクラブが表示されます)。「会員」検索(My ROTARY へのログインが必要、ロータリー会員のみ)では、役割、地区ガバナーやクラブ会長で会員の連絡先を探しメールを送ることもできます。(公開している場合)。

○奨学金のホストを探すには

クラブ検索で地区を確認し、公式名簿や地区の財団の財団委員長や奨学金委員長に送られている各地区の委員長のリストを活用します。ホストクラブを探す依頼は、地区から地区に送ります。

グローバル補助金による奨学金

ロータリーのグローバル補助金を利用して、1 学年間に限り、奨学金を提供できます。グローバル補助金奨学生は、ロータリーの7つの重点分野で活動する未来のリーダーを育成するためのものであり、大学院レベルの学業または研究活動に充てることができます。

重要な要件の一つは、援助国側（派遣側）の地区／クラブと実施国側（受入側）の地区／クラブが協力することです。補助金の申請前に、双方の提唱地区／クラブが参加資格の認定を受けている必要があります。

【申請の要件】

- ・7 つの重点分野のいずれかに概要する分野でキャリアを築くことを目標とし、大学院レベル（修士以上）の教育目標もこれに関連すること。
- ・遅くとも留学年の3月頃まで（9月入学の場合）留学先教育機関からの入学許可を取得すること。
- ・受入国の言語（公用語）に堪能なこと。
- ・ロータリアン、ロータリークラブや関連組織の職員、その直系親族でないこと。
- ・日本国籍を有し、申請時に地区内に本籍、または実家（帰省先）を有すること。

【候補者に必要な資質】

- ・優れたリーダーシップと有望性
- ・優れた学業成績または職業上の業績
- ・社会奉仕へのコミットメント
- ・明確で現実的な目標
- ・選択した職業分野でどのように活躍していきたいか（具体的に）
- ・奨学金が終了した後も、ロータリーと生涯関係を保ち続けることを誠実に望んでいるかどうか
- ・地区の親善大使としての心構えと社交性

【必要書類】

- ① グローバル補助金奨学金申請書（日本語と英語の二種類）
 - ② 小論文（日本語と英語の二種類。書式は問わない）
 - ③ 大学成績証明書
 - ④ 教育者あるいは上司等による推薦状
 - ⑤ 語学力証明書（留学先の国や地域の言語）
 - ⑥ 大学院レベルの教育機関からの入学許可証
- ※予備審査には①と②を提出する。

【スケジュール】

8月、9月、10月のいずれかの月に留学を開始する奨学金の申請は、6月30日までに財団に提出する必要があります。それより後に提出された申請は却下されます。

奨学金の申請はいつでも受け付けていますが、奨学金候補者が出発する少なくとも3か月前までに、財団に申請書を提出しなければなりません。

いずれの場合も、申請書提出までに下記のスケジュール例のように様々な手続きを経なければならないため、余裕を持ってスタートすることが重要です。

※8月1日出発の場合のスケジュール例

2月1日まで	奨学金の候補者を募集（随時）
	申請書と小論文を地区に提出
	地区委員会で書類審査
	日本担当の財団の補助金担当者に予備審査依頼
2月～4月	地区内の推薦クラブ決定
	受入側の地区に参加・協力を依頼
	受入側の補助金提唱者、代表連絡担当者、二番目の連絡担当者を決定
	面接選考会で補助金額決定
	補助金センターで申請プロセスを開始
	候補者が奨学生プロフィールを記入
5月1日まで(出発3か月前)	補助金申請書を財団に提出
	銀行口座と署名人（2名）の情報を提出
5月～7月	補助金の承認を受ける
	奨学生に対して財務保証の書簡を発行
	補助金の支払いを受ける
	補助金資金（奨学金）の半額を奨学生に送金する
	奨学生オリエンテーションセミナーを開催
8月1日	奨学生が出発
補助金の支払いから6～12カ月後	中間報告を提出。残りの補助金資金（奨学金）を奨学生に送金する
補助金（奨学金）完了から2カ月後	最終報告書を提出

【申請方法】

グローバル補助金を申請する前に、双方のクラブ／地区が参加資格の認定を受けていなければなりません。

グローバル補助金の申請は、補助金センターから行います。派遣国と受入国の両方の言語で申請書を入力します。

提唱クラブまたは地区が最初に申請書を作成します。ここで、奨学金候補者の氏名と E メールアドレスを追加し、「奨学生に通知」をクリックします。奨学金候補者は My ROTARY アカountの作成に関する E メールを受け取り、補助金センターの奨学生のプロフィールを完了します。

候補者は、申請時に、大学院の入学許可証を提示する必要があります。条件付きの入学許可は、大学が 財務能力の証明または大学（学部）卒業を必須条件とする場合にのみ認められ、語学テストのスコアを上げることを条件とした入学許可は認められません。

財団での補助金の申請手続きにかかる時間を十分にとり、奨学生の出発予定日の少なくとも 3 カ月前までに申請を完了してください。財団から追加情報を求められた際は、迅速に返答する必要があります。

【資金調達と予算】

グローバル補助金（奨学金）の最低予算は 30,000 ドルであり、50,000 ドルを上限とします。財団は DDF に対して 80% の WF を上乗せします。

予算を作成する際は、補助金（奨学金）を使用可能なリスト（下記）をご参照ください。承認後に予算に変更を加える場合、財団の補助金担当者から事前の承認を受ける必要があります。

■補助金（奨学金）を充てることができる費用

- ・パスポート/ビザ
- ・予防接種
- ・旅費（エコノミークラス相当）
- ・学用品
- ・授業料
- ・大学が義務づける医療保険加入を含め、大学に納入するそのほかの費用
- ・部屋代と食費
- ・生活用品
- ・語学研修費（ただし、語学テストのスコアを上げることを条件とした入学許可を受けている場合は、奨学金を申請できません）
- ・現地での交通費

※奨学金の予算は、入学金と授業料、部屋代と食費等から成るシンプルなものにするをお勧めします。項目が多すぎると領収書の管理や、変更があった場合の手続きが煩雑になります。

■補助金（奨学金）を充てることができない費用

- ・補助金が承認される前に発生した費用
- ・車とそれに関連する費用
- ・配偶者や被扶養者の費用
- ・奨学金期間中の自国における家賃と生活費
- ・奨学金受領によって発生する税金
- ・病院・医師
- ・家具
- ・娯楽費
- ・個人的な旅行
- ・ロータリー行事に関連した経費
- ・奨学金期間中に必要でない、または過度に高価な学用品、生活用品

【支給】

補助金を受け取るための手続きを行います。双方の提唱者が協力して、補助金を受け取る銀行口座を決め（派遣国または受入国にある銀行口座）、口座署名人となるロータリー会員2名を指名した後、財団から支払いを受けるための情報を補助金センターに入力します。口座名には、クラブ名を含めてください。

奨学金は2回に分けて半額を送金することとし、2回目は中間報告書が提出された後としてください。報告書の未提出や素行不良の場合、地区とクラブは支援を中止することができます。

【オリエンテーション】

奨学生は出発前に、地区が行うオリエンテーションに参加しなければなりません。また、

ロータリーウェブサイトのラーニングセンターを通じて奨学生オリエンテーションのオンラインコースを完了することが義務づけられています。

【旅行】

航空券や旅行の手配はすべて、奨学生が責任をもって行います。奨学生は、国際ロータリー・トラベル サービス（RITS）を通じて、または自分が選んだ方法で、この手配を行います。

【受入側カウンセラー】

受入側カウンセラーは、受入国で奨学生が主に連絡を取るロータリアンです。奨学生には、受入側カウンセラーと援助国側（派遣側）地区／クラブの連絡先を必ず

渡しましょう。財団からの承認後、奨学生に受入側カウンセラーに自己紹介を送り、定期的な連絡を始めるよう奨励しましょう。

受入側カウンセラーは下記のような支援ができます。

- 宿泊先を探す（特に学校の寮を利用できない場合）
- 奨学生を出迎える
- 奨学生をクラブ例会や地区大会に招く
- 地元の奉仕活動や文化行事に参加するよう奨学生に勧める
- 銀行口座の開設や最寄りのスーパーマーケット探しなど、滞在生活に必要な支援をする
- 補助金資金を管理する
- 地区のニュースレターを通じて奨学生の活動を広報する
- 奨学生がスピーチをできることをほかのロータリー会員に知らせる
- フェイスブックで、特定の重点分野を中心としたロータリー奨学生グループに参加するよう勧める

受入側カウンセラーは、奨学金期間の最後に奨学生と会い、必要な手続きがすべて完了していることを確認します（例：銀行口座や賃貸契約の解約など）。また、その後も奨学生と連絡を取り続け、必要な連絡先を把握しておくようにします。

【報告】

援助国側と実施国側の両方の提唱者は、補助金（奨学金）資金の使途を報告する義務があります。援助国と実施国の言語が異なる場合は、両方の言語で報告を行います。

最初の補助金支払いから 12 カ月以内に中間報告を提出し、奨学金期間の終了から 2 カ月以内に最終報告を提出してください。援助国側提唱者、実施国側提唱者、奨学生のいずれかが、補助金センターで報告書入力を開始します。続いて、もう一方の提唱者と奨学生が、それぞれに該当する部分に入力します。

報告書では、奨学生の学業・研究に関する説明、選択した重点分野との関連、奨学生のロータリーや地域社会への参加を説明し、支出入の明細を含めます。補助金用の銀行口座の明細書も、報告書に添付してください。75 ドル以上の経費について領収書／レシートも提出します。援助国側（派遣側）の提唱地区／クラブは、必要に応じて、奨学生に対するそのほかの報告要件を設けることもできます。

上記の中間報告、最終報告の他に、提唱地区／クラブへの報告は毎月行ってください。学業、生活、ロータリーとの関わり等、できれば写真を交え、報告月の翌月内に提出してください。収支報告書は奨学金の収支の他、滞在中にかかる経費

もエクセルファイル等に記録してください。奨学金の支出でないものは領収書／レシートは不要です。

【奨学金の終了後】

奨学金期間が終了しても、ロータリーと奨学生の関係はそこで終わりではありません。その後も連絡を取り合い、クラブ例会や地区大会で奨学生の経験についてスピーチしてもらいましょう。また地元で行われるロータリー学友行事への参加を勧めましょう。

グローバル補助金による職業研修チーム（VTT）

職業研修チーム（VTT）とは、専門職業人のグループが海外に赴き、スキルや知識を学び、現地の専門職業人にスキルや知識を提供するものです。この活動を支援するためにグローバル補助金を使うことができます。

【一般的な基準】

- ・チームは重点分野の範囲で、自らの職業技能を高めるか、他の人に専門的な研修を行わなければなりません。
- ・チームは重点分野の一つを学び、または教えるかによって、能力を高めることを実証しなければなりません。
- ・チームは明確な目的、趣旨の提案、明確な持続成果、準備計画を備えなければなりません。
- ・一件の補助金で一つまたは複数のチームの支援に使うことができます。
- ・派遣側はチームメンバー選考のための委員会を設置します。クラブ提唱の場合はクラブ会長が、地区提唱の場合は地区ガバナーが委員長を務めます。

【チームの構成と基準】

- ・経験豊富なロータリアンのチームリーダー1名と、ロータリアン以外の2人以上のチームメンバーで構成します。但し、リーダーを務めるメリットが明確にできれば、ロータリアン以外のメンバーがリーダーを務めることができます。総数の上限はありません。
- ・申請者は重点分野の一つに二年以上の職務経験や専門知識のあることを示し、できれば重点分野に関連する専門職務か事業に雇用されていることが望まれます。
- ・チームメンバーはそれぞれ異なる職業であってもかまいませんが、同じ重点分野を支援するという共通の目的を有していなければなりません。

【研修計画】

人びとの知識とスキルの向上は、すべてのグローバル補助金の重要な要素です。その方法の例として、教員研修、衛生教育、職業訓練、天然資源管理ワークショップ、スキル開発などがあります。プロジェクトに含めるそれぞれの研修活動について計画します。

- ① 研修の目的または目標
- ② 研修を受ける人が学ぶ知識やスキル
- ③ この研修を選んだ理由
- ④ 地域社会の調査で特定した受益者の知識・スキルの欠如にどのように取り組むか
- ⑤ 研修で用いる手法（プレゼンテーション、グループディスカッション、参加型演習、事例研修など）
- ⑥ 研修の時間と回数
- ⑦ 研修を実施するのは誰か。研修者が有する資格（研修者はそのトピックにおける専門性を備えていなければなりません）
- ⑧ 研修を受ける人数
- ⑨ 補助金活動の終了後、研修生たちは研修で学んだ知識とスキルをどのように活用していくか
- ⑩ どのように研修の効果を評価し、今後の研修の改善に役立てるか

【職業研修チームの日程表】

職業研修チームが参加する補助金活動では、詳細な旅程表が義務づけられています。これには、チームの旅行の手配（国内、国外の両方）、毎日の活動予定、宿泊先、協力団体の連絡先を含めなければなりません。

旅程案

チーム全員の補助金活動期間の旅程案を提出してください。これには、自国から海外の訪問地までの旅行、研修中の現地での移動もすべて含めてください。ロータリー財団から補助金の承認が下りるまで、旅行のチケットを購入することは控えてください。飛行機を利用する場合は便名を、それ以外は交通手段を入力してください。個人旅行をする参加者がいる場合は、それに関する情報も含めてください。

日付	氏名	出発地/到着地	飛行機の便名または交通手段

毎日の予定

チームの訪問中に計画されている活動とその場所を日付ごとに記載してください。この表は、受入側提唱者の協力の下、派遣側提唱者が記入すべきものです。この日

程表には、チームメンバー、派遣側提唱者、受入側提唱者の承認が必要です（この日程表を参加者用の出発前パッケージに含めるのも一案です）。

日付	活動	場所

宿泊

宿泊の手配をすべて入力してください（ホテル、寮、ロータリアン宅など）。各欄には、住所、電話番号、ロータリアンの連絡担当者を入力してください。

日付	場所	連絡先（氏名・住所・電話番号を含む）

【職業研修チームメンバーの申請書】

職業研修チームの各メンバー候補者は、下記の項目すべてに回答し、履歴書を添えてチームリーダーに提出する必要があります。その後、チームリーダーが補助金センターでオンラインの補助金申請書に申請書と履歴書をアップロードします。このフォームをロータリー財団（TRF）に直接提出することはお控えください。

本人の情報

- ・氏名
- ・国籍
- ・ロータリアンか否か
- ・使用言語
- ・専門とする重点分野
- ・これまで受けた教育と職務経験が重点分野とどのように関連しているか
- ・この研修における役割。実施する、あるいは受ける研修の主題

連絡先

- ・メールアドレス
- ・住所/郵便番号
- ・電話番号

緊急連絡先

- ・氏名
- ・関係
- ・メールアドレス
- ・住所/郵便番号
- ・電話番号

ローターアクトターによるロータリー補助金の利用

2022年7月から、ローターアクトクラブも、グローバル補助金を申請できるようになり、地元または海外の地域社会での奉仕の取り組みを支援できるようになりました。

ローターアクトクラブがグローバル補助金の協同提唱者となる資格を得るには、過去にグローバル補助金でロータリークラブまたは地区と協力した経験があり、グローバル補助金への参加資格を得るための要件を満たす必要があります。グローバル補助金の場合、一方の提唱者がローターアクトクラブであれば、もう一方の提唱者はロータリークラブである必要があります。

※詳細については My Rotary のグローバル補助金「ローターアクトターによる補助金の利用」<https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/district-grants> を参照してください。

【プロジェクト計画の立案について】

プロジェクトの計画には、全員が関わるように立案します。

提唱者となるクラブ同士連絡を取り、管理すべき事項と、グローバル補助金のガイドラインを満たす方法を確認します。計画では、次の事項を少なくとも検討する必要があります。

- ① 地域社会にもたらしたい影響
- ② 測定可能な目標・成果
- ③ プロジェクトの各段階で必要となる実行項目
- ④ 実行項目の割り当て／責務の分担
- ⑤ プロジェクトの受益社会における現状確認とデータ収集
- ⑥ 期待された効果が見込められなくなった場合の代替案

【協力地区による財団活動資金の活用】

ロータリー財団が資金を提供するプロジェクトはロータリアンの積極的かつ個人的な参加がなければならない。両国のロータリアンはプロジェクトに積極的に参加しなければならない。地区が単に地元のプロジェクトの資金を確保するためだけに DDF をグローバル補助金の提唱者寄付金として取引またはスワップすることは不適切であり許容されない。(財団章典 52.050.2012 年 10 月管理委員会会合、決定 16 号)

【プロジェクトの主な進め方について（クラブ）】

- ① プロジェクトの予定表作成
- ② プロジェクト委員会の設置（実施国と援助国の各提唱クラブに 3 名以上の委員を選出）

- ③ 継続性のある組織運営（計画から終了までの委員の継続体制の確立）
- ④ 役割分担の明確化（活動ボランティアの募集、活動中の食事の提供、広報活動など）
- ⑤ 利害対立の回避（プロジェクトにより利益を得る可能性のある会員はメンバーにはできません）
- ⑥ 専門家の意見聴取（職業上の知識やスキルの活用）
- ⑦ 地域社会の調査
 - ・プロジェクトの受益者と影響の具体的検討。
 - ・地域社会調査の結果を基に、プロジェクトの実施中と完了後の成果を測定するための初期数値と目標値の設定
 - ・成果を測定する具体的な方法の決定
 - ・計画どおりに進めるための予定表の作成
- ⑧ 財務管理計画の作成

資金の適切な監督と一貫した管理運営、透明性確保そして不正等のない資金使用。
- ⑨ 予算
 - ・大まかな予算立ての後に、利用できる DDF や現金の調達を検討し、必要に応じて予算を修正
 - ・持続可能性を考慮して、機材や物資は可能な限り現地購入。
 - ・適切な物資やサービスを妥当な価格に入手できるよう、少なくとも 3 社から見積書を取り寄せる。
- ⑩ 資金調達
- ⑪ その他

【補助金対象外のプロジェクト】

グローバル補助金の要件を満たしていない場合は、要件を満たすための変更提案等を職員から行いますが、変更を加えられない場合は対象外となります。

事例として次のものがあります。

- ・プロジェクトの内容が重点分野と一致していない。
- ・プロジェクトの成功しないリスクが高い。または持続可能でない。
- ・プロジェクトが主に他団体のプログラムを支援するものであるもの。
- ・地域社会の調査が実施されていない。
- ・その他

【グローバル補助金の申請ポイント】

- ① My Rotary の「補助金センター」の「補助金センターの利用ガイド」にて申請手順の確認をします。

- ② 申請受付は通年随時です。
- ③ プロジェクトの実施場所は基本的に海外のみです。
- ④ 実施期間は年度を跨いで行えますが、申請時の計画通り実施してください。
- ⑤ 本地区の地区財団活動資金（DDF）を活用する場合、事前に地区財団委員会へ「グローバル補助金申請書」（地区書式・日本語）を提出し、ガバナー及び地区財団委員会の承認を受けてください。
- ⑥ ガバナー及び地区財団委員会の承認後に My Rotary で財団本部に申請してください。
- ⑦ 申請書作成に十分な時間を確保しましょう。
- ⑧ 予算規模は一件当たり 30,000ドル以上200,000ドル以内です。
- ⑨ 補助金の承認は財団本部が判断の後に、ガバナーと地区財団委員会が承認します。
- ⑩ クラブが DDF 承認後 6 ヶ月以内に財団にグローバル補助金を申請しない場合、本地区の DDF 承認は撤回されます。

【申請書記入事項】

プロジェクトの目的、活動内容、プロジェクトの計画と実施スケジュール、地域調査のニーズ、重点分野、協力団体とパートナー（該当の場合）、ボランティアの旅行（該当の場合）、参加するロータリー会員、予算、調達資金、持続可能性、モニタリングと評価計画など

※上記情報の漏れ等の場合、申請書は審査されません。

※申請書の入力始める前に「グローバル補助金申請書のテンプレート」で必要事項を確認しましょう。

※プロジェクトへの思いやニーズの記載はあるものの、具体的に補助金を何に使うかなどの説明が抜け落ちている申請書があります。同じ内容を繰り返して書いている場合は、追加情報の依頼などがある場合があります。提出前に第三者に確認していただき、内容が伝わるかチェックしてください。

【審査】

提出された申請書は日本の補助金担当職員により審査され、通常 2～6 週間以内に内容を確認する又は審査結果のメールが送られてきます。追加情報の依頼は、実施国側の提唱者だけに送られることがあります。情報の確認や必要な追加資料がある場合に送られますので、これが届いたから承認の見込みがないということはありません。奨学金の場合も、事前審査を受けていない場合や入学許可書に条件が付いている場合は送られることがあります。

【承認通知】

承認されると承認通知が届きます。英語のみの場合もありますが、追加条件がない場合は、拠出金の送金方法、旅行についての注意、報告書について記載されています。

【グローバル補助金の受領口座情報の提出】

グローバル補助金を日本側で受領する場合は、事前に口座名を提唱者の名称（クラブの場合はクラブ名、地区の場合は、地区名）を含む補助金専用口座をご用意の上、銀行口座の情報を、申請書提出後にご入力ください。銀行口座は、補助金承認の条件になっています。申請書提出時に援助国側・実施国側双方に自動的に送られるメールに、口座情報を提出するという案内が含まれています。相手方が相談なく提出してしまうこともありますので、事前に確認し、申請書提出後は速やかにご入力をお願いいたします。なお、年度替わりの役員変更にともない、口座名義を変更されるケースがありますが、補助金専用口座は、できる限り変更しないようにお願いします。

【拠出金の送金】

現金拠出（寄付）をする場合は、申請が承認されてから送金します。承認通知にリンクされているフォームは米国用の寄付用紙なので、公益財団法人ロータリー日本財団 寄付送金明細書（ロータリー会員／クラブ用）をご利用ください。

ロータリー財団を通じて送金する場合は、5 %の上乗せが必要です。補助金受領口座に直接送金する場合は、5 %の上乗せは不要ですが、寄付の記録や個人寄付に対する税制上の優遇措置、ポール・ハリス・フェローの認証の対象にはなりませんのでご注意ください。なお、詳細については『寄付・認証の手引き』をご参照ください。

【世界報告分析（World Reporting）】

地区で報告書の期限を確認する場合は、四半期ごとに送られてくる「世界報告分析」で確認します。提唱者と報告期限が表示されていますので、報告期限が過ぎていない場合でも、この後の四半期に報告書の締切日が来るプロジェクトについて確認し、あらかじめ準備してください。なお、7 月に送られたメールの表の「報告書の提出状況（はい・いいえ）」は「延滞の有無の Yes/No」の意味です。

補助金センターの〈私の補助金〉の進行中のプロジェクト（承認済み補助金）には、資金提供のみのプロジェクトも表示されます。代表提唱者になっていない場合は、報告書の遅れによる影響はありません。

【報告要件（中間報告と最終報告）】

・双方の提唱者は、補助金資金の使用について報告義務があります。補助金の報告書は「補助金センター」を通じてオンラインで提出します。報告内容は、目標に向けた進捗、ロータリー会員の参加状況、支出と財務管理を含みます。

・当地区のグローバル補助金終了報告必要書類の提出

クラブはプロジェクトが完了してから報告期日までに以下の3点を財団本部へ提出する最終報告書とは別に地区財団委員会にご提出してください。

① グローバル補助金の申請書（「My Rotary」よりダウンロード）

書類の右上の「状況」欄が「終了」と記載されているものを提出してください。日本語以外で書かれているものでも可とします。

② ロータリー財団本部からのプロジェクト終了メール（Grant Closed）

調達資金提唱者は代表提唱者より入手してください。日本語以外で書かれているものでも可とします。

③ プロジェクトの概要報告書

日本語でA4一枚程度に簡潔にまとめてください。また内容は5W3Hの「いつ、どこで、何を、どうした、なぜ、いくらで、どのくらいの期間で」を考慮して作成してください。また、資金調達提唱者は代表提唱者より提供される写真はA4一枚に収まる程度に5、6枚を添付してください。またその時にキャプション（プロジェクト）実施中：設置、銘板、教育訓練風景、使用中など）を付けてください。

④ 財団本部への最終報告書が行われ、プロジェクト最終メール（Grant Closed）を受け取るまではプロジェクトは終了せず、最終報告書が終了後一年間を過ぎても承認されない場合にはプロジェクトが終了するまで関係するクラブは新たなプロジェクトの申請はできなくなります。

※奨学生に書類作成を一任してしまうクラブがありますが、奨学生が記入する部分は申請書や報告書の一部です。提唱者であるクラブが記入する部分や銀行取引明細（クラブの通帳の写し）も必要です。また、奨学生個人の口座情報は不要です。領収書や支出の明細のみご提出ください。

※報告書の提出には双方の、代表連絡担当者とクラブ会長の4名の承認が必要です。いずれも現職ですので、事前に補助金センターが開けるかどうか確認してください。最終段階になって、My ROTARY は開けるが、そのアウントがロータリー会員として認識されていないため補助金センターを開けないというケースがあります。My ROTARY の登録には、クラブの会員情報の連絡先に事前に登録されているメールアドレスを使う必要があります。

【報告期日】

- ・ 報告書は最初の補助金の受領または前の報告書の受理から 12 ヶ月以内、その後は 12 ヶ月ごとに提出します。
- ・ 最終報告書の提出期限は、プロジェクトの完了から 2 ヶ月以内です。
- ・ 報告書の提出締切日は、My Rotary の補助金センターに表示されます。
- ・ 期日までに報告書が提出できない場合、新しい補助金を受領することができません。
- ・ 実施地がインドの場合は、常に 5 月 31 日が提出期限です。

※地区役員は「My ROTARY の補助金センター」→「私の補助金」→「承認済みの補助金」から報告書の期日を見ることができます。

※奨学金の場合も、報告書の期日は支払日からの起算となります。終了が 9 月で、報告期限が 8 月という奨学生も多いです。奨学金を使い切っていれば早めに最終報告書を提出することができますので、少しだからと期限が過ぎることがないように注意してください。完了時まで支出の予定があり未使用の補助金（奨学金）があると予測される場合は、中間報告を学期の終わりなので早めに一度提出してください。

【補助金の標識・表示】

補助金活動において、ロータリー会員は、補助金プロジェクトにおける補助金提唱者とロータリー財団の役割を明確に識別するため、標識・表示をプロジェクト実施地、またはその近接位置に表示しなければなりません。標識の使用については、ロータリー財団章典の第 40.010.2 項および、ブランドリソースセンターにあるガイドラインに従います。詳細は「ロータリー財団の補助金プロジェクトの表示および「ロータリー」の名称またはロータリーの標章に関する指針」もあわせてご参照ください。標識にかかる費用に、1,000 ドルまで補助金を利用することもできます。トイレや灌漑設備、病院など建物や区画全体を補助金で支援をしている場合は、入口など目に付くところにプロジェクトの標識を掲げます。寄贈する機器や備品には、提唱クラブのロゴやプロジェクトの標識を直接添付します。小さなものは保管ケースに表示することもできます。寄贈品にロゴだけを添付する場合は提唱者のロゴを使用します。イベントなどの場合も、イベント名に提唱クラブ名を含めるとともに、「この活動は、ロータリー財団の補助金を利用しています」など補助金を利用していることがわかるような記載を、会場の案内やチラシなどに含めます。奨学生についても、可能な限り講演や論文発表時などに、ロータリー奨学生であることを記載するようにご案内ください。

【その他】

・本資料においては「プロジェクトの実施、モニタリング、評価」に対する内容等は省略しています。詳しくは My Rotary の「グローバル補助金ガイド」等の関係資料をご参照ください。

・グローバル補助金の要件および制約事項については、最新のロータリー財団 「グローバル補助金 授与と受諾の条件」を参照してください。

(参照) <https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/global-grants>

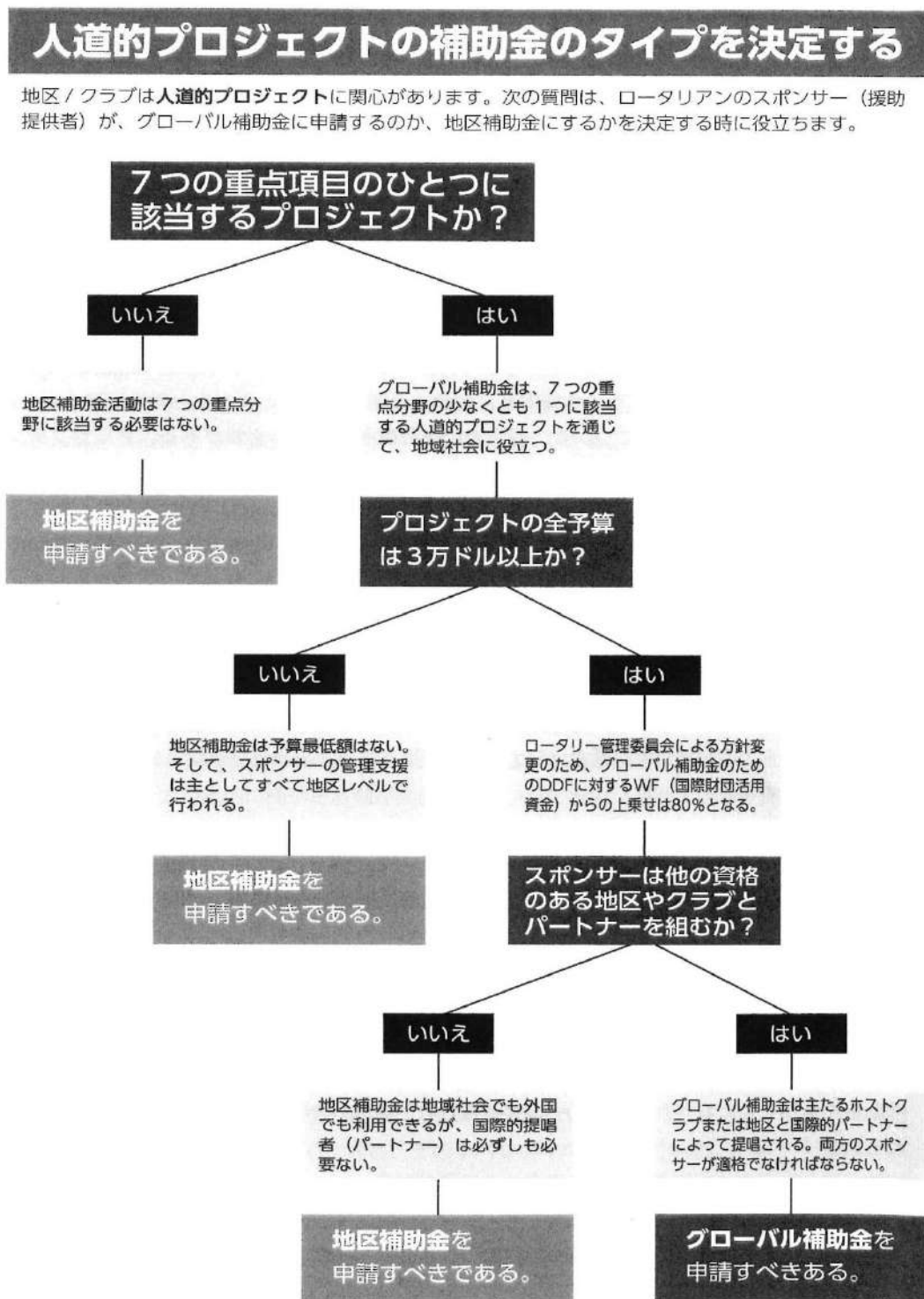
・グローバル補助金 免除規定の廃止…人道的グローバル補助金の資金を受領しなかった援助国側提唱者に適用されていた、「報告書が期日を過ぎて未提出であっても、新規補助金の受領を制限されることはない。」という免除規定が廃止となりました。これは2024年7月1日以降に承認されたプロジェクトから適用されます。よって、参加資格認定を受けた地区やクラブは、覚書(MOU)にある通り、提唱した補助金の資金管理や報告について対等に責任を持ちます。

【地区補助金と（DG）とグローバル補助金（GG）の比較】

【補助金の選び方】

以下のチャートは、海外で行う活動やプロジェクトのための補助金の選択方法の一例です。地元で行う活動やプロジェクトは、地区補助金を利用します。

補助金モデルフローチャート



比較一覧

項目	地区補助金	グローバル補助金
財源	財源は地区財団活動資金(DDF)。	財源は地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)、クラブ拠出金の組合せ。DDF に対し 80%の WF が上乗せされる。
補助金限度額	DG の総額は 3 年前の年次基金寄付と前年度の恒久基金の運用益合計の 50%が上限。	DDF からの地区補助金、ポリオプラスや平和センターへの寄贈等を控除した残額を配分します。また、DDF 申請限度額は次のとおりです。 代表提唱者…20,000 ドル 調達資金提唱者…10,000 ドル その他、DDF 繰越金は原則としてここに加算される。
参加資格認定	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金管理セミナーの出席 ・クラブの覚書(MOU)の提出 ・地区独自の制約に同意が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金管理セミナーの出席 ・クラブの覚書(MOU)の提出 ・地区独自の制約に同意が必要。
申請時期	実施前年度中であり、申請期日を厳守。	随時受付 ※奨学生については申請時期に注意が必要。
申請先	地区財団委員会が一括して TRF に申請し、一括して補助金を受取る。その後地区からクラブ等に補助金を授与。	地区財団委員会の確認後に、クラブ等が My Rotary より TRF へ申請する。よって、個別申請となる。
プロジェクトの実施場所	地域・海外。実施国にロータリークラブの有無を問わない。ただし、OFAC 対象国※の場合は事前に地区財団委員会と協議。	基本的に海外であり、ロータリークラブ存在する国または地域のプロジェクトのみ対象。ただし、ベトナムは実施可能。

プロジェクトの要件	TRF および地区要件あり。ロータリー財団の目的に即したプロジェクトが対象。	TRF および地区要件あり。7つの重点分野の1つ以上に該当するプロジェクトのみ対象。
プロジェクトの主体	クラブと地区が主たる実施者で、申請書を提出し実施と報告の責務を負う。	申請書・報告書は実施国提唱者と援助国側提唱者の両者が協力をしなければならない。確かな相手を選定してください。
予算規模	地区補助金予算内	1つのプロジェクトにつき、\$ 30,000 以上 \$ 200,000 以内。
補助金承認要件	地区要件に従い、地区ロータリー財団が承認。	ガバナーと地区ロータリー財団委員会が確認し、TRF が承認。
実施期間	補助金を受領する年度内に報告書まで完了する短期間のプロジェクトを実施。	現地調査も含め、プロジェクト完成まで1年以上かかるプロジェクト（例外:職業研修チーム）
報告義務	実施者は事業完了後2ヵ月以内に完了報告書を作成し、地区全部を取り纏めて TRF へ完了報告書の提出が義務付けられている。	プロジェクト完了後2ヵ月以内に TRF へ完了報告書の提出が義務付けられている。プロジェクトが1年を超える時は中間報告の提出が必要。報告書が提出されないと TRF より地区への次年度の補助金支給が停止。
資金管理者の責任	補助金は受給者（クラブなど）に管理責任があり、地区も最終責任を負う。	補助金は受給者（クラブなど）に管理責任があり、地区も最終責任を負う。
補助金の残額	補助金の残額を合計して TRF に返却し、DDF として繰越す。	個別のプロジェクトの補助金で残金があった場合、TRF に返却。

費用について	原則ロータリアンに係る費用は不適格。その他の制約事項あり。	ロータリアンの旅費は支給できない。ただし、職業研修チームのチームリーダーを除く。
--------	-------------------------------	--

OFAC(オフアック)対象国≡米国財務省外国資産管理局規制対象国

地区補助金を使用して海外援助する場合に、その援助先が米国財務省外国資産管理局（OFAC）規制対象国の場合は OFAC 専門職員が活動の詳細を検討し、確認をする必要があります。地区補助金は、地区財団委員会が、地区内クラブの全申請を 1 つのプロジェクトとして申請するため、万一そのプロジェクトが承認されなかった場合には、地区内クラブから申請されたプロジェクト全体が承認されなくなります。このため該当クラブは、計画年度の早い段階で地区財団委員会と申請について協議していただきます。なお、協議の結果、申請を受理できない場合がありますのでご了承ください。

・OFAC(Office of Foreign Assets Control)規制：米国が国家の安全保障を脅かすとして指定した国等で、経済的制裁対象としている。北朝鮮、スーダン、シリア、ソマリア、リビア他であるが、申請時に最新情報を確認してください。

A) ロータリー財団地区補助金 授与と受託の条件：「受領資格のある活動」D. (p.2)

D. 米国および補助金から資金提供される活動が実施される国の法律を遵守し、害を与えないこと（米国財務省外国資産管理局〔OFAC〕による制裁対象国での活動の提唱や旅行を計画しているプロジェクトは、追加情報の提供が求められる場合がある）。

B) 制限対象国の確認方法（すべて英文のホームページ）

- ① ウェブページ <https://ofac.treasury.gov/> にアクセス
- ② 画面右側の“Sanctions Lists and Sanctions List Service (SLS)”にある「VIEW LISTS」をクリック
- ③ 画面がかわったら、左側の「Sanctions Programs and Country Information」をクリック
- ④ 国ごとの情報が表示されます。

ポリオプラス Polio Plus

「ポリオ」という病気について

1. ポリオ（急性灰白髄炎）は、ポリオウイルスが人の口のなかに入り腸の中で増殖し、増えたポリオウイルスは再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染する非常に感染力の高い病気です。特に感染しやすいのは5歳未満の子どもです。また、ポリオウイルスの特徴として人体でしか増殖できません。
2. ポリオウイルスに感染した場合、病気としての症状があらわれずに知らない間に免疫ができます。しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手と足に麻痺があらわれることがあります。
3. 現在残念ながら特効薬などの確実な治療法はありません。

ポリオワクチンについて

ポリオはワクチンによって予防可能であり、ワクチンは「生ポリオワクチン」と「不活化ポリオワクチン」※があります。日本では2012（平成24年）9月1日から生ポリオワクチンの定期予防接種は停止され、不活化ポリオワクチンの定期接種を導入しています。

※「生ポリオワクチン」と「不活化ポリオワクチン」の違いについて

「生ポリオワクチン」はポリオウイルスの病原性を弱めてつくったものです。免疫をつける力が強い一方で、まれにポリオにかかった時と同じ症状がでることがあります。「不活化ポリオワクチン」は、ポリオウイルスを不活化（＝殺し）し、免疫をつくるのに必要な成分を取出して病原性をなくして作ったものです。ウイルスとしての働きがないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応がありません。（但し、発熱などの副反応がある場合があります）

日本でのポリオワクチン接種について

生まれた子どもは生後54ヵ月までに不活化ポリオワクチンを、初回接種3回、追加接種1回、計4回の接種が実施（計5回実施地域あり。）されている。1回当たり約5,000円、子ども1人に付き約20,000円必要であり地方自治体の負担となっています。

ポリオプラスの「プラス」とは？

1985年にロータリーがポリオプラスを開始した時、「プラス」という意味は、ポリオ根絶の取り組みが、子どもの間に流行する他の5種類の伝染病（はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風）の予防接種にも広がるだろうという考えを表していました。現在「プラス」の意味はウイルスの研究所や診療所の巨大なネットワーク、ポリオや COVID-19 などの各種感染症の監視（サーベランス）、世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）などの官民パートナーシップなど、ポリオがこの世の中からなくなった後にも、ほかの感染症との闘いを支えていく「インフラ」と「協力態勢」という遺産を意味しています。

「世界ポリオ根絶推進活動」について GPEI : Global Polio Eradication Initiative

GPEI は国際ロータリーをはじめとするパートナー団体と各国政府による、世界からポリオ根絶することを使命とする官民共同のパートナーシップのことです。この GPEI にもたらした最も大切なものは1985年にロータリーが掲げた「ポリオのない世界」というビジョンです。

・ GPEI の主な官民組織

国 …アメリカ、英国、カナダ、日本など（支援額順）

民間…国際ロータリー、世界保健機構（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センター（CDC）、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、Gavi など。

・ GPEI は主要パートナー団体が異なる役割分担を担っている。

1. 世界保健機構（WHO）→「戦略」担当

GPEI の実施と管理、各国保健省に技術面や運営面のサポートを提供。活動成果のモニタリング、戦略の立案。

2. 米国疾病対策センター（CDC）→「ウイルス対策」担当

疫学者、公共保健専門家、科学者を起用してポリオ流行について調査。

ウイルスの種類と感染源を特定。

3. UNICEF（国連児童基金）→「予防接種」担当

ワクチンの購入と分配。予防接種の効用に関する意識向上。UNICEF のフィールドワーカーは現地のヘルスワーカーやボランティアと共に予防接種を実施。

4. 国際ロータリー→「アドボカシー※」担当

会員の持つ事業と専門職、ボランティアのネットワークを生かし、ポリオの意識向上、募金、地域社会の動員、政府や民間への支援の働きかけ（アドボカシー）を実施。

※アドボカシー（advocacy）とは、「アドボケイト」と同じ語源で「擁護・代弁」や「支持・表明」などの意味を持ち、同時に政治的、経済的、社会的なシステムや制度における決定に影響を与えることを目的とした、個人またはグループによる活動や運動を意味する。

※ロータリーの GPEI における資金の約 11% を拠出。（民間部門の約 42%）

5. ビル&メリンダ・ゲイツ財団→「リソース（財源）」担当

民間団体としてポリオ根絶に最も多額の寄付を実施。技術面でのリソースも提供。

長年にわたるポリオ根絶活動の進展を示す数字

- ・ポリオ予防接種を受けた子供の数：約 30 億人
- ・予防接種活動がなかったなら身体まひになっていたと考えられる人の数：1,940 万人
- ・ポリオ予防接種キャンペーン中に GPEI が配給したビタミン A（健康的な成長と発達に欠かせない栄養素）によって予防された子どもの死亡者数：150 万人
- ・野生型ポリオウイルスによる症例の減少率：99.9%
- ・野生型ポリオウイルスによりポリオ発症を報告している国数：125 カ国から 2 カ国に減少。
- ・ロータリーが世界ポリオ根絶活動に投入した資金：22 億ドル以上
- ・ロータリーが確保に寄与した各国政府から世界ポリオ根絶活動への追加支援：100 億ドル
- ・ポリオプラス補助金の支援を受けた国：122 カ国
- ・ポリオ根絶活動を今止めた場合、今後 10 年間まひを発症する恐れのある子どもの数：年間 20 万人

ポリオが根絶可能である理由

ポリオは根絶可能な疾病であり、私たちは根絶を必ず成し遂げる。なぜそう言い切れるのか。ヒトの病気で唯一根絶に成功した疾病がある。それは天然痘です。それでは根絶可能な疾病の条件について次の通り説明します。

1. ポリオウイルスの感染期間は非持続的

ポリオウイルスの感染は短期的です。つまり、ポリオに感染した場合、感染力のある期間は限られています。野生型ポリオウイルスの感染力が長期化したという症例は報告されておらず、ほとんどの場合、感染期間は1～2週間程度です。

2. ポリオウイルスの感染経路は感染者とその排泄物のみ

中には感染経路が多すぎて根絶できない疾病もありますが、ポリオウイルスは通常、ヒトの排泄物だけが感染源となります。ポリオの根絶は決して容易ではありませんが、このような感染経路の特性を知ることによってポリオの克服に近づくことができます。

3. ポリオウイルスが自然界で生存し続けることには限界がある

現在、ヒトへの感染を繰り返す野生型ポリオウイルス株は一種類しか存在しません（かつては、継続的にヒトに感染するポリオウイルス株は3種類あった）。野生型のポリオウイルスは、ヒトの体内以外では長く存在することができません。つまり、すべての人びとが予防接種を受けていれば、ポリオウイルスは宿主を見つけることができず、絶滅へと向かうのです。ロータリーが子どもたちに一人ひとりに予防接種を提供し続けていく必要があるのは、こうした宿主をゼロにするためです。ポリオウイルスの生存期間は気温などの条件により異なりますが、感染力は時間と共に弱くなります。

4. ヒトが唯一の宿主

昆虫や動物、ヒトを介して感染する疾病は数百種も存在します。ポリオが根絶可能である理由の一つに、ヒトが唯一の宿主であることが挙げられます。何度も立証が試みられましたが、動物を介して生存・感染拡大するポリオウイルスは現在に至るまで確認されていません。

5. ポリオワクチンの予防接種でウイルス感染を防ぐことができる

安全で効果的な2種類のポリオワクチンに加えて、予防接種により集団免疫を生み出すことができます。これにより、ポリオに対して免疫力を持つ人口の割合を増やすことができます。ポリオワクチンの経口投与という大規模な取り組みを通して特定の地域に住む子どもたちに予防接種を一斉に行い、ポリオの感染力が失われるまで人びとの免疫力を高めることができます。これにより、野生型ポリオウイルスの伝播が阻止されます。ポリオを根絶できると確信できるもう一つの理由は、私たちが世界のほぼすべての国でポリオを根絶してきたという事実です。例えば、つい最

近の2007年まで世界のポリオ症例の70%が集中していたインドでも、ポリオ根絶に成功したことが挙げられます。野生型ポリオウイルスの症例が現在も報告されている国は2カ国（パキスタン・アフガニスタン）のみであり、私たちはこれらの国からもポリオを根絶するための手段と科学的知識を有しています。

ポリオを根絶すべき5つの理由

1. 子どもたちを守る

根絶だけでなく予防だけを行うなら、ウイルスの再発生により、今後10年間に年間発症者20万人という以前の状態に戻る可能性がある。

2. 根絶は実現可能

ポリオ予防に非常に効果のあるワクチンと世界中すべての子どもにワクチン接種を行うための手段がある。

3. 投資効果

2010年11月に出版された有力学術誌『Vaccine』の推定によると、1988年～2035年までの間にGPEIにより行われる根絶活動に基づく経済的な恩恵は、400～500億米ドルとなる。

4. 医療システムの強化

ポリオ根絶活動を通じて、世界中に感染のサーベランス（監視）ネットワークが築かれた。現在、このネットワークを利用して、はしかの予防接種のほか、虫下し剤や蚊帳の配給など、その他の疾病予防も行われている。

5. 世界的な公共保険活動モデル

世界のすべての子どもにワクチンを投与することが可能であれば、公共保健における他の主要な取り組みも可能であることが実証される。

活動するロータリー

130万人以上のロータリー会員が、ボランティア、寄付、募金活動を通じて根絶活動を支援しているほか、大勢の会員がポリオ感染のリスクの高い海外の地域社会に赴いて、予防接種活動に参加しています。また、ユニセフなどの団体と協力し、紛争や地理的・経済的要因によって隔離された地域で予防接種への認識を高めるためのコミュニケーション活動を実施しています。さらに、ボランティア動員やワクチン輸送などの手配面でも支援を行っています。

「あと少し」キャンペーン

ロータリーは、ポリオ根絶に対する一般の知識を高めるために「あと少し」キャンペーンを立ち上げ、以下を含む多くの著名人が参加しています。

- ビル・ゲイツ
- デズモンズ・ツツ大司教（ノーベル平和賞受賞者）
- （故）緒方貞子（元国連難民高等弁務官）
- ジュディ・オング（歌手）
- マニー・パツキャオ（ボクサー）
- アーチャー・パンジャビ（女優）
- ジャッキー・チェン（俳優）
- ジャック・ニクラウス（プロゴルファー）
- PSY（歌手）
- ジェーン・グドール（自然保護活動家）
- A.R.ラフマーン、アンジェリーク・キジョー、ジギー・マーリー（アカデミー賞受賞者）
- ヌール・ヨルダン王妃（平和唱道者）
- イツァーク・パールマン（バイオリニスト）

【ポリオプラス・ソサエティ（PPS）について】

ポリオプラス・ソサエティ（PPS）は、あと少しとなったポリオプラス根絶までの活動資金の安定と増加にご協力いただくため、地区単位でポリオ根絶まで毎年100米ドルを「ポリオプラス」にご寄付いただくロータリー会員の参加・登録を進めていただくものです。ポリオプラス・ソサエティの始まりは2016年にさかのぼります。第5110地区（アメリカ・オレゴン州）の当時のデル・グレイ地区ガバナーとベンド・ハイ・デザートロータリークラブのハリエット・シェロアー氏の考案によるものでした。第5110地区がこのプログラムを始めると間もなく他の地区でもPPSプログラムの導入がはじまりました。その後、第27ゾーン、第26ゾーンの地区へと導入が広がり、その後、世界各地での活動に広がっています。なお、毎年100米ドルのご寄付をお約束いただいた方には登録証とソサエティメンバーのピンバッジを受け取っていただくことになっています。また、このご寄付はロータリー財団の寄付実績に反映され、ポール・ハリス・フェロー認証の対象となり、クラブ・地区の実績にも反映されます。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団より2倍の上乗せがあります。なお、例えば3年分として一括300ドルを寄付さ

れると、1年目300ドル、2年目・3年目はゼロとしての計上になりますのでご注意ください。他の年度の分を一度に寄付することというのはできません。

世界ポリオデーの推進用 ツールキットをご活用ください！

世界ポリオデー関連の活動の際には、ぜひ「ツールキット」をご活用ください！

（「財団室NEWS」2022年10月号P.4記載 クリック後、zip ファイルのダウンロードが始まります。） ツールキットの内容 チラシのPDF版データや、活動のアイデア、イベントの招待状に使えるテンプレート、ソーシャルメディアへ掲載するメッセージのサンプルなど。 また、画像も一緒に入っています。

ポリオ根絶運動啓発グッズの貸出について

各クラブでのポリオ根絶に向けての活動支援のために、ポリオプラス運動啓発のためのグッズを貸出します。

募金箱、ポリオ根絶運動の横断幕、のぼり旗、ベストなどを用意しておりますので地区事務所までお申し出ください。

ポリオプラスの主な歴史

- ・ 1979年 3-H プログラム（保健、飢餓追放、人間性尊重）としてフィリピンの600万人の児童にポリオの予防接種する5ヵ年計画開始。
- ・ 1982年 東京麹町ロータリークラブ（当時の258地区）の南インドでのポリオ取り組み開始。
- ・ 1985年 故アルバート・セービン博士の助言と支援を得てポリオプラス・プログラム開始。
- ・ 1988年 ロータリーによる募金キャンペーンの成功を受けて、世界保健総会が全世界ポリオ根絶の目標を定め、「世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）」を開始。
- ・ 1993年 GPEI を通じてポリオ予防接種を受けた子どもが5億人を突破。
- ・ 1994年 西半球でポリオフリーが宣言される。
- ・ 1995年 全国一斉予防接種を支援する「ポリオプラス・パートナー」プログラムを開始。

- ・ 2000年 西太平洋地域のポリオフリーが宣言される。
- ・ 2002年 財団が1年間の募金キャンペーンにより、目標額（8000万米ドル）を大きく上回る1億3000万米ドルを達成。
- ・ 同年 ヨーロッパ地域のポリオフリーが宣言される。
- ・ 2002年 ビル&メリンダ・ゲイツ財団から「世界保健のためのゲイツ賞」として100万米ドルがロータリー財団に授与される。
- ・ 2007年 ポリオ根絶資金を集めるため、ビル&メリンダ・ゲイツ財団がロータリーに対して1億米ドルのチャレンジ補助金を授与。
- ・ 2009年 ビル&メリンダ・ゲイツ財団が、ポリオ根絶活動のためにさらに2億5500万米ドルをロータリーに授与。
- ・ 2012年 2009年に始まったビル&メリンダ・ゲイツ財団の2億米ドルのチャレンジに対して、ロータリーが目標額を上回る2億2800万米ドルの募金に成功。
- ・ 同年 インドがポリオ常在国リストから除外される。
- ・ 2013年 ビル&メリンダ財団が5年間、年間3500万米ドルまでのロータリーからの根絶寄付をマッチング対象として、ロータリーにおける寄付の2倍額を上乗せすることを発表。ロータリーでは「End Polio Now」（「歴史に1ページを刻もう。」）キャンペーンを開始。
- ・ 2014年 東南アジア地域のポリオフリーが宣言される。
- ・ 2017年 ロータリー財団100周年
財団生誕の地アトランタで国際大会開催。ロータリーをはじめ寄付国、寄付団体がポリオ根絶に13億ドルの寄付を約束。ロータリーにおいては、向こう3年間で1億5000万米ドルを約束する。また、ロータリーのポリオ根絶寄付に対してビル&メリンダ・ゲイツ財団が倍額を上乗せしてきたマッチングを継続し、7月1日から向こう3年間、年額5000万米ドルまでをマッチング対象とすることを約束した。ロータリーは、マッチングと寄付を合わせて向こう3年間で4億5000万米ドルを提供することとなる。
- ・ 2019年 世界ポリオ根絶推進活動のパートナーとして Gavi, The Vaccine Alliance を追加。
Gavi, The Vaccine Alliance (Gavi) は、2000年に開催された世界経済フォーラムの年次総会（ダボス会議）で発足したグローバル・パートナーシップ機関である。予防接種を受ける機会がないため予防可能な感染症によって命を落とす子供たちが多くいる低所得国と、

予防接種支援のための出資国、世界保健機関（WHO）、国際児童基金（UNICEF）、世界銀行、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、ワクチン業界、研究・技術機関や市民社会団体等をひとつに結びつけることで、子供たちが予防接種を受ける権利の公平性を高め、世界のワクチンギャップを改善することを目指した活動を行っている。2000 年以降、Gavi の支援活動によって、延べ 5 億人以上の子供たちが予防接種を受け、700 万人以上の命が救われてきたと推計されている。

- ・ 2020 年 ロータリーとビル＆メリンダ・ゲイツ財団は、ポリオ根絶に年間 1 億 5 0 0 0 万米ドルを投入するための長期パートナーシップをさらに継続することを発表。この提携の下、ロータリーは今後 3 年間、毎年 5 0 0 0 万米ドルを拠出することを目標に掲げ、ゲイツ財団がロータリーの拠出金に対して 2 倍額を上乗せすることとなる。
- ・ 同年 8 月 8 月 2 5 日に WHO アフリカ地域の野生型ポリオ根絶が認定される。
- ・ 同年 9 月 『TIME』誌が選ぶ『世界で最も影響力のある 100 人』にロータリアンのナイジェリア・ポリオプラス委員長であるツンジ・フンショ氏が、『TIME』誌の「世界で最も影響力のある 100 人」に選ばれた。
- ・ 2021 年 2021 年 7 月 1 日有効で、ポリオプラスへの DDF に対する WF の上乗せを 1 0 0 % から 5 0 % に削減。
- ・ 2022 年 米国ニューヨーク州でワクチン由来のポリオウイルス 2 型が検出され、英国ロンドンで収集された複数の環境サンプルからウイルス分離株が確認される。ポリオが世界のどこかに存在する限り、どの国においても脅威であることを証明した。
- ・ 同年 ロータリーとビル＆メリンダ・ゲイツ財団はポリオ根絶に向けた長年のパートナーシップをさらに延長することを発表した。ロータリーは今後 3 年間、毎年 5,000 万ドルを集め、その 2 倍額がゲイツ財団から上乗せされる。
- ・ 同年 ジェニファー・ジョーンズ R I 会長がポリオ根絶に向けた 1 億 5 0 0 0 万ドルの追加誓約を発表。
- ・ 同年 1 0 月 クラブと地区が運営するポリオプラス・ソサエティ（PPS）を支持し、独自の寄付者認証のガイドラインを作成することにロータリー財団委員会が同意。
- ・ 同年 1 1 月 第 2 7 5 0 地区ガバナーエレクトの宮崎陽市郎さん（東京三鷹 RC）が宗谷岬（北海道）から佐多岬（鹿児島）に至る約 2, 7 5 0 キロ

- を自転車で走破し、ポリオ根絶のためのファンドレイジングを立ち上げる。
- ・ 2023年 ポリオ根絶を目指す「RECYCLE TO END POLIO」プロジェクトがスタート。「世界の子どもにワクチンを日本委員会」(JCV) は「ペットボトルキャップを集めてポリオワクチンに」というわかりやすいアクションで啓発活動を実施。GPEI やポリオ根絶のための議員連盟も支援している。
 - ・ 同年 仲間同士でロータリー財団への募金（ファンドレイジング）を立ち上げることができるツール「Raise for Rotary」で日本円の利用が可能となる。
 - ・ 同年 11月 ポリオ根絶自転車レース MILES TO END POLIO 開催
 - ・ 同年 米国のジョン・オッケンフェルス（アイオワシティ AM.RC 会員）とピーター・ティーエン（シーダーラビッツ・ウエスト RC 会員）は、エンジン 1 基のセスナ機を操縦して 3 ヶ月間で地球を一周し、ポリオ根絶のための募金と意識向上を行った。その実現に 3 年の月日かける。
 - ・ 同年 12月 変異ポリオウイルスによるポリオ発生を食い止めるための画期的なポリオワクチン（nOPV2）を WHO が承認。
 - ・ 2024年 1月 17 日付け、イスラマバード（パキスタン）発、日本政府はパキスタンにおけるポリオ根絶に向けた取り組みへの継続的な支援の一環として、必要不可欠な経口ポリオワクチンを調達するために、国連児童基金（UNICEF）に 5 億 1,600 万円の無償資金協力を行う事を発表。本資金協力により、2024 年のポリオ予防接種キャンペーンに使用される、2,100 万回分以上のワクチンが調達される。
 - ・ 同年 3月 米国テキサス州出身で、人生の大半である 70 年間で「鉄の肺」の中で生きたポール・アレクサンダーが 3 月 17 日、78 歳で死去。アレクサンダーは 1952 年、6 歳の時にポリオに罹患し、首から下がマヒして自力で呼吸できなくなる。法律の学位を取得して、司法試験に合格し、一時はダラスで弁護士として活躍する。
 - ・ 同年 4月 ポリオ根絶に多大な貢献を果たしたジョン・セバー博士が 92 歳で死去。
 - ・ 同年 8月 オーストラリアのビクトリア戦略経済研究所による研究成果として、WHO 東地中海地域の優先 8 カ国（アフガニスタンとパキスタンを含む）で今後のポリオ根絶活動を成功させるならば、非常に高い

投資効果が得られることを発表。経済社会的な利益は合計 2,892 億ドルに上ると推定され、この作業にかかる現在の費用は 75 億ドルであるために、投資効果は 1 ドルにつき約 39 ドルとなる。

- ・同年 12 月 名誉世界保健機関 (WHO) 西太平洋事務局長の尾身茂氏が「Rotary Polio Eradication Ambassador」に就任。
- ・2025 年 6 月 22 日、カナダのカルガリーでの国際大会において、ロータリーとゲイツ財団は、ポリオ根絶の実現に向けて長年のパートナーシップを更新し、今後 3 年間に最大 4 億 5,000 万米ドルをポリオ根絶に向けて投じる共同コミットメントを発表した。

〈参考資料〉

●採択決議案 16-118[提案者：RI 理事会]

ポリオ根絶は国際ロータリーの最高の目標であることを承認し支持する件
国際組織、国内組織、地元組織との協力と協議の下に行われているロータリーのポリオプラス・プログラムにおける究極の目標は、すべてのポリオウイルスの世界的根絶の認定である。

2016 年規定審議会の決議により、国際ロータリーは、

- ・すべてのポリオウイルスの世界的根絶の認定という目標が当組織の最優先課題であることを支持し承認する。
- ・野生株ポリオウイルスの根絶が証明されるまでは、組織全体の他のプロジェクトを一切採択しないことを確認する。
- ・2004 年規定審議会決議案 04-525 号に従い、以後の審議会によって承認されるまでは、組織全体の他のプログラムは一切採択されないことを確認する。

●アフガニスタンに関する GPEI 声明

2021 年 8 月 19 日

世界ポリオ撲滅イニシアティブ(GPEI)は、アフガニスタンの動向を注意深く監視しています。GPEI のパートナーとスタッフは現在、国内のスタッフと最前線の医療従事者の安全とセキュリティを優先しながら、監視と予防接種活動の継続性を確保するために、ポリオ根絶活動と他の不可欠な保健サービスの提供を当面分けて評価しています。アフガニスタンのポリオプログラムは、不安と紛争の中で長年にわたり活動しており、予防接種の提供を可能にするすべてのアクター、機関、組織と協力し、全国の困っている人々に人道支援を提供していきます。GPEI は、ポリオからすべての子どもたちを保護し、その他の必須予防接種や保健サービスの提供を支援することに引き続き断固として取り組んでいます。私たちは、ポリオワクチン接種を含む医療の提供は、病気を予防し、地域社会を守るために不可欠であると強く信じています。私たちのパートナー、アフガニスタンの人々、国家および地方当局と一緒に、我々はこの重要な仕事を続けるために全力を尽くします。

●米国の WHO 脱退意向および USAID の対外援助凍結に関するロータリーの声明

2025 年 2 月 13 日

ロータリーは、世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）のパートナー団体である世界保健機関（WHO）から米国が脱退の意向を示しているという最近の発表を注視しています。ロータリーは引き続き、ポリオ根絶の使命に固い決意で臨んでいきます。GPEI の創設パートナー団体であるロータリーは、数十年にわたり、世界からポリオを根絶するために GPEI のすべてパートナー団体および米国政府やほかの国の政府と緊密に協力してきました。この世界的な取り組みにより、1988 年以来、ポリオによってまひを患う子どもの数は 99.9%減少しました。また、すべての子どもに予防接種を行うために、長年にわたって何度も革新が重ねてられてきました。今回の米国の決定は新たな課題をもたらしますが、予防可能なこの疾病からすべての子どもを守るために、私たちは今後も全力で取り組んでいきます。ロータリーは、GPEI が引き続き、適応と革新を通じて、米国をはじめ世界のすべての子ども、特に支援が最も行き届きにくい遠隔地の子どもにポリオの予防接種ができるよう、効果的な戦略を実施していくと確信しています。「ポリオのない世界」の実現にとって最も重要な決定は、日々、子どもを予防接種に連れていく親によって行われています。ロータリーは、「ポリオのない世界」という約束を果たすために、引き続き GPEI のすべてのパートナー団体と協力することを決意しています。過去にも人類は天然痘を根絶しました。そして今、私たちは共に、ポリオを地球上で 2 番目に根絶されるヒト疾患とすることができます。

●ロータリーと USAID のプロジェクト

ロータリーは 2009 年以来、さまざまな種類のプログラムで米国国際開発庁（USAID）と協力してきました。実施中のプログラム、および USAID の職員やリーダーとのコミュニケーションは、USAID による事業停止命令を受け、現在保留となっています。国際ロータリーは、この影響を直接受けるプロジェクトを担当する会員に対し、このことを既に通知し、これらの活動を行う会員を引き続き支援できるよう努めています。国際ロータリーは、USAID との提携による「Hearts of Europe」プロジェクトに対する最近の事業停止命令による影響を受け、今後の活動方法を模索しています。実施中のすべてのプロジェクトに対しては、停止命令の発効中に実行すべきことについて通知が送られました。実施前のプロジェクトについては、ほかの資金源を確保するために国際ロータリーとプロジェクト担当者が協力して対応しています。

ロータリーカード Rotary Credit Card

2000年9月に国際ロータリーは、クレジット・カード・プログラムを開始しました。日本では、Master Card（オリコ）が2003年2月に個人カードを、2013年7月に法人カードを始め、Diners Club が2016年2月にクラブカードを、2017年3月に個人カードを始めました。カード利用の0.3～0.5%がポリオ根絶活動資金へ寄贈されています。

ロータリーカード歴史

2000年9月	2003年2月	2013年7月	2016年2月	2017年3月
VISA Card 個人	MasterCard 個人（オリコ）	MasterCard 法人（オリコ）	Diners Club クラブカード	Diners Club 個人
				
米国で誕生！	日本で誕生！	法人向け に誕生！	世界初！ 地区・クラブ・委員会 専用のカードが誕生！	高額決済カード 誕生！

【ロータリーカードの種類】

ロータリーカードは次の2種類です。

1. マスターカード（Master Card）：Orico
2. ダイナースクラブカード（Diners Card）：三井住友トラスト(株)

ロータリーカード 種類と概要

	マスターカード 個人		マスターカード	ダイナースクラブ	
	スタンダード	ゴールド	法人	クラブカード	個人
デザイン					
年会費	無料	10,000円	3,000円	無料	22,000円
ポリオ根絶活動資金	利用額の0.3%	利用額の0.3%	利用額の0.5%	利用額の0.3%	利用額の0.3%
		年会費から3,000円	年会費から1,500円		入会費5,000円

【マスターカード (Master Card)】

種類は3種類

① [個人 スタンダードカード]

- ・年会費無料
- ・ポリオ根絶活動資金 利用額の0.3%

② [個人 ゴールドカード]

- ・年会費11,000円(税込)
- ・ポリオ根絶活動資金 利用額の0.3%
- ・年会費での寄付額3,000円

③ [法人カード]

- ・年会費3,300円(税込)
- ・ポリオ根絶活動資金 利用額の0.5%
- ・年会費での寄付1,500円

※以上のカードは個人・クラブの年次基金には加算されません。

【ポイント交換】

対象カード

個人 スタンダードカード

個人 ゴールドカード

※法人カードは対象外。

※個人・クラブの年次基金として加算される。

【オリコカードのポイントサービス「暮らスマイル」のしくみ】

1,000円で「1スマイル (ポイント)」

例) カードで50,000円ショッピング→50スマイル。

例) カードで旅行代金を150,000円決済→150スマイル。

※ノーマルステージの場合

【オリコカードによるポイント交換での寄付】

寄付金→1,000スマイル (ポイント) で5,000円。これ以下は不可。

目的→個人又はクラブの年次基金

手続き→交換手続き必要

その他→個人・クラブの年次基金として交換

※注意事項

①毎年3月末までに交換申請したものが5月にロータリー財団への寄付となる。但し、税制上の優遇措置は受けられない。

②4月1日から6月末日までに交換申請したポイントは次年度の計上となる。

【手続き方法】

e オリコサービスの場合

- ① e オリコサービスにログイン→但し、別途「ご利用登録」（無料）が必要。
- ② 「暮らスマイル」メニューをクリック。
- ③ 交換する商品を選ぶ

オリコテレホンサービスの場合

- ① フリーダイヤル 0120-911-004 又は 03-5877-5555 へ電話
- ② サービス番号をプッシュ→暮らスマイル 7 6 ・スマイル照会・交換 0 2
- ③ カード番号と暗証番号を入力
- ④ 交換する商品の商品番号・数量を入力
商品番号 9 4 0 5 「ロータリー財団への寄付(個人の年次基金に計上分)」
1 0 0 0 スマイルポイント=5, 0 0 0 円分
商品番号 9 4 1 0 「ロータリー財団への寄付(クラブの年次基金に計上分)」
1 0 0 0 スマイルポイント=5, 0 0 0 円分

その他 ローターアクトの RI 加盟(2 0 1 9 年 COL)によりローターアクターの適応が2 0 2 0 年1月より始められました。

【ロータリーダイナースクラブコーポレートカード】

このカードはクラブで加入するクラブのためのカードです。

毎年度2回支払う人頭分担金や財団寄付金、ロータリーグッズの購入費、国際大会登録料、通信費事務局運営費など用途に応じたカード利用が可能です。とても便利です。

各種カードの用途に応じた利用例



メリットについて

- ① 年会費無料
- ② 利用額の0.3%がポリオ撲滅支援資金へ
- ③ 事務局員さんの事務作業軽減など

例えば、クラブ人頭分担金の支払は年2回（7月と1月）ですが、金融機関などからの送金は手数料が掛かります。このカードを利用すれば My Rotary から簡単な操作で支払が可能です。さらに手数料は一切掛かりません。

入会手続きにつきましては下記ホームページなどでご確認ください。

https://www.diners.co.jp/ja/entry_form/lp/rotary/index.html

ダイナースコールセンター：0120-041-962

コーポレートカード：0120-369-527

個人カード：0120-951-515

カード加入手続きについての概要

入会申込人を1名選出してください。

会長、副会長、幹事、会計、理事、会長エレクト、次期副会長、次期幹事、次期会計、次期理事、事務局員※

※ 事務局員を申込人とする場合は「カスタマーコード」の会員IDの記入は不要です。

申込必要書類は、以下の中から2点添付書類として必要です。

- ・運転免許書 表裏両面又は運転経歴証明書
- ・健康保険証 表裏両面（住所記載のもの）
- ・パスポート 住所記載ページ見開き・写真ページ見開き
- ・マイナンバーカード（個人番号カード）など

その他

カード発行にあたりクラブ内でのカードの管理、運営等に関するルールをご検討ください。

認証 Recognition

認証とは、財団がご寄付のお礼として寄付者を表彰するものです。寄付分類や認証額によって送られる認証が異なります。

【認証の分類】

- ・個人の認証（ロータリアン、ノンロータリアン、ローターアクター※、インターアクター※）
※ローターアクターとインターアクターとしての登録が必要。
- ・法人の認証/感謝状
- ・クラブに対する認証/感謝状（ロータリークラブ、ロータリーアクトクラブ、インターアクトクラブ）
- ・地区に対する認証

個人の認証

① 「財団の友」会員

年次基金に毎年 100 米ドル以上寄付された個人です。

② ポール・ハリス・フェロー（PHF：Paul Harris Fellow）

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー（PHF+1～+8：Multiple Paul Harris Fellow）

ポール・ハリス・フェローは寄付分類として年次基金、ポリオプラス、ロータリー災害救援基金、財団が承認した補助金プロジェクトへの寄付および移譲されたポール・ハリス・フェロー認証ポイントの合計が 1000 ドルに達した個人に贈られる認証です。その後、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー1 から 8 までの認証が、1,000 ドル毎に累計 9,000 ドルまで贈られる。

※マルチプルとは「多数・複数」の意味。例えば1度ポール・ハリス・フェローになった方（累計 \$ 1,000 以上寄付した方）が、もう一度ポール・ハリス・フェロー対象の累計に達するとマルチプル・ポール・ハリス・フェローになります。例えば PHF+3 の場合、マルチプル・ポール・ハリス・フェローの 3 回目で、累計 4,000 米ドルの方に送る認証です。

③ ベネファクター (Benefactor)

恒久基金に1,000米ドル以上寄付した方、または資産計画にロータリー財団を受益者として指定することを書面にてロータリー財団に通知した方。ただし、ベネファクターの認証は、恒久基金への寄付合計が1,000米ドルに達した1回のみ贈られる認証です。(認証ポイントは含まない。)

④ メジャードナー (MD : Mejor Donor、MD レベル 1~4]

寄付分類に関わらず累計額が1万米ドル以上寄付された方の認証。個人又は夫婦に対して贈られます。

- ・ 認証ポイントはこの認証の対象とはならない。
- ・ 累計のレベルごとにクリスタルおよび認証ピンが贈られる。クリスタルに刻む名前や配偶者の情報などを確認するため、対象者のクラブ宛へ送られる「メジャードナー認証回答書式」に記入し、返送のこと。本書式は、日本事務局よりメールで送られる。

⑤ アーチ・クランフ・ソサエティ (AKS : Arch Klumph Society、レベル 1~6]

寄付分類に関係なく累計25万ドル以上の寄付された方の認証です。個人又は夫婦に対して贈られ、入会式があります。

⑥ 遺贈友の会 [レベル 1~10]

遺産計画において1万米ドル相当以上の寄付を誓約した個人又は夫婦が会員となります。寄付は「恒久基金」として運用され、収益の一部がロータリー財団の活動を支えます。

※2万5千米ドル相当以上の誓約の場合、誓約が果たされた際に「冠名基金」の設立を同意書に含めることができる。

※レベル7からは、併せてレガシー・ソサエティの会員となる。

※税制上の優遇措置あり。

⑦ レガシー・ソサエティ (Legacy Society)

恒久基金に100万米ドル以上の寄付を誓約（遺贈などを含む）した個人又は夫婦が会員となります。

⑧ ポール・ハリス・ソサエティ (PHS : Pole Haris Society)

年次基金、ポリオプラス、ロータリー災害救援基金、承認された財団補助金プロジェクトへの寄付として一括又は合計で毎年 1,000 米ドル以上の支援を約束いただける個人の認証です。約束を履行している間は PHS 会員です。PHS のポイントやメリットとして①ロータリー会員の地元や海外でのプロジェクトや活動を資金面で支える。②DDF (地区財団活動資金)の増加につながる (年次基金-シェアへの寄付) ③入会者には地区より襟ピンや認証状が贈られるなどです。

※PHS 会員入会については PHS 推進用パンフレットにて申し込むか又は RI ウェブサイトにアクセスして入会する。

[PHS の入会方法]

My ROTARY にログインし、画面上部タブの「My ROTARY」→「寄付者の認証」→「ポール・ハリス・ソサエティ・メンバー」の文末にある「詳細はこちらから」をチェックする。ページ下部にある「PHS 入会フォーラム」をクリックすると、フォームが表示される。→必要事項を入力する。

会員情報：地区番号、会員 ID、姓名 (ローマ字)、E メールアドレス→入力完了後「SUBMIT」を押す。

(データ送信が完了すると、地区ポール・ハリス・ソサエティコーディネーターへの情報が通知され、追って、確認メールが届く。)

※恒久基金及び法人からの寄付は対象外。

⑨ ポリオプラス・ソサエティ (PPS : Polio Plus Society)

あと少しとなったポリオ根絶までの活動資金の安定と増加に協力いただくため、地区単位で、ポリオ根絶まで毎年 100 ドルを「ポリオプラス」にご支援くださるロータリー会員の参加・登録を進めていただくものです。実施は地区主導となっているため、登録や登録証、ピンバッジ等については地区へお問い合わせください。

⑩ 冠名基金 (Named Endowed Funds)

恒久基金内に寄付者又は最愛の方の名前を冠した基金(冠名基金)を設立できます。

冠名基金は、個別に管理され、年に一度、寄付者に報告書が送付されます。

寄付の額や目的に応じて、基金の条件を選択できます。

分類	説明
25,000米ドル冠名基金 Named Endowed Fund	国際財団活動資金 (WF)、シェアシステム、ロータリー平和センターに対する一般的な支援またはロータリーの7つの重点分野のいずれかのグローバル補助金への一般的な支援に活用されます。
15万米ドル以上活動種類別のグローバル補助金冠名基金 Activity Global Grant Endowed Fund	カスタマイズされた冠名基金を設立することにより、人道的プロジェクト、奨学金、職業研修チームのいずれかの補助金を支援できます。
25万米ドル以上カスタマイズされたグローバル補助金恒久基金 Customized Global Grant Endowed Found	カスタマイズされた冠名基金を設立する際に、次の条件から2つまで指定できます。 A) 活動種類（人道的プロジェクト、奨学金、職業研修チーム） B) 重点分野 C) 地区 D) 実施地（アフリカ、アジア、南米など） ※冠名基金の設置にはロータリー財団からの承認が必要。 ※冠名基金の投資収益の一部のみが、毎年プログラムのために活用される。
50万米ドル以上カスタマイズされたグローバル補助金冠名基金 Customized Global Grant Endowed Found	カスタマイズされた冠名基金を設立する際に、次の条件から3つまで指定できます。 A) 活動種類（人道的プロジェクト、奨学金、職業研修チーム） B) 重点分野 C) 地区 D) 実施地（アフリカ、アジア、南米など）

⑪ チャレンジ・ギフト (Challenge Gift)

「誰か 1,000 米ドル寄付すると言ったら、私も 1,000 米ドル寄付します」と言って、ロータリアンに挑戦の宣言をする方法です。

上限を設定して、「私は誰か寄付すれば、その同額を寄付する」と宣言します。1 対 1 のチャレンジ・ギフトとは限りません。ロータリーのポリオプラス寄付に対して、ビル&メリンダ・ゲイツ財団は 2 対 1 のチャレンジ・ギフトを今後 3 年間続けることを 2020 年 1 月に更新し、今後 4 億 5000 万米ドルを集めると発表しています。よって、ロータリーとしては毎年度 5000 万米ドルを寄付することを目標としました。

⑫ メモリアル・コントリビューション (Memorial Contribution : 思い出の寄付)

金額に関係なく、亡くなった人を偲んで寄付する行為。寄付の分類は問いません。寄付者には後日、ローリー財団から礼状が送られるので、故人の名前や寄付者から見た故人と関係および礼状の送付先を日本事務局財団室へお知らせします。類似した寄付として誕生日や結婚などの機会にする「記念寄付」があります。

【法人の認証／感謝状】

ロータリー財団では、法人、財団法人、政府機関、非政府団体、大学、研究所などからのご寄付に対して感謝の気持ちを表す機会をご用意しています。手続き方法は、日本事務局財団室へご連絡ください。そして認証は、10 万米ドル以上の法人（協賛団体、ロータリー関連団体は除く。）と個人として認証されていないものに対し、累計に応じて贈られます。レベル 1～レベル 6。感謝状は 1,000 米ドル以上のご寄付に対し、希望される企業には感謝状が贈られます。

クラブに対する認証／感謝状

クラブに送られる認証は次の通りです。なお、認証品としてバナー又は感謝状が贈られます。

① 「Every Rotarian, Every Year」クラブバナー

一年度中に正会員全員※（年度途中の入・退会者は除く。）が、年次基金へ少なくとも 25 ドルの寄付をして、一人当たりの年次基金平均寄付額※が 100 米ドルに達しているクラブに贈られます。（認証を受ける手続きは不要です。）

② 100%ロータリー財団寄付クラブバナー

一年度中に正会員全員※（年度途中の入・退会者は除く。）が、寄付分類に関わらず少なくとも25米ドルの寄付をして、一人当たりの平均寄付額※が100米ドルに達しているクラブに贈られます。（認証を受ける手続きは不要です。）

③ 100%ポール・ハリス・ソサエティ・クラブ認証バナー

一年度中に正会員全員※（年度途中の入・退会者は除く。）が、一括でも合計でも一年度中に合計1000米ドル以上寄付したクラブに贈られます。対象となる寄付分類は、年次基金、ポリオプラス及び財団が承認した補助金プログラム。（認証手続きが必要です。）

④ 年次基金への一人当たりの寄付額上位3クラブ

地区において、一年度中に一人当たりの年次基金への平均寄付額※が上位3位に入ったクラブに贈られます。資格を得るためには、クラブは一人当たりの年次基金への平均寄付額※が最低50ドルに達していなければなりません。（認証を受ける手続きは不要です。）

※一人当たりの平均寄付額は年度初め（7月1日）の会員数を基に計算されます。
この計算に使う寄付額には、年度途中の退会者、新入会員からの寄付も含まれます。

① 100%ポール・ハリス・フェロー・クラブ

クラブの正会員全員がポール・ハリス・フェローになっているクラブに贈られます。MY ROTARYから「クラブ認証概要レポート」で確認可能です。（認証手続きが必要です。）

② Rotary's Promise クラブ

クラブの正会員全員が恒久基金に寄付したクラブに感謝状（電子ファイル）が贈られます。（認証手続きが必要です。）遺言によるロータリー財団への遺贈の誓約、または恒久基金への1,000米ドル以上の現金寄付がこの表彰の対象となります。

③ End Polio Now の感謝状

ポリオプラスへ1,500米ドル以上寄付したクラブに贈られる感謝状です。
（認証手続きは不要です。）

④ ローターアクトクラブ寄付達成証

一年度中にクラブまたは個人からのご寄付の合計が100ドルに達したローターアクトクラブに贈られる感謝状（電子ファイル）です。個人寄付の場合はその寄付者がローターアクターとして登録されていることを確認し、5「寄付の方法」に従って手続きをする。

【認証ポイントについて】

認証ポイントは、年次基金、ポリオプラス、ロータリー財団が承認した補助金プロジェクトへロータリー財団を通じて寄付をした際に、1米ドルにつき1ポイント与えられるものです。寄付者は認証ポイントを移譲して、ほかの人をポール・ハリス・フェロー、またはマルチプル・ポールハリス・フェローにすることができます。なお、恒久基金への寄付は認証ポイントの対象とならないことに留意してください。また、自分自身やクラブに移譲はできません。

① 認証ポイントの確認方法

地区ガバナー、クラブ会長、幹事および事務局員、クラブ役員等は My ROTARY を通じて、クラブ認証概要レポート（Club Recognition Summary：CRS）で確認することができます。個人の寄付者は、My ROTARY のプロフィールから「寄付者履歴レポート」で移譲可能な認証ポイントや移譲された認証ポイントを確認することができます。

② 認証ポイントの移譲方法

「ポール・ハリス・フェロー認証ポイント使用申請書」をメールまたは FAX にて日本財団事務局に送付。申請書は MY ROTARY からダウンロードできます。

[留意点]

- ・一度に移譲できるポイントは100ポイント以上。それ未満は不可です。但し、小数点以下も移譲可能です。
- ・クラブが所有する認証ポイントの移譲を承認するには、クラブ会長の承認が必要です。
- ・移譲の申請書は本人の直筆署名が必要です。
- ・申請書はアルファベット表記で、タイプ入力が必要となっています。
- ・2つ目の項目の Print Name（移譲者の氏名）は Taro Yamada のようにアルファベットで入力してください。
- ・認証ポイント移譲で受けられる認証は、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 8（9,000 米ドル）までとなっています。

・その他、手続き方法については財団事務局へお問い合わせください。

【My ROTARY アカウントやメールアドレスの登録を確認しましょう！】

寄付・認証に関するレポート閲覧や、補助金手続きの際には、ご自身のロータリー会員情報に紐づいた My ROTARY の アカウントが必要です。My ROTARY のアカウントは、事前にロータリーへご登録いただいているメールアドレスにて作成します。My ROTARY での作業が必要となるタイミングでスムーズにできるように、また、補助金に関する連絡などロータリーからのメールが届くように、有効なメールアドレスが登録されているかどうか定期的にご自身の登録情報の確認をお願いいたします。（特に補助金手続きは、事務局の方による代行はできません。また、寄付累計や履歴が掲載されている寄付者履歴 レポートは、ご本人様のみ閲覧可能となっております。）

◆ My ROTARY アカウントをすでにお持ちの方：メールアドレスの確認

1. My ROTARY へログイン。
2. トップページにて所属クラブ名や地区番号などが表示されることを確認。（表示されていない場合、正常に会員情報と 紐づいていない可能性がございます。）
3. ログイン用 E メールアドレスを確認します。画面右上の「マイアカウント」をクリックし、出てくるメニュー内の「アカウント 設定」をクリック。
4. 「セキュリティ」欄に現在のログイン用 E メールアドレスが表示されます。変更する場合は青字「ログイン用 E メールを変更」からお手続きください。
5. 次に、主要なメールアドレスを確認します。画面右上の「マイアカウント」をクリックし、出てくるメニュー内の「マイプロフィール」をクリック。
6. 「連絡先情報」欄に「主要な E メールアドレス」や住所などが表示されています。最新の情報であることをご確認ください。右側の青字「入力／変更」から更新することができ、「R I からの連絡にこの E メールを使用」を選択しているメールアドレスが、あなたの主要なメールアドレスとなります。

≪留意点≫ 登録内容の混乱を防ぐため、上記「主要な E メールアドレス」と「ログイン用 E メールアドレス」には、同じメールアドレスを使うことを強く推奨しております。通常、補助金関連のメールはログイン用 E メールアドレスへ送られます。

トップページに所属クラブ・地区の表示がない方

My ROTARY にログインした際に、トップページに所属クラブ・地区番号の表示がない場合、会員情報とそのアカウントが 正しく紐づいていない可能性があります※。データサービス部 data@rotary.org へ、お名前（アルファベット）、所属クラブ名、ロータリーの会員番号（ID 番号）、ログインに使ったメールアドレス、ロータリー会員として My ROTARY にログインができていない旨を書いてご連絡ください。メールは日本語でお送りいただけますが、お名前と会員番号（ID 番号）は半角英数でお願いします。通常、数日から 1 週間程で、その後の対応について、日本語で会員ご本人様へ送信されます。

※会員情報とアカウントが正しく紐づいていない場合、アクセスできるページが制限されてしまいます。

- ・自分の寄付や認証状況などを確認することができない
- ・登録済みのクラブ／地区役員として、クラブや地区の各種レポートが閲覧できない
- ・補助金センターへのアクセスができず、地区補助金やグローバル補助金の手続きができない等

1. ロータリーに登録済みのメールアドレスをご確認ください。これは、所属クラブのクラブ役員／事務局の方々が、My ROTARY の会員情報ページにてご確認ください。有効なメールアドレスの登録が無い場合、My ROTARY アカウントを作成する前に、必ず会員情報にメールアドレスをご登録ください。
2. 登録されているメールアドレスを使って、My ROTARY トップページからアカウント登録へお進みください。

《留意点》 アカウント作成に登録済みのメールアドレスを使うことで、その My ROTARY アカウントに会員情報が反映されます。登録されていないメールアドレスを使ってしまうと正しく会員情報が反映されず、そのメールアドレスを後から会員情報に登録することはできなくなりますのでご注意ください。

＜寄付分類と認証＞

認証（個人のみ）	寄付分類		
	年次基金	ポリオプラス／災害救援基金など	恒久基金
財団の友(RFSM)	○	x	x
ポール・ハリス・フェロー(PHF)		○	
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(MPHF 1～8)			
ポール・ハリス・ソサエティ(PHS)			
ベネファクター	x	x	○
メジャードナー(MD)	○	○	
アーチ・クランフ・ソサエティ(AKS)			

＜認証レベルと認証品＞

◆ポール・ハリス・フェロー(PHF)・マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(MPHF)

PHF	1,000 ～ 1,999.99ドル	認証状と襟ピン(メダルは有料)
MPHF 1	2,000 ～ 2,999.99ドル	襟ピン (サファイア1粒)
MPHF 2	3,000 ～ 3,999.99ドル	襟ピン (サファイア2粒)
MPHF 3	4,000 ～ 4,999.99ドル	襟ピン (サファイア3粒)
MPHF 4	5,000 ～ 5,999.99ドル	襟ピン (サファイア4粒)
MPHF 5	6,000 ～ 6,999.99ドル	襟ピン (サファイア5粒)
MPHF 6	7,000 ～ 7,999.99ドル	襟ピン (ルビー1粒)
MPHF 7	8,000 ～ 8,999.99ドル	襟ピン (ルビー2粒)
MPHF 8	9,000 ～ 9,999.99ドル	襟ピン (ルビー3粒)

◆ベネファクター Benefactor(恒久基金への寄付または誓約) 認証品は初回のみ

ベネファクター	1,000ドル以上	認証状と認証ピン(ウイング)
---------	-----------	----------------

◆メジャードナー(MD)

MDレベル1	1万ドル以上	クリスタルと襟ピン/ペンダントトップ (レベルごとにクリスタルの大きさ、ピン /ペンダントの石の数が変わります)
MDレベル2	2万5千ドル以上	
MDレベル3	5万ドル以上	
MDレベル4	10万ドル以上	

◆アーチ・クランフ・ソサエティ(AKS)

AKS管理委員会サークル	25万ドル以上	認証状・クリスタルと襟ピン/ペンダントトップ (レベルごとにクリスタルの大きさ、ピン /ペンダントの石の数が変わります)
AKS管理委員長サークル	50万ドル以上	
AKS財団サークル	100万ドル以上	
AKS管理委員会プラチナサークル	250万ドル以上	
AKS管理委員長プラチナサークル	500万ドル以上	
AKS財団プラチナサークル	1,000万ドル以上	

ロータリー平和センター Rotary Peace Centers

ロータリー平和センタープログラムは世界理解と平和という財団の使命を達成するため最優先されるプログラムです。ポール・ハリス没後50年と財団の教育プログラム創設50周年を記念して、ロータリー・ポール・ハリス・センターの設立計画を立てました。2000年10月の財団管理委員会により、「紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリーセンター」と名称を変え、さらに2005年2月には、世界平和奨学金（World Peace Scholarship）の名称が世界平和フェローシップ（World Peace Fellowship）、2009年には「ロータリー平和センター/ロータリー平和フェローシップ」に改正されました。

世界平和と紛争予防の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築いています。現在、毎年、世界中から選ばれる最高130人のフェローが、7つのロータリー平和センター（8つの提携大学）のいずれかで学んでいます。フェローシップには、授業料・入学金の全額、滞在費（宿泊・食費）、往復航空券、インターンシップと実地体験の費用が含まれます。

国際関係、平和研究、紛争解決や関連分野での修士号取得（50名、15～24ヶ月、実践スキルを身につけるため、2～3ヶ月間の実地体験に参加）、または、専門能力開発終了証取得（80名、タイとウガンダのロータリー平和センターにおける、オンライン学習、対面式の授業、個別プロジェクトを合わせた職業人のための1年間のプログラム）があります。

この目標を達成するため、ロータリーは世界の名門大学と提携しました。学術研究、実地研修、世界的なネットワークを構築する機会を提供することによって、未来の平和構築者を育てるのが、このプログラムです。

【ロータリー平和センターのある大学】

修士号取得プログラム提携大学（2023年現在）

- ・デューク大学およびノースカロライナ大学 チャペルヒル校（合同で一つの平和センターを運営。米国、ノースカロライナ州）
- ・国際基督教大学（日本、東京）
- ・ブラッドフォード大学（英国、ブラッドフォード）
- ・クイーンズランド大学（オーストラリア、ブリズベーン）
- ・ウプサラ大学（スウェーデン、ウプサラ）

専門能力開発修了証取得提携大学

- ・マケレレ大学（ウガンダ、カンパラ）
- ・パーチェシェヒル大学（トルコ、イスタンブール）

2002年ロータリー平和センター開設以来、115カ国以上から1500人を超えるフェローが平和センターを卒業し、現在、政府、NGO、教育・研究、軍、警察、メディアや芸術、または国連などの国際機関で活躍しています。

	修士号取得プログラム	専門職開発修了証プログラム
目的	明日のリーダーを育成	今日のリーダーを強化
期間	15～24 カ月間（提携大学により異なる）	1 年間
ロータリー平和センターの数	5	2
フェローシップの受領者数	最高 50 人（各ロータリーセンターにつき 10 人まで）	最高 80 人（1～4 月コースと 6～8 月コース/年、各コース 20 人まで）
実地研修	大学の長期休暇中、2～3 ヶ月間の実践的なインターンシップ	プログラム開始前の 2 週間オンライン準備コースと 11 週間の現地実習

【申請手続き】

地区がロータリー平和フェローシップ申請書を提出します。また、地区は世界競争制に基づく選考に向け、7 月 1 日までに申請書をオンラインで提出します。地区が提出できる申請数に制限はありません。

【要件】

候補者は以下の要件を備えていることが必要です。

- ・修士号取得プログラムの申請者は学士号（またはそれに該当する学位）、専門能力開発修了証取得プログラムの申請者は優秀な学業経験。
- ・3 年以上（専門能力開発修了証取得プログラムは 5 年以上）の関連分野における職歴またはボランティア経験。
- ・修士号プログラムと専門能力開発修了証取得プログラムいずれの場合も、英語に堪能であること。修士号取得プログラムではさらに、第二言語の能力。
- ・平和と国際理解への明らかな熱意。
- ・その他の要件については <http://www.rotary.org/ja/our-programs/peace-fellowships-certificate-program> を参照してください。

財団Q & A

Q1：なぜ継続事業は補助金対象とならないのですか？

A1：同じ支援が続いてしまうことで受益者の自立を妨げてしまうことを避けるためです。受益者がロータリーの補助金による継続的な支援がないと生活や活動ができなくなってしまうというような状況を作り出さないようにロータリー財団からの指導があります。

Q2：単純な金銭の提供や物品寄付はなぜ補助金対象とならないのですか？

A2：補助金を対象とするプロジェクトはロータリー活動の基本理念である『The ideal of service』（奉仕の理想）を具体化するための実践活動として位置付けています。多くのロータリアンが事業に参画し、「世界を変える行動人」としての姿をアピールしましょう。

Q3：授与と受諾の条件の中で、「創立記念式典に関する経費」は認められないとされていますが、式典に付随して記念事業として市が所有する場所へ植樹を考えています。補助金事業として該当しませんか。

A3：受益者がロータリアンやロータリークラブでなければ植樹事業部分のみ補助金対象となります。

Q4：補助金が入金された後に予定していたプロジェクトが諸事情により急遽実施できなくなりました。よって、プロジェクトを変更したいのですが認められますか。

A4：変更理由と変更するプロジェクトの内容等により可能です。但し、次の手順により変更してください。

- ① 担当する地区財団委員へ速やかにご連絡ください。
- ② 所定の「地区補助金計画変更申請書」を提出していただきます。
- ③ 再度、事業内容等を審査し、地区を通してロータリー財団へ報告します。
- ④ ロータリー財団より承認通知が届きましたら、再プロジェクトが実施可能です。

Q5：見積書、請求書、納品書および領収書はすべて必要ですか。

A5：すべて揃っていればベストですが、事情により揃わない場合は次のとおりです。

- ① 領収書(内容が明確なものに限る)は必須です。

- ② 金融機関の振り込みによる支払いで領収書がない場合は、「振込受付書」と「請求書」。請求書がない場合は「納品書」もしくは「注文書」が必要です。
- ③ 領収書も振込受付書もない場合は、「出金伝票」もしくは「支出決定書」が必要です。

Q 6：立替金が発生した場合は、どのように処理したらよろしいですか。

A 6：領収書の宛先がクラブ名でなく立て替えた個人名の場合は、立て替えた人がクラブ宛の請求書を発行して清算してください。この場合、個人宛の領収書(写)も一緒に添付してください。

Q 7：ローターアクトは、地区補助金またはグローバル補助金による奨学金を受領できますか？

A 7：はい。ロータリー財団管理委員会は、ローターアクトが地区補助金／グローバル補助金による奨学金の受領者なれることに同意しました。ただし、利害の対立に関するロータリーの方針を遵守するために、ローターアクトが受益者となる補助金の場合、その会員が所属するローターアクトクラブが提唱者となることはできません。

Q 8：My ROTARY にある寄付関連レポートに、ローターアクトからの寄付も含まれますか？

A 8：はい。寄付関連のレポートにローターアクトからの寄付が含まれることにより、寄付者の認証やクラブの寄付額の確認がしやすくなりました。このレポートは My ROTARY から入手でき、ローターアクトも自分の寄付履歴を閲覧できるようになります。また、クラブ、地区、地域の役員は、と所属するローターアクトのレポートを閲覧できるようになります。寄付データを含むレポートは、ロータリーのプライバシーの方針に従い、ロータリーの公式業務を目的としてのみ閲覧できます。財団の寄付関連レポートに関するご質問は annualfund@raotary.org までお寄せください。

Q 9：誰が補助金管理セミナーに出席しますか？

A 9：参加資格の認定を受けたいと望む各クラブから会員 1 名が出席する必要があります。会長エレクトは可能な限り出席してください。そのほかのクラブ役員、財団委員長など資金管理に関わる会員の出席をお願いします。なお、セミナーへの遅刻早退は出席と認められません。また、出席がない場合は、補助金参加資格を取得することができませんのでご了承ください。

Q 1 0 : 地区財団活動資金(DDF)における地区補助金支給資金の未利用額が生じていますが、各クラブに再配分は可能でしょうか？

A 1 0 : 当地区では各クラブの利用限度額である 3 年前の年次基金寄付（シェア）の 2 5 % 枠を超える申請はできないことになっております。なお、計画年度（実施年度の前年）に申請予定のない他クラブと共同でプロジェクトを提唱され、合算された補助金を利用することは可能ですのでご一考ください。

略語と用語集 Acronym and Terminology

ロータリーの資料には、色々な略語が出てきます。それらの略語をまとめ、簡単に説明を加えました。

【略語 Acronym】

略語	英語表記	意味
AF	Annual Fund	年次基金
AFE	Arch C. Klumph Society	アーチ・クランプ・ソサエティー
ARRFC	Assistant Regional Rotary Foundation Coordinator	ロータリー財団地域コーディネーター補佐
CDC	Centers for Disease Control and Prevention	米国疾病対策センター
CED	Community Economic Development	地域社会の経済発展（重点分野のひとつ）
CLE	Concentrated Language Encounter	語学力強化研修講座 /1987年から1992年にかけてタイで実施され、 タイ全土のすべての公立学校で採用され、他国のロータリークラブや地区で現在も活用されている識字教育法。
CLP	Club Leadership Plan	クラブリーダーシップ・プラン
COL	Council On Legislation	規定審議会
COR	Council On Resolution	決議審議会
CRS	Club recognition Summary	クラブ寄付認証概要
cVDPV	circulating Vaccine Derived Polio Virus	ワクチンに由来するポリオ・ウイルス
DAF	Donor Advised Fund	使途推奨冠名基金
DEI	Diversity, Equity and Inclusion	多様性、公平さ、開放性のこと。ロータリーはさまざまな人が参加できる開放的な組織、すべての人に公平で、善意を築き、社会に役立つ組

		織づくりに努めている。この目標を実現するため、RI 理事は、多様性、公平性、開放性に関する声明を採択した。
DG	District Grant	ロータリー財団地区補助金。これは地区ガバナー（District Governor）と同じなので、前後の文章から判断すること。
DLP	District Leadership Plan	地区リーダーシップ・プラン
DNA	The Disaster Network of Assistance	災害支援ネットワーク
DRFC	District Rotary Foundation Committee	地区ロータリー財団委員会
DRFCC	District Rotary Foundation Committee Chair	地区ロータリー財団委員長
DTA	District Training Assembly	地区研修・協議会
EAP	Emergency Action Plan	ポリオの緊急行動計画
E/MGA	Endowment/Major Gift Adviser	恒久基金/大口寄付アドバイザー
EPNC	End Polio Now Coordinator	ポリオ根絶コーディネーター
EPNZC	End Polio Now Zone Coordinator	ポリオ根絶ゾーンコーディネーター
EREY	Every Rotarian, Every Year	毎年、一人一人が年次基金への寄付する計画
ESRAG	Environmental Sustainability Rotary Group	環境の持続可能ロータリー行動グループ
FARG	Foundation Alumni Resources Group	財団学友諮問グループ
FVP	Future Vision Plan	（ロータリー財団）未来の夢計画
Gavi	Gavi. The Vaccine Alliance	ガビワクチンアライアンスはポリオ根絶 GPEI、WHO、国際ロータリ

		一、ビル&メリンダ・ゲイツ財団のコアパートナーの一つ。
GETS	Governors-Elect Training Seminars	カバナーエレクト研修セミナー
GFN	Global Food Banking Network	グローバル・フード・バンキング・ネットワーク、ロータリーの奉仕パートナー
GG	Global Grants	グローバル補助金
GANTS	Governor Nominee Training Seminars	カバナーノミニー研修セミナー
GPEI	Global Polio Eradication Initiative	世界ポリオ根絶推進活動または世界ポリオ根絶推進イニシアティブ
GSE	Group Study Exchange	研究グループ交換
HGCTA	Humanitarian Grants Cadre of Technical Advisors	人道的補助金専門家
IA	International Assembly	国際協議会
IA	Interactor	インターアクター（インターアクト会員）
IAC	Interact Clubs	インターアクトクラブ
ICC	Inter-Country Committees	国際共同委員会
ICGF	Intercity and Club General Forum	都市・クラブ連合一般討論会
IDM	Informal Discussion Meeting	炉辺会合など、IFM（Informal Fireside Meeting）ともいわれる。
IFM	Informal Fireside Meeting	炉辺会合など
IHE	International Institute for Hydraulic and Environmental Engineering	国際水工環境工学研究所（オランダ）、グローバル補助金の戦略パートナー
IM	Intercity Meeting	都市連合会
IPPC	International Polio Plus Committee	インターナショナル・ポリオ委員会

IPV	Inactivated Poliovirus vaccine	ポリオの不活化ワクチン
JICA	Japan international Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
LGBTQ	Lesbian、Gay、Bisexual、Transgender、Queer	セクシャルマイノリティー（性的少数者）を表す言葉で、Lesbian（レズビアン）は同性を恋愛の対象とする女性、Gay（ゲイ）は同性を恋愛対象にする男性、Bisexual（バイセクシャル）は同性も異性も恋愛対象となる人、Transgender（トランスジェンダー）は体の性と心の性が異なる人、Queer（クイア）またはQuestioning（クエスチョニング）性的指向や性自認が定まっていない人を意味する。ロータリーは、人びとが団結し、永続的な変化を生み出す行動をとる世界を構築するグローバルネットワークとして、年齢、民族、人種、色、能力、宗教、社会経済的地位、文化、性、性的指向、性同一性に関係なく、多様性を尊重し、あらゆる背景を持つ人びとを受け入れる。
MD	Major Donor	メジャードナー 大口寄付者
MOP	Manual Of Procedure	手続要覧
MOU	Memorandum of understanding	覚書
MPHF	Multiple Paul Harris Fellow	マルチプル・ポールハリス・フェロー
NIDs	National Immunization Day	全国予防接種日。ポリオ・ワクチンを全国的に投与するためのもの。
OFAC	Office of Foreign Assets Control	米国財務省資産管理局。この管理局の制裁対象国には、原則としてグローバル補助金や地区補助金を使うことができないが、実施する場合は早めに地区財団委員会と協議して

		ください。なお、制裁国は一定していないので、その都度確認すること。
OPV	Oral Polio Vaccine	経口ポリオ・ワクチン
PDG	Past District Governor	元ガバナー、バストガバナー（PGと表示することもある）
PEFC	Polio Eradication Fundraising Campaign	ポリオ根絶募金キャンペーン
PETS	President-Elect Training Seminar	会長エレクト研修セミナー
PG	Past Governor	元ガバナー、バストガバナー
PHF	Paul Harris Fellow	ポール・ハリス・フェロー
PHS	Paul Harris Society	ポール・ハリス・ソサエティー
PIIF-RFJ	Public Interest Incorporated Foundation, Rotary Foundation Japan	公益財団法人ロータリー日本財団
PP	PolioPlus	ポリオプラス
PPP	PolioPlus Partners	ポリオプラス・パートナー
RA	Retractor	ローターアクター
RAC	Rotaract Clubs	ローターアクトクラブ
RAG	Rotarian Action Group	ロータリー行動グループ
RAGFHAP	Rotary Action Group for Family Health and AIDS Prevention	家族健康とエイズ予防ロータリー行動グループ
RAGMHH	Rotary Action Group for Menstrual Health & Hygiene	月経衛生のためのロータリー行動グループ(WASH ロータリー行動グループとの連携を奨励されている)
RC	Rotary Coordinator	ロータリーコーディネーター
RCC	Rotary Community Corps	ロータリー地域共同体
RCHAC	Rotary Center Host Area Coordinator	ロータリー・センター・ホスト・エリア・コーディネーター
RCOP	Rotary Code of Policies	ロータリー章典
RF	Rotary Fellowship	ロータリー親睦活動
RFAC	Rotary Foundation Alumni Coordinator	ロータリー財団学友コーディネーター

RFAN	Rotary Foundation Alumni Network	ロータリー学友ネットワーク/ロータリー財団学友世界同盟 (Global Alliance of Rotary Foundation Alumni) が改称されたもの。学友会を結成するときは、申請書を提出する。ロータリーの事務総長が検討して、ロータリーの方針に合致していると判断すると、ロータリー財団が加盟認証状 (charter) を発行し、ロータリー財団学友ネットワークの下に認証される。
RFC	Rotary Foundation Coordinator	ロータリー地域コーディネーター
RFCOP	Rotary Foundation Cord of Policies	ロータリー財団章典
RFP	Rotary Friendship Exchange	ロータリー友情交換
RFG	Rotary Fellowships Groups	ロータリー親睦活動グループ
RFAM	Rotary Foundation Sustaining Member	ロータリー財団の友
RI	Rotary International	国際ロータリー
RIB	Rotary International Bylaws	国際ロータリー細則
RIBI	Rotary International in Great Britain & Ireland	グレート・ブリテンおよびアイルランド内国際ロータリー
RIC	Rotary International Constitution	国際ロータリー定款
RIJYEM	General Incorporated Association Rotary International Districts of Japan Youth Exchange Multidistrict Organization	一般社団法人 国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構 (ライジェム)
RIMZC	Rotary International Membership Zone Coordinator	国際ロータリー会員組織ゾーンコーディネーター

RITS	Rotary International Travel Service	国際ロータリー・トラベルサービス
RLGI	Regional Leaders Global Institute	地域リーダーグローバル研修セミナー
RLI	Rotary Leadership Institute	ロータリー・リーダーシップ研究会
ROTEX	Rotary Exchange	ローテックス(ロータリー青少年交換学生経験者の非公開グループ)
RPC	Rotary Peace Center	ロータリー平和センター
RPCMGI	Rotary Peace Center Major Gift Initiative	ロータリー平和センター大口寄付推進計画
RPIC	Rotary Public Image Coordinator	ロータリー公共イメージコーディネーター
RRFC	Regional Rotary Foundation Coordinator	ロータリー財団地域コーディネーター
RRIMCI	Regional Rotary International Membership Coordinator	国際ロータリー会員組織地域コーディネーター
RSS	Really Simple Syndication	<p>ブログなどウェブサイトの更新情報を配信するために用いられる文書形式。ご利用方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. RSS を利用できるインターネット (Google や MyYahoo!) で http://www.rotary.org/rss.xml を追加してください。ご自分やクラブのニーズに合わせて、ほかのプログラムで配信設定を行うこともできます。 2. ウェブサイト・コンテンツ用の RSS コードを作るには、「Generate Feed (配信システムを作成)」をクリックしてください。

		3. ご使用のウェブサイトの該当箇所にコードを入力してください。
RYLA	Rotary Youth Leadership Awards	ロータリー青少年指導者養成プログラム
SAA	Sergeant-at-Arms	会場監督
SAR	Semiannual Report	半期報告書
SDGs	Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標（2015 年 9 月の国際サミットで採択された国際社会の共通目標）
SRCC	Standard Rotary Club Constitution	標準ロータリークラブ定款
SRF	Shaping Rotary's Future	ロータリー未来形成
SRFC	Shaping Rotary's Future Committee	<p>ロータリーの未来形成委員会</p> <p>2018 年 7 月より設置された RI 委員会で、ロータリーが時代に沿った組織となることを促し、次の事柄について新たな視点を提供する。</p> <p>・地域リーダーとその構造（協議会・会長代理・地域リーダーの効果、および地域化モデルの検討など）、理事と地区の間のリーダー層、地区（数、大きさ、リーダーシップ、ガバナーの任務、地区大会の価値と効果）。</p>
STAR	Special Training for Action in Rotary	スター・プログラム

TRF	The Rotary Foundation	ロータリー財団
TRFB	The Rotary Foundation Bylaw	ロータリー財団細則
TRFC	The Rotary Foundation Cord of Policies	ロータリー財団章典
UNESCO-IHE	Institution for water Education : UNESCO	ユネスコ水教育研究所
UNICEF	United Nations Children's Found	国際連合児童基金
USAID	U.S. Agency for International Development	米国国際開発庁:米国の外交政策の目標を支援して、世界各地に人道的、経済的、開発面の援助をする。米国政府組織の一つ。2007 年 4 月に RI と協調するアライアンス (Global Development Alliance) を結んだ。
VTT	Vocational Training Team	職業研修チーム
WAS・MGA	Water and Sanitation Major Gifts Initiative	水と衛生のための大口寄付推進計画委員会
WASRAG	Water & Sanitation Rotarian Action Group	水と衛生のロータリー行動グループ
WCS	World Community Service	世界社会奉仕
WF	World Fund	国際財団活動資金
WFC	World Food Council	世界食料評議会

WHO	World Health Organization	世界保健機構
WPC	Wild Poliovirus	野生株ポリオ・ウイルス
WPD	World Polio Day	世界ポリオデー
YSA	Yous Service America	ロータリーの奉仕パートナー
YTD	Year To Date	現在まで(財団の報告書によく使われている)

【ロータリー財団用語 The Rotary Terminology】

名称/英語表記/内容
<p>ウェビナー/Webinar/ Web と Seminar の造語でオンラインセミナーのこと。ロータリーのホームページの My ROTARY からラーニングと参考資料のウェビナーをクリックする。ウェビナーのページには、いくつかの言語のセミナーが列記されている。Register Now をクリックすると、それだけで登録できる。その後、E-mail が届く。この E-mail は英文で、開催日時は米国標準時間である。E-mail にはアドレスがあり、このアドレスは他の人と共有できない。その後、日本時間の連絡がある。また Webinar の前日には連絡がある。当日は送られてきたアドレスを所定の時刻にクリックして参加できる。My ROTARY を通じて録画を見ることができる。</p>
<p>コーポレート・プログラム/Corporate Program/現在はポリオ・プログラムだけである。ロータリーという組織をあげて取り組むプログラム。</p>
<p>視覚的イメージ/Visual Identity/「Rotary」という文字と徽章(歯車)の両方が含まれている。「Rotary」の文字は、常に徽章の左に表示される。この公式ロゴを可能な限りどの資料にも表示する。「誇りのシンボル」(徽章のみ)と呼ばれるグラフィックもある。インパクトを強めるために使用するデザイン要素である。ただし、「誇りのシンボル (Mark of excellence)」のみを単独で使用するべきではない。必ずロゴと一緒に使用すること。ロゴの一貫性を維持することは、極めて重要である。「Rotary」の文字と徽章の配置と比率は、常にガイドラインの指定に従うこと。改造や変形は一切認められない。色の具体例については『ロータリーを生き生きと表現しよう「ボイス」とビジュアルアイデンティティのガイド』(547-JA)を参照のこと。ロータリーの襟ピンには変更はない。また、公式ロゴはクラブに強制するものではない。</p>

世界最大のコマーシャル/The World's biggest Commercial/世界のさまざまな国や文化圏の人びとが、ノーベル賞受賞者、映画スター、有名ミュージシャンたちと共に、声を一つにして「もう少し」のポーズをとる、ポリオ根絶「End Polio Now」を訴える CM である。手で「あと少し」(this close) のポーズを取った自分の写真を、アップロードするだけで、世界最大のコマーシャルに参加できる。

月次寄付レポート/Monthly Contribution Report : MCR/地区内各クラブの寄付一覧表。My ROTARY から見る事ができる。MY ROTARY ページの右下側の役立つツールの「ロータリークラブ・セントラル」を選び「レポート」の「ロータリー財団への寄付」タブを選択する。現在、所属クラブおよび地区に関する下記報告書が入手できる。

[クラブレポート]

- ポール・ハリス・フェロー/ベネファクターのレポート (Paul Harris Fellow and Benefactor Report)
- クラブ認証概要レポート (Club Recognition Report : CRR)
- クラブバナー認証レポート (Club Foundation Banner Report/For Rotary Year)
- メジャードナー/アーチ C. クランフ・ソサエティ/遺贈友の会レポート (Major Donor, Arch Klumph Society, and Bequest Society Report)
- クラブファンドライジング分析 (Club Fundraising Analysis/For Month)
- ポール・ハリス・ソサエティ・レポート (PHS)

[地区レポート]

- 月次寄付レポート (MCR : Monthly Contribution Report/For Rotary Year and Month)
- ポリオ・プラスに関するレポート (Polio Plus Report : For Rotary Year)

よく使うレポート

クラブ認証概要レポート (CRR)	月次寄付レポート (MCR)
クラブ ID	クラブ ID
氏名	クラブ名
クラブ会員 (現・元の区別)	会員数
認証額	年次寄付目標額
現在のレベル (PHF レベル)	目標達成度 (%)

PHF 認証日	年次基金（1 人当り）
以上可能な認証ポイント	年次基金（選択月）
前回の寄付（年月）と分類	年次基金（累計額）
ベネファクター	その他の基金（選択月）
自動定期寄付	その他の基金（累計額）
	恒久基金（選択月）
	恒久基金（累計額）
	合 計

ロータリーボイス/Rotary Voice/人に個性や性格があるように、組織にも個性や性格がある。これを表現するために用いるトーンやスタイルが「ボイス」である。ロータリーは他に類のない存在である。この個性をコミュニケーションや体験の中で相手に感じ取ってもらうには、私たちが常に同じ「ボイス」を使うことが大切である。そうすることによって、口頭での説明や会話、文章、視覚的デザインでボイスを認識し、一貫したロータリーの個性を表現できる。話し、書き、デザインする際にロータリーのボイスの特性（賢明さ、思いやり、粘り強さ、行動を促す力）を指針とする。各種の視覚的ツール（写真やインフォグラフィック）を活用すれば、さらに生き生きとロータリーの個性をかもし出すことができるだろう。『ロータリーを生き生きと表現しよう「ボイス」とビジュアルアイデンティティのガイド』（547A）参照のこと。

モニタリングと評価計画/Monitoring and Evaluation Plan/グローバル補助金の人道的プロジェクトと職業研修チーム（VTT）の場合、申請に際し、必要とされるもの。ロータリー財団の評価基準を認定しているが、独自に評価基準を決めても構わない。例えば受益者の数、新たに生じた雇用の機会などである。

ロータリークラブ・セントラル/Rotary Club Central/My ROTARY からクラブ・セントラルをクリックし、E-mail アドレスとパスワードでサインインする。クラブと財団寄付からそれぞれ目標を入力することができる。なお、新会員と退会会員は「運営する」→「クラブの運営」で報告できる。

奉仕プロジェクトセンター/Service Project Center/奉仕活動の情報を掲載できるロータリーのデジタルプラットホーム。このサイトは、会員が奉仕プロジェクトを管理し、活動内容やベストプラクティス、奉仕への関心をもたらします。奉仕プロジ

ェクトセンターの導入により、「ロータリーショーケース」は廃止されました。ロータリーショーケースに掲載されていたロータリーとロータクトの奉仕プロジェクトの情報はすべて、奉仕プロジェクトセンターに移行されました。

<https://spc.rotary.org/>

ロータリーのブランドリソースセンター/Rotary Brand Center/ブランドリソースセンターから、ロータリーのロゴ、カスタマイズ可能なテンプレート、ビジュアルアイデンティティのガイドライン、広告、写真、動画などをダウンロードして利用できる。クラブと地区は、ここから独自のロゴやパンフレット、ニュースレター、ちらし、名刺、ウェブサイト、便箋などを作成することも可能である。（ご利用にはログインが必要）。<https://brandcenter.rotary.org/ja-jp/>

ロータリー財団地区補助金とグローバル補助金 授与と受諾の条件/Terms and Conditions for Rotary Foundation District Grants and Global Grants/補助金を受領する条件、それに伴って、守らなければならないことが記載されている。地区補助金とグローバル補助金は共通だが、パッケージ・グラントについては別個の授与と受諾の条件が用意されている。時折、改定されるので、最新のものを参照すること。

【ポリオプラス用語】

ポリオ・ウイルス/Polio Virus/劣悪で管理の行き届かない衛生状態によって急性灰白髄炎（poliomyelitis）を引き起こすウイルス。また、野生型ポリオ・ウイルスとも呼ばれている。

ポリオ常在国/Endemic Country of Poliovirus/ポリオの感染が途切れたことがなく、ポリオ・ウイルスが自然に発生している国を指す。現在ポリオの常在国は、アフガニスタン、パキスタンの2カ国である。最新の情報源（GPEI）：<https://polioeradication.org/this-week/>

ポリオ・プラス/Polio plus/1985年に設置されたロータリー財団プログラムで、ロータリーは、世界ポリオ根絶活動に民間部門による支援を導入した。ポリオを根絶するために世界中の地域で行ってきたボランティア活動に加え、ロータリアンによる寄付額は、世界にポリオがないことが証明されるまでに15億ドル以上に上がると予想されている。ポリオ・プラスの「プラス」は、今後のほかの保健活動に生かすことの出来る全世界ポリオ根絶の遺産を意味している。

世界ポリオ根絶推進活動/Global Polio Eradication Initiation：GPEI

突発的感染の鎮静化から歴史的な節目の実現まで、ロータリーは世界ポリオ根絶推進活動が大きく前進を遂げることを可能にした。そして、2013年、世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）は、2018年を目標にポリオ根絶を目指す包括・戦略的ロードマップとして「ポリオ根絶最終戦略2013-2018」を発表した。

根絶の証明 ポリオフリー（清浄）とポリオ根絶/polio-Free and Polio Eradication/ポリオが根絶されたという世界的な証明が第一目標である。監視活動を通じて、ポリオ・ウイルスの感染が少なくとも1年以上発症しない場合、保健当局がその

<p>地域をポリオ無発生（ポリオフリー）として証明する。2015 年アフリカ大陸がポリオフリーとなった。そして、地球上からポリオの最終発症から 3 年間発症がなければポリオ根絶となる。</p>
<p>全国予防接種日/National Immunization Day:NIDs/定期的な予防接種活動を補足する活動。ポリオ・ウイルスの感染の連鎖を断ち切るために最も高いリスクを抱える年齢層（5 歳未満）のすべての子どもに経口ワクチンを投与し、大規模かつ組織的な予防接種を行う。ポリオ常在国では、通常少なくとも 3 年間、毎年数回にわたって全国予防接種日を定めて実施する。</p>
<p>ビル&メリンダ・ゲイツ財団/Bill & Melinda Gates Foundation ; B & MGF/ビル&メリンダ・ゲイツ財団は、GPEI における最大の民間の資金提供者となっており、ロータリーからポリオ根絶への寄付に対して 2 倍額の上乗せを提供している。また、テクニカルサポート、ならびにポリオワクチン、監視活動、発生への緊急対応を向上させるための調査への投資を行っている。</p>
<p>パートナー/Partner/ポリオ根絶活動は、ロータリー、ユニセフ（UNICEF：国際児童基金）、米国疾病対策センター（CDC）、世界保健機構（WHO）、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gavi ワクチンアライアンス（Gavi The Vaccine Alliance）、各国政府がサポートする「世界ポリオ根絶推進活動」（GPEI）と世界中の支援者によって進められている。</p>
<p>米国疾病対策センター/Centers of Disease Control and Prevention : CDC/ CDC は、疫学者、公衆衛生の専門家、科学者を現地に派遣してポリオ感染の調査、ウイルスの特定、ウイルス起源の特定などを行っている。</p>
<p>ユニセフ/United Nation International Children's Emergency Fund : UNISEF/ ユニセフ（国際連合児童基金）は、ポリオワクチンの購入と配給の管理を行っている。また、予防接種に対する地域社会の理解を得るため、予防接種の重要性について情報を広げている。現場のユニセフワーカーたちは、現地の保健従事者やボランティアとともに子どもへのワクチン投与にあたっている。</p>
<p>世界保健機構/World Health Organization : WHO/WHO は保健省に技術的・運営面でのサポートを提供している。WHO は進捗のモニタリングと戦略計画の立案を担当している。</p>

申請・準備書類 Application and Documents

1. 寄付送金・認証

○寄付送明細書

<https://my.rotary.org/ja/document/piif-contribution-form-rotarians-clubs>

○寄付・認証の手引き

https://piif-rfj.org/pdf/tebiki_kifuninsho.pdf

2. 資格認定（覚書）

○クラブ参加資格認定：覚書(MOU)

<https://www.rid2560niigata.jp/download>

○クラブの参加資格認定 よくある質問

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/document/10021>

3. 補助金申請

○グローバル補助金 授与と受諾の条件

○地区補助金 授与と受諾の条件

<https://www.rid2560niigata.jp/download>

○補助金センターのご利用ガイド

<http://my.rotary.org/ja/document/how-use-grant-center>

○グローバル補助金ガイド

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/document/guide-global-grants>

○モニタリングと評価の計画について

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/document/5676>

○グローバル補助金申請テンプレート

<http://my.rotary.org/ja/document/global-grant-application-template>

○グローバル補助金報告書テンプレート

<http://my.rotary.org/ja/document/global-grant-report-template>

○グローバル補助金計算表

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/document/global-grant-calculator>

[奨学金]

○奨学金の提供

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/take-action/empower-leaders/create-scholarship>

○ロータリー平和フェローシップ

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/take-action/empower-leaders/support-peace-centers>

○ロータリーの学友

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/alumni>

○グローバル補助金奨学生のテンプレート

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/document/global-grant-scholarship-candidate-application-template>

4. その他（プロジェクトのヒント）

○重点分野の基本方針

<http://www.rotary.org/myrotary/ja/document/areas-focus-policy-statements>

○効果的なプロジェクトの立案

<http://my.rotary.org/ja/take-action/develop-projects/project-lifecycle-resources>

○MYROTARY の補助金と専門家グループに関するレポートの利用方法

<https://my.rotary.org/ja/document/using-grants-reports-my-rotary>

5. ラーニングセンター

○地区委員会の基本

https://learn.rotary.org/members/learn/learning_plan/view/157/de-qu-wei-yuan-huino-ji-ben

資料 Materials

- ① 2025-26 年度 クラブの参加資格認定書 一覽書 MOU—
- ② 2025-26 年度 第 2 5 6 0 地区グローバル補助金 DDF 申請書
- ③ 2025-26 年度 地区補助金計画変更申請書
- ④ 2026-27 年度 継続事業事前確認シート
- ⑤ 共同事業合意確認書
- ⑥ 米国財務省外国資産管理局（OFAC）による審査のチェックリスト

以上、資料の内容は随時変更される場合があることをご承知置きください。

ロータリー財団

クラブの参加資格認定：覚書(MOU)

1. クラブの参加資格認定
2. クラブ役員の責務
3. 財務管理計画
4. 銀行口座に関する要件
5. 補助金資金の使用に関する報告
6. 書類の保管
7. 補助金資金の不正使用に関する報告

1. クラブの参加資格認定

クラブは、参加資格の認定を受けるにあたって、ロータリー財団(以下「財団」)から提供されるこの覚書(MOU)に記載された財務と資金管理の要件を遂行すること、および、毎年最低1名のクラブ会員を地区主催の補助金管理セミナーに出席させることに同意しなければならない。クラブがグローバル補助金、企業の社会的責任(CSR)補助金、および大規模プログラム補助金を受領するには、参加資格を認められなければならない。ただし、地区補助金の資金を受領するにあたっては、クラブが資格認定を受けることは義務づけられていない。地区は、クラブの参加資格として追加の要件を定めたり、地区補助金の活用についてもクラブの参加資格認定を義務づけることができる。これらの条件をすべて満たすことにより、クラブの参加資格が認定され、ロータリー補助金への参加が認められる。

- A. 参加資格条件がすべて満たされた場合には、1ロータリー年度にわたり、クラブの補助金への参加資格が認められる。
- B. クラブが認定状況を維持するには、この覚書(MOU)、地区が定めた追加要件、その他該当するすべてのロータリー財団方針を遵守しなければならない。
- C. 資金の管理を誰が行うとしても、クラブが提唱した補助金資金の使用に対しては、クラブが責任を負う。
- D. 以下のような補助金資金の不正使用ならびに不適切な管理(ただし、これらに限られない)が確認された場合、クラブの参加資格が保留、あるいは取り消しとなる場合がある：不正、偽造、会員情報の改ざん、重大な過失、また受益者の健康、福利、安全を脅かす行為、不適切な寄付、私益のための資金使用、利害対立の未開示、個人による補助金資金の独占、報告書の偽造、水増し行為、受益者からの金銭の受領、不法行為、認められていない目的での補助金資金使用。
- E. クラブは、いかなる財務監査、補助金監査、業務監査にも協力しなければならない。

2. クラブ役員の責務

クラブ役員は、クラブの参加資格認定およびロータリー財団補助金の適切な使用について主要な責任を有する。

クラブ役員の責務には以下が含まれる。

- A. クラブの資格認定手続きの遂行と管理、認定状況の維持を担当するクラブ会員を最低1名任命する。
- B. すべてのロータリー財団補助金が、資金管理の方策と適切な補助金管理の慣行に従って管理されるよう確認する。
- C. 補助金に関与するすべての人が、実際の利害の対立や、利害の対立であると認識される事態を避けるように活動するよう確認する。

3. 財務管理計画

クラブは、補助金の一貫した管理を行うために、書面で財務管理計画を作成しなければならない。

財務管理計画には、以下の手続きが含まれていなければならない。

- A. すべての領収書と補助金資金の支払いの記録を含め、標準的な会計基準に則って会計を維持する。
- B. 必要に応じて、補助金の資金を支払う。
- C. 資金の取り扱いは、複数の人で分担する。
- D. 補助金で購入した備品・設備やその他の財産の目録システムを確立し、補助金関連活動のために購入したもの、作られたもの、配布されたものの記録を付ける。
- E. 資金の換金等を含む全補助金活動が、現地の法律や規制を順守したものであることを確認する。

4. 銀行口座に関する要件

補助金資金を受け取るには、ロータリー財団の補助金資金の受領と支払いのみを目的とする口座をクラブが設けなければならない。

- A. クラブの銀行口座は以下を満たしていなければならない。
 - 1. 資金の支払いには、クラブの少なくとも2名のロータリー会員が署名人となること。
 - 2. 低金利、または無金利の口座であること。
- B. 利子が生じた場合には、すべて書類に記録し、承認された補助金活動に使用するか、ロータリー財団に返還しなければならない。
- C. クラブが提唱する各補助金につき、別個の口座を開設し、口座名は、補助金用であることが明らかに分かるものとすべきである。
- D. 補助金は、投資用口座に預金してはならない。これには、投資信託、譲渡性預金、債権、株の口座が含まれる(ただし、これらに限られない)。
- E. ロータリー財団補助金資金の受領および使用を裏付ける銀行明細書をいつでも提示できるようにしておかなければならない。
- F. クラブは、署名人の交代に備えて、銀行口座の管理責任の引継ぎ計画書を作成し、保管しなければならない。

5. 補助金資金の使用に関する報告

クラブは、ロータリー財団のすべての報告要件に従わなければならない。補助金に関する報告を通じて、ロータリー財団は補助金の使用状況を知ることができる。このため、この報告は補助金の資金管理の重要な部分である。

6. 書類の保管

クラブは、参加資格認定とロータリー財団補助金に関連する重要書類を保存するための、適切な記録管理システムをつくり、これを維持しなければならない。これらの書類を保管することにより、補助金管理の透明性が保たれるとともに、監査や財務評価の準備に役立つ。

- A. 保管する必要のある書類には、以下が含まれる(ただし、これらに限られない):
 - 1. 銀行口座に関する情報(過去の銀行明細書を含む)。
 - 2. 署名入りのクラブの覚書(MOU)を含む、クラブの参加資格認定に関する書類。
 - 3. 計画や手続きを記載した書類。これには以下が含まれる。
 - a. 財務管理計画書
 - b. 書類の保存と保管の手続き
 - c. 銀行口座署名人の引継ぎ計画書、および銀行口座の情報と書類の保管
 - 4. 購入したすべてのものの領収書と請求書を含む、補助金に関連する情報
- B. クラブの記録は、クラブのロータリー会員が、または地区が要請した場合は地区が、閲覧、入手できるようにしなければならない。
- C. 書類は、少なくとも5年間、もしくは国や地域の法律によってはそれ以上の期間、保管しなければならない(日本の場合、グローバル補助金奨学金に関する書類は10年間保管しなければならない)。

7. 補助金資金の不正使用に関する報告

補助金資金の不正使用や不適切な管理があった場合、またはそう疑われる場合には、クラブはこれを地区に報告しなければならない。このような報告により、補助金資金の不正使用が絶対に許されないという環境をクラブ内に作り出すことができる。

承認と同意

この覚書(MOU)は、クラブと地区の間に交わされる同意書であり、補助金活動の適切な管理と財団補助金資金の適切な管理を行うための措置をクラブが取ることを認めるものである。この文書を承認することにより、クラブは、この覚書(MOU)に記載されたすべての条件と要件に従うことに同意する。

_____ロータリークラブ／ローターアクトクラブを代表し、下記署名人は、_____ロータリー年度、この覚書(MOU)に記載されたすべての条件と要件に従い、これらの要件に関してクラブの方針や手続に変更や修正があった場合には、国際ロータリー第_____地区に通知することに同意する。

クラブ会長	
就任年度	
氏名	
署名	
日付	

クラブ会長エレクト	
就任年度	
氏名	
署名	
日付	

グローバル補助金 D D F 申請書

(人道的プロジェクト)

グローバル補助金による人道的プロジェクトの提唱者は、ロータリー財団への申請に先立ち、活動計画と目的、資金調達計画等のプロジェクト概要を地区ロータリー財団委員会に提出し、D D Fからの拠出金の配分について、承認を得る必要があります。プロジェクトの概要には、以下の項目を含めることが必要です。

※日本語のみで記入してください。地名・個人名等はカタカナでルビを付けてください。

D D F 申請クラブ	R C
区分（どちらかに○）	代表提唱者・調達資金提唱者
D D F 調達資金申請金額	\$

I. 概要

プロジェクト名			
プロジェクト番号		G G	
1	実施国（被援助国）提唱者に関する情報		
	クラブ名	ロータリークラブ	
	地区		
	代表連絡担当者氏名		
	E-Mail		
	電話		
2	援助国（実施国外）提唱者に関する情報		
	クラブ名	ロータリークラブ	
	地区		
	代表連絡担当者氏名		
	E-Mail		
	電話		
3	プロジェクト開始日	20	年 月 日
4	プロジェクト完了予定日	20	年 月 日
5	プロジェクト実施地	地区： 国名： 市区町村名：	
6	重点分野	<input type="checkbox"/> 平和構築と紛争予防 <input type="checkbox"/> 疾病予防と治療 <input type="checkbox"/> 水と衛生 <input type="checkbox"/> 母子の健康 <input type="checkbox"/> 基本的教育と識字率向上 <input type="checkbox"/> 地域社会の経済発展 <input type="checkbox"/> 環境	

7	受益地域社会の概要説明	
8	受益地域社会に存在するニーズ	
9	現在これらのニーズに対して地元団体、自治体、NGO が対応している状況	
10	提案する活動内容（取組むニーズ、目標、受益者、地域社会にもたらす成果・恩恵など）	
11	提案する活動に関与する協力組織、または大学（あればすべて）	
12	受益社会の人々が当該プロジェクトにどのように関与するか具体例	
13	受益社会がこのような活動を希望している理由	
14	活動が重点分野の目標達成にどのように関係するか	
15	期待される成果の測定法、ならびに長期的成果	
16	活動とその成果を持続可能なものとするためにそれぞれの関係者はどのように対応するか	
17	ロータリアンの役割 (貴クラブ会員は何をするのか… 資金調達以外の活動を具体的に)	

Ⅱ. 支出予算（米ドル）（費目を書ききれないときは欄を追加してください）

1		
2		
3		
合計		

Ⅲ. 調達資金（米ドル）（費目を書ききれないときは欄を追加してください）

1	現金 D D F 申請クラブからの拠出額	
2	現金 他の援助国提唱者からの拠出額	
3	現金 被援助国提唱者からの拠出額	
現金拠出金額 (1+2+3)		小計 (a)
4	D D F 2560 地区からの拠出額（申請額）	

5	DDF 他地区からの拠出額	
DDF 拠出金額 (4+5)		小計 (b)
6	WFからの上乗せ申請金額 最大 (b) × 80%	(c)
合計 (a) + (b) + (c) (支出合計額と一致)		

IV. プロジェクト連絡担当者 (2名選出ください)

連絡担当者名	クラブでの役職	電話番号
正)		
副)		

V. クラブの確認 ※署名・日付は、罫線の上にご記入下さい

地区の大切な資金ですので地区からの要請があった場合、地区財団セミナー等においてプロジェクトの成果を発表します。

ロータリークラブ名 _____ クラブ連絡先電話番号 _____

会長の署名 幹事の署名 日付

VI. 地区セミナー発表者 (1名選出ください)

セミナー発表者	クラブでの役職	電話番号

【DDF調達資金承認金額】

\$ _____

地区補助金委員長 _____

地区補助金委員長署名 承認日

地区ロータリー財団委員長 _____

地区ロータリー財団委員長署名 承認日

地区ガバナー _____

地区ガバナー署名 承認日

2024/08/01 改訂

国際ロータリー第2560地区 ロータリー財団 地区補助金計画変更申請書

○2025-26年度申請の下記ロータリー財団補助金プロジェクトの変更を申請いたします。

1. 概要

申請クラブ名	
補助金申請額	¥0
プロジェクト名	
活動の種類	①地域社会の発展 ②教育 ③保健 ④環境 ⑤その他
プロジェクト概要	
実施予定日	(西暦) 年 月 日 から 年 月 日
実施場所	
協力団体	
計画変更内容	
変更理由	

2. プロジェクト

目 的	
受益者の特定	
ニーズの確認	
ロータリアンの参画	
成果の確認	
広報活動	

寄 贈	(該当する場合のみ記入)
-----	--------------

3. 予 算

*プロジェクトにかかわる全ての予算額(すべて消費税込みの円表示)を記入してください。なお、内訳が不明な費用(例えば予備費、消耗費等)やロータリアンの飲食代は本申請書には計上することができません。

*予算の根拠となるクラブ宛の見積書(税込)の添付が必要となります。但し、見積先にロータリアンが所属する企業が含まれる場合には、所属の有無の欄にチェックのうえ相見積書の添付が必要となります。

	内 訳	金 額(日本円)	ロータリアン 所属の有 無
見 積 予 算 額			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>
		合 計(日本円)	¥0
所 要 資 金	補助金申請額(\$) (申請時レート1\$: 円)		
	クラブ資金		
	その他の資金 (該当する場合のみ具体的内容を記入)		
		合 計(日本円)	

4. クラブ連絡担当者

*本プロジェクトに関する連絡担当者およびその補佐としてクラブから2名のロータリアンを選任し、各担当者の連絡先を記入してください。

連絡 担当 者	氏 名		クラブの役職	
	携帯番号		電話番号	
	メールアドレス		FAX番号	
連絡 担当 補佐	氏 名		クラブの役職	
	携帯番号		電話番号	
	メールアドレス		FAX番号	

5. クラブ会長による承認

*当クラブにおいて本申請内容にて地区補助金プロジェクトを実施することを決定しました。プロジェクトの活動にあたっては当クラブが責任をもって本申請書の通り実行し、その結果について地区ロータリー財団委員会に対して報告する義務を負います。

<実施年度 会長>

(署名) _____ (日付) _____

**2026－27年度 国際ロータリー第2560地区
地区補助金 継続事業事前確認シート**

【申請年月日（西暦表示） 年 月 日 】

【申請クラブ名】 ロータリークラブ

【申請責任者】 ■氏 名.....

■クラブ役職.....

■連絡先

住所 :

電話番号 :

携帯番号 :

e-mail :

項目	内容
申請年度会長名	
実施年度会長名	
プロジェクト名	
事業概要	<p>【目的】</p> <p>【事業概要】</p>
継続事業の必要性	

継続年度	2026-27 年度から（2027-28 年度、2028-29 年度） ヶ年度間 ※連続 3 ヶ年度間を上限とする。
持続可能性※	 ※記入は、必須ではありません。

※ロータリーの「持続可能性」について

「持続可能性」の定義は組織によって異なりますが、ロータリーでは「補助金資金が全て使用された後にも、地域社会の人びとが自力で地元のニーズを満たしていけるような長期的な解決策を提供すること。」と定義しています。短期的な対処療法ではなく、また、提唱者の自己満足で終わることのないプロジェクトの実施が求められます。

【財団委員会意見欄】

（受付 年 月 日）

結果	認定 ・ 保留 ・ その他（ ）
認定の条件	
備考	

〈認定者〉

認定日 年 月 日
国際ロータリー第 2 5 6 0 地区

補助金委員会委員長

（結果通知 年 月 日）

【地区補助金】

国際ロータリー第2560地区 共同プロジェクト合意確認書

このたび2025－26年度において、下記の通り共同で地区補助金対象のプロジェクトを実施します。つきましては事業について関係クラブが合意しましたことを報告いたします。

記

プロジェクト名	
代表提唱クラブ名	_____ロータリークラブ
共同提唱クラブ名	<div> <div>_____ロータリークラブ</div> <div>_____ロータリークラブ</div> <div>_____ロータリークラブ</div> <div>_____ロータリークラブ</div> <div>_____ロータリークラブ</div> <div>_____ロータリークラブ</div> </div>
	計 クラブ
地区補助金について (US \$ 表示)	<div>地区補助金申請合計額 \$ _____</div> <div>地区補助金申請合計額の内訳</div> <div> <div>_____ロータリークラブ \$ _____</div> <div>_____ロータリークラブ \$ _____</div> <div>_____ロータリークラブ \$ _____</div> <div>_____ロータリークラブ \$ _____</div> <div>_____ロータリークラブ \$ _____</div> <div>_____ロータリークラブ \$ _____</div> </div>

【代表ロータリークラブ申請年度会長】

_____ロータリークラブ

(署名) _____ (西暦日付) ____/____/____

【代表ロータリークラブ実施年度会長】

_____ロータリークラブ

(署名) _____ (西暦日付) ____/____/____



米国財務省外国資産管理局 (OFAC) による審査の チェックリスト

補助金番号: _____

プロジェクト実施国: _____

資金額 (米ドル): _____

資金の使途: _____

TRF からの最初の支払先 (留意事項: 本フォームに Routing 番号や口座番号は記入しないでください)

ロータリークラブ名または地区番号: _____

クラブ / 地区の銀行または金融機関の名称: _____

銀行の住所: _____

銀行口座の名義: _____

口座の署名人の氏名: _____

受領先となる受益者

資金、物資、サービスを受領する組織名 (例: 病院) または
個人名 (例: 奨学生): _____

組織の場合、代表者の氏名: _____

住所: _____

Eメール: _____

ウェブサイトアドレス (ある場合): _____

受領先となるその他の受益者 (該当する場合)¹

資金、物資、サービスを受領する組織名 (例: 病院) または
個人名 (例: 奨学生): _____

組織の場合、代表者の氏名: _____

住所: _____

Eメール: _____

¹ 適宜欄を追加してください。

ウェブサイトアドレス(ある場合): _____

プロジェクト実施国におけるプロジェクトのパートナー／協力団体

組織名: _____

代表者の氏名: _____

住所: _____

Eメール: _____

ウェブサイトアドレス(ある場合): _____

プロジェクト実施国におけるその他のプロジェクトのパートナー／協力団体(該当する場合)¹

組織名: _____

代表者の氏名: _____

住所: _____

Eメール: _____

ウェブサイトアドレス(ある場合): _____

プロジェクトの資材・備品の購入先となる、プロジェクト実施国の業者

組織名または個人名: _____

組織の場合、代表者の氏名: _____

住所: _____

Eメール: _____

ウェブサイトアドレス(ある場合): _____

プロジェクトの資材・備品の購入先となる、プロジェクト実施国のその他の業者(該当する場合)¹

組織または個人名: _____

組織の場合、代表者の氏名: _____

住所: _____

Eメール: _____

ウェブサイトアドレス(ある場合): _____

¹ 適宜欄を追加してください。